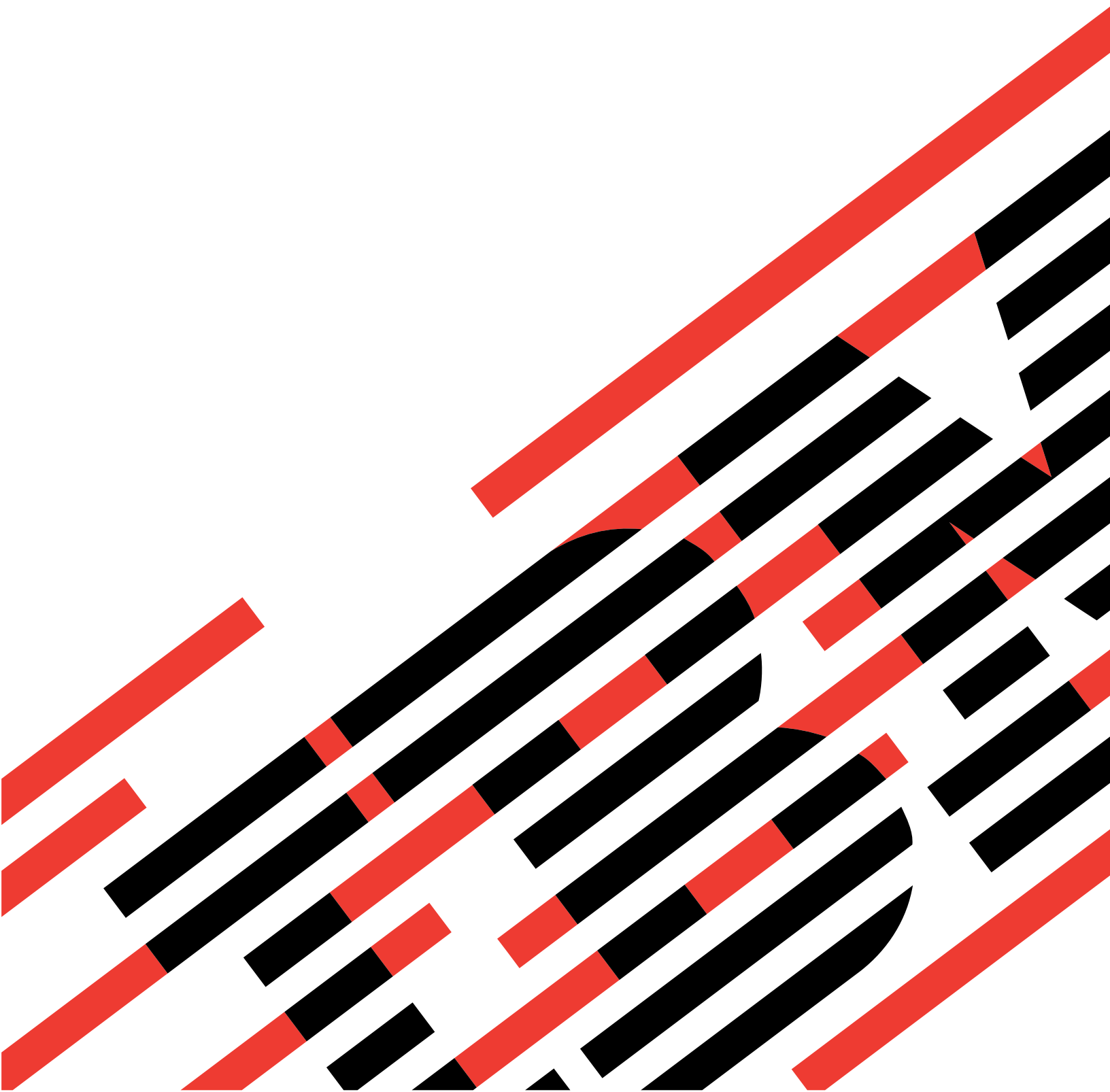




IBM Systems - iSeries

Advanced Job Scheduler for iSeries コマンド

バージョン 5 リリース 4





IBM Systems - iSeries

Advanced Job Scheduler for iSeries コマンド

バージョン 5 リリース 4

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、179 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、Advanced Job Scheduler for iSeries (プロダクト番号 5722-JS1) のバージョン 5、リリース 4、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM Systems - iSeries
Advanced Job Scheduler for iSeries Commands
Version 5 Release 4

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2006.2

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2006. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2006

目次

JSを使用したジョブの追加 (ADDJOBJS)	1	JSからのログ項目の除去 (RMVLOGEJS)	113
JS使用のジョブ権限の変更 (CHGAUTJS)	29	JSを使用したジョブ名前変更 (RNMJOBJS)	115
パラメーター・データの変更 (CHGDTAJS)	33	コンソール・コマンドの投入 (SBMCMDJS)	119
JSを使用したジョブの変更 (CHGJOBJS)	35	JS使用のジョブの投入 (SBMJOBJS)	121
通知コマンドの変更 (CHGNFYJS)	65	JS使用の依存ジョブの設定 (SETDEPJS)	143
JS使用ポケット・ベル変更コマンド (CHGPGRJS)	67	JSを使用したステップの設定 (SETSTPJS)	147
JS使用のジョブのコピー (CPYJOBJS)	69	JSを使用した配布の送信 (SNDDSTJS)	149
JSを使用した履歴の表示 (DSPHSTJS)	75	JSを使用した報告書の送信 (SNDRPTJS)	157
JSを使用したジョブの表示 (DSPJOBJS)	81	JSを使用したグループの開始 (STRGRPJS)	159
ジョブ・スケジューラーのログ表示 (DSPLOGJS)	91	ジョブ・スケジューラー開始 (STRJS)	163
ジョブ・スケジューラー終了 (ENDJS)	97	JSを使用した履歴の処理 (WRKHSTJS)	165
JSを使用したジョブの保留 (HLDJOBJS)	99	JSを使用したジョブの処理 (WRKJOBJS)	171
JS使用のスケジュールの印刷 (PRTSCDJS)	101	付録. 特記事項	179
JSを使用したジョブの解放 (RLSJOBJS)	105		
JSを使用した履歴の除去 (RMVHSTJS)	107		
JSを使用したジョブの除去 (RMVJOBJS)	111		

JSを使用したジョブの追加 (ADDJOBJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用したジョブの追加(ADDJOBJS)コマンドでは、ジョブ・スケジュールに項目を追加することによりバッチ・ジョブをスケジュールすることができます。ジョブは、単一ジョブ、ジョブのグループのメンバー、またはアプリケーションとすることができます。このコマンドを使用することにより、指定するスケジュール・コードに基づいて通常の間隔などで、1回だけ投入されるバッチ・ジョブをスケジュールすることができます。ユーザー定義の予定表、休日例外予定表、および会計年度予定表でジョブをスケジュールすることができます。

ジョブ・スケジュール項目の中には、処理するコマンド、ジョブの実行の元になるジョブ記述およびユーザー・プロファイル、ジョブが投入されるジョブ待ち行列、メッセージが送られるメッセージ待ち行列など、ジョブを投入するのに必要なすべての情報が含まれています。

指定した日付および時刻、またはADVANCED JOB SCHEDULERが計算する日付および時刻に、ジョブは指定されたジョブ待ち行列に投入されます。ただし、このコマンドはスケジュールされた時刻にジョブが実行を開始することを保証するものではありません。ジョブ待ち行列が保留されているか非活動のサブシステムに接続されていたり、あるいはサブシステムまたはシステム上で一度に実行できる活動ジョブが最大数に達している場合には、ジョブは実行を開始しません。

各ジョブ・スケジュール項目はユーザー定義ジョブによって識別され、このコマンドのジョブ項目 (JOB) パラメーターとして指定されます。

制約事項:

- ジョブ記述およびユーザー・プロファイルに対する使用(*USE)権限が必要です。
- メッセージ待ち行列に対する*USEおよび追加(*ADD)権限が必要です。
- ジョブ待ち行列および指定されたオブジェクトと関連したすべてのライブラリーに対する読み取り(*READ)権限が必要です。
- *ADDJOB機能に対する*USE権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ項目	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: ジョブ	名前	
	要素 2: グループ	名前, *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, *NONE	
APP	アプリケーション	名前, *NONE, *JOBCTL	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
SCDCDE	スケジュール・コード	<u>*DAILY</u> , *CALENDAR, *DATE, *DAY, *NUMDAY, *MINUTES, *ONCE, *MONTHEND, *FIRST, *SECOND, *THIRD, *FOURTH, *FIFTH, *LAST, *FIRSTWRK, *LASTWRK, *ALTERNATE, *NONE, *JOBCTL	オプション
TIME	スケジュール時刻	値 (最大 10 回の繰り返し): 0-2400	オプション
ITVMIN	間隔	1-720	オプション
CAL	予定表	名前, *NONE, <u>*JOBCTL</u>	オプション
HDYCAL	休日予定表	名前, *NONE, <u>*JOBCTL</u>	オプション
FSCCAL	会計予定表	名前, *NONE, <u>*JOBCTL</u>	オプション
DAY	曜日	単一値: <u>*ALL</u> , *NONE その他の値 (最大 7 回の繰り返し): *MON, *TUE, *WED, *THU, *FRI, *SAT, *SUN	オプション
SNGDAY	単一曜日	*MON, *TUE, *WED, *THU, *FRI, *SAT, <u>*SUN</u>	オプション
ITVDAY	間隔	1-99	オプション
DATE	年間の日付	値 (最大 13 回の繰り返し): 10 進数	オプション
SNGDATE	単一日付	10 進数, <u>*NEXT</u>	オプション
SAVE	保管	<u>*YES</u> , *NO	オプション
DAYMONTH	月間の日付	値 (最大 13 回の繰り返し): 1-31	オプション
WRKDAY	作業日	<u>*NO</u> , *YES	オプション
FSCPERIOD	会計期間	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 13 回の繰り返し): 1-13	オプション
TEXT	テキスト	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
CMD	コマンド要求	コマンド・ストリング	オプション
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション名	名前, <u>*JOBCTL</u> , *LCL	オプション
RANGE	スケジュール範囲	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	0-2400, <u>*NONE</u>	
	要素 2: 開始日	文字値, <u>*NONE</u>	
	要素 2: 終了時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	0-2400, <u>*NONE</u>	
	要素 2: 終了日	文字値, <u>*NONE</u>	
MAXRUN	最大実行時間	1-9999, <u>*NOMAX</u>	オプション
PGRRCPNORM	通知 (正常)	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 通知の宛先	名前, <u>*JOBCTL</u> , *ONCALL	
	要素 2: 通知メッセージ	文字値, <u>*JOBCTL</u> , *COMP	
PGRRCPABN	通知 (異常)	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 通知の宛先	名前, <u>*JOBCTL</u> , *ONCALL	
	要素 2: 通知メッセージ	文字値, <u>*JOBCTL</u> , *COMP	
PGRRCPSTR	通知開始ジョブ	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 通知の宛先	名前, <u>*JOBCTL</u> , *ONCALL	
	要素 2: 開始限界	1-999, <u>*JOBCTL</u>	

キーワード	記述	選択項目	注
ALTJOB	代替ジョブ	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ジョブ	名前	
	要素 2: グループ	名前, *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, *NONE	
RPTDSTID	報告書配布ID	名前, *NONE	オプション
RCYACN	回復処置	*JOBCTL, *SBMRLS, *SBMHLD, *NOSBM	オプション
JOBDD	ジョブ記述	単一値: *JOBCTL, *USRPRF その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
JOBQ	ジョブ待ち行列	単一値: *JOBCTL, *JOBDD その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
JOBPTY	ジョブ優先順位(JOBQ上)	1-9, *JOBCTL, *JOBDD	オプション
OUTPTY	出力優先順位(OUTQ上)	1-9, *JOBCTL, *JOBDD	オプション
PRTDEV	印刷装置	名前, *JOBCTL, *CURRENT, *USRPRF, *SYSVAL, *JOBDD	オプション
OUTQ	出力待ち行列	単一値: *JOBCTL, *USRPRF, *DEV, *JOBDD その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
USER	ユーザー	名前, *JOBCTL, *CURRENT, *JOBDD	オプション
PRTTXT	印刷テキスト	文字値, *JOBCTL, *BLANK, *JOBDD, *SYSVAL	オプション
RTGDTA	経路指定データ	文字値, *JOBCTL, *JOBDD	オプション
CURLIB	現行ライブラリー	名前, *JOBCTL, *USRPRF, *CRTDFT	オプション
LIBL	ライブラリー・リスト	名前, *JOBCTL, *JOBDD, *SYSVAL, *NONE	オプション
LOG	メッセージ・ロギング	要素リスト	オプション
	要素 1: レベル	0-4, *JOBCTL, *JOBDD	
	要素 2: 重大度	0-99, *JOBCTL, *JOBDD	
	要素 3: テキスト	*JOBCTL, *JOBDD, *MSG, *SECLVL, *NOLIST	
LOGCLPGM	CLプログラム・コマンドのログ	*JOBCTL, *JOBDD, *YES, *NO	オプション
INQMSGRPY	照会メッセージに対する応答	*JOBCTL, *JOBDD, *RQD, *DFT, *SYSRPLY	オプション
HOLD	ジョブ待ち行列上での保留	*JOBCTL, *JOBDD, *YES, *NO	オプション
SWS	ジョブ・スイッチ	文字値, *JOBCTL, *JOBDD	オプション
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *JOBCTL, *USRPRF, *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ACGCDE	会計コード	文字値, *JOBCTL, *JOBDD, *USRPRF, *BLANK	オプション
RUNPTY	実行優先順位	01-99, *JOBCTL, *NOCHG	オプション
INLSPGRP	初期ASPグループ	名前, *JOBCTL, *CURRENT, *JOBDD, *NONE	オプション
ADLCMD	追加のコマンド	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション

ジョブ項目 (JOB)

ジョブ・スケジュール項目の名前を示します。すべてのジョブにジョブ名を指定しなければなりません。さらに、そのジョブが属しているグループを、グループ内でのそのジョブの順序番号とともに指定することもできます。

グループの最初のジョブは順序番号1でなければなりません。後続の順序番号は間隔をあけておき（10、20、30など）、必要な場合にはジョブを挿入できるようにしておく必要があります。

これは必須パラメーターです。

要素1: ジョブ

名前 ジョブ・スケジュール項目のユーザー定義名を指定してください。

要素2: グループ

*NONE

ジョブはグループに割り当てられていません。

名前 ジョブが属するグループのユーザー定義名を指定します。

要素3: グループ順序

*NONE

ジョブに割り当てられる順序番号はありません。

1から99

グループ内のジョブの順序番号を指定します。

アプリケーション (APP)

ジョブ(JOB)パラメーターに指定されているジョブが属しているアプリケーションの名前を示します。

*JOBCTL

ジョブ制御に指定されているアプリケーションが、このジョブのアプリケーションとして使用されます。

*NONE

このジョブにはアプリケーションが指定されていません。

名前 追加するジョブが属しているアプリケーションの名前を指定します。

スケジュール・コード (SCDCDE)

ジョブに割り当てたいスケジュール・コードを指定します。

注: スケジュール・コードの選択の結果としてジョブを実行する日は、予定表フィールドの1つで予定表を選択することによって変更することができます。予定表の検討は、ジョブ制御(JSJOBCTL)メニューに進み、検討したい予定表タイプを選択することによって実行することができます。

***DAILY**

ジョブは、毎日または選択した曜日に毎週実行するようにスケジュールされます。たとえば、水曜日にだけ実行したり、週のすべての曜日に実行するようにスケジュールできます。

***CALENDAR**

ジョブをスケジュールするために予定表を使用します。予定表は「予定表の処理」画面で指定します。

***DATE**

ジョブは1年を通じて特定の日付に実行するようスケジュールされます。これらはシステム値に応じて月日(MMDD)または日月(DDMM)の形式でシステムに保管され、指定の日付に投入されます。13個までの日付をスケジュールできます。

***DAY** ジョブは毎月の予定表上の特定の日に実行されます。これらは日(DD)の形式で入力します。

***NUMDAY**

ジョブは指定の日数ごとに実行されます。指定できる日数の範囲は1から99です。

注: 実行のためにスケジュールされた時刻が現在時刻より大きい場合は、その時刻をADVANCED JOB SCHEDULERは丸1日としてカウントします (隔日の5:00 P.M.に実行するために月曜日の3:00 P.M.にADVANCED JOB SCHEDULERジョブを入力した場合は、ジョブが最初に実行されるのは火曜日の5:00 P.M.になります)。

***MINUTES**

ジョブは指定された分数ごとに実行されます。分数は間隔(ITVMIN)パラメーターに指定されている分数に基づきます。

***ONCE**

ジョブは1回だけ実行されます。保管(SAVE)パラメーターは、ジョブの実行後にそのジョブを保管する(*YES)かまたは削除する(*NO)かを指示します。ジョブ・グループの場合には、SAVEパラメーターは表示されず、保管(*YES)とみなされます。ジョブの実行がスケジュールされている日を、単一日付(SNGDATE)パラメーターに指定します。この日付をブランクのままにすると、スケジュール時刻に達した時にジョブが実行されます。

***MONTHEND**

ジョブは月の最後の日に実行されます。

***FIRST**

ジョブは毎月または指定された会計期間の最初の指定曜日に実行されます。このオプションは、単一曜日(SNGDAY)パラメーターと一緒に使用されます。たとえば、SNGDAYパラメーターに*TUEを指定すると、ジョブには毎月第1火曜日の実行がスケジュールされます。

***SECOND**

ジョブは毎月または指定された会計期間の2番目の指定曜日に実行されます。このオプションは、SNGDAYパラメーターと一緒に使用されます。たとえば、SNGDAYパラメーターに*TUEを指定すると、ジョブには毎月第2火曜日の実行がスケジュールされます。

***THIRD**

ジョブは毎月または指定された会計期間の3番目の指定曜日に実行されます。このオプションは、SNGDAYパラメーターと一緒に使用されます。たとえば、SNGDAYパラメーターに*TUEを指定すると、ジョブには毎月第3火曜日の実行がスケジュールされます。

***FOURTH**

ジョブは毎月または指定された会計期間の4番目の指定曜日に実行されます。このオプションは、SNGDAYパラメーターと一緒に使用されます。たとえば、SNGDAYパラメーターに*TUEを指定すると、ジョブには毎月第4火曜日の実行がスケジュールされます。

***FIFTH**

ジョブは毎月または指定された会計期間の5番目の指定曜日に実行されます。このオプションは、SNGDAYパラメーターと一緒に使用されます。たとえば、SNGDAYパラメーターに*TUEを指定すると、ジョブには毎月第5火曜日の実行がスケジュールされます。

注: 5番目のオカレンスがない月の場合は、ジョブは実行されず、選択された曜日に5番目のオカレンスがある次の月での実行がスケジュールされます。

***LAST**

ジョブは毎月または指定された会計期間の最後の指定曜日に実行されます。このオプションは、SNGDAYパラメーターと一緒に使用されます。たとえば、SNGDAYパラメーターに*TUEを指定すると、ジョブには毎月最終火曜日の実行がスケジュールされます。

***FIRSTWRK**

ジョブは毎月または指定された会計期間の最初の作業日に実行されます。このオプションはシステム制御中の「作業日」フィールドと一緒に使用されます。

***LASTWRK**

ジョブは毎月または指定された会計期間の最後の作業日に実行されます。このオプションはシステム制御中の「作業日」フィールドと一緒に使用されます。

***ALTERNATE**

ジョブは、正規のジョブが異常終了して、このジョブがその代替ジョブとして定義された場合に実行されます。

***NONE**

このジョブはスケジュール済みジョブではありません。これは、投入を待機中のグループ・ジョブのメンバー、先行ジョブの実行を待機中のジョブ、またはユーザーの手操作による投入を待機中のジョブとすることができます。

注: スケジュール・コード*NONEは、V4R2より前のリリースで使用されたスケジュール・コード*DEPJOBと置き換えられます。

***JOBCTL**

ジョブは、ジョブ制御に指定されたスケジュール・コードに基づいて実行をスケジュールされます。

トップ

スケジュール時刻 (TIME)

指定した日にジョブを実行したい時刻(1つまたは複数)を指定します。時刻は時分(HHMM)の形式で入力し、その範囲は0001から2400(深夜)にできます。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

0から2400

ADVANCED JOB SCHEDULERがジョブを投入する時刻を指定します。

トップ

間隔 (ITVMIN)

*MINUTESスケジュール・コードとともに間隔として使用したい分数を指定します。このフィールドは *MINUTESスケジュール・コードを使用する場合には必須です。

1から720

ジョブを投入する間隔の分数を指定します。

[トップ](#)

予定表 (CAL)

ジョブで使用したい予定表の名前を指定します。予定表は、*NONE, *ALTERNATE,および*NUMDAYを除いたすべてのスケジュール・コードとともに使用できるユーザー定義の曜日または日付のセットです。予定表によって、通常にスケジュールされた日付の他に、複数の日付をスケジュールに追加することができます。

***JOBCTL**

このジョブで使用される予定表はジョブ制御に指定されている予定表です。

***NONE**

このジョブは予定表を使用しません。

名前 このジョブで使用したい予定表の名前を指定してください。

[トップ](#)

休日予定表 (HDYCAL)

ジョブで使用したい休日予定表の名前を示します。休日予定表はユーザー定義による除外曜日または除外日付のセットです。これを使用して、ジョブを処理するかどうかを決定することができます。

***JOBCTL**

ジョブ制御の休日予定表に指定されている値がこのジョブで使用されます。

***NONE**

このジョブは休日予定表を使用しません。

名前 このジョブに使用したい休日予定表の名前を指定してください。

[トップ](#)

会計予定表 (FSCCAL)

ジョブ(JOB)パラメーターに指定されているジョブで使用したい会計年度予定表の名前を指定します。会計年度予定表は各期間の開始日付および終了日付がある12または13の期間で構成されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御の会計予定表に指定されている値がこのジョブで使用されます。

***NONE**

このジョブには会計予定表はありません。

名前 このジョブに使用したいユーザー定義の会計年度予定表の名前を指定します。

[トップ](#)

曜日 (DAY)

このジョブを処理したい日を示します。日は***DAILY**および***MINUTES**スケジュール・コードまたは1より大きい順序番号をもつジョブ・グループと一緒に使用されます。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

***ALL** ジョブはすべての曜日に実行されます。

***MON** ジョブは月曜日に実行するようにスケジュールされます。

***TUE** ジョブは火曜日に実行するようにスケジュールされます。

***WED** ジョブは水曜日に実行するようにスケジュールされます。

***THU** ジョブは木曜日に実行するようにスケジュールされます。

***FRI** ジョブは金曜日に実行するようにスケジュールされます。

***SAT** ジョブは土曜日に実行するようにスケジュールされます。

***SUN** ジョブは日曜日に実行するようにスケジュールされます。

[トップ](#)

単一曜日 (SNGDAY)

このジョブを処理したい曜日を示します。曜日は***FIRST**, ***SECOND**, ***THIRD**, ***FOURTH**, ***FIFTH**,および***LAST**スケジュール・コードとともに使用されます。

注: ***SUN**は, ***FIRST**, ***SECOND**, ***THIRD**, ***FOURTH**, ***FIFTH**,または***LAST**を指定した場合の省略時の曜日です。

***SUN** ジョブは日曜日に実行するようにスケジュールされます。

***MON** ジョブは月曜日に実行するようにスケジュールされます。

***TUE** ジョブは火曜日に実行するようにスケジュールされます。

***WED** ジョブは水曜日に実行するようにスケジュールされます。

***THU** ジョブは木曜日に実行するようにスケジュールされます。

***FRI** ジョブは金曜日に実行するようにスケジュールされます。

***SAT** ジョブは土曜日に実行するようにスケジュールされます。

[トップ](#)

間隔 (ITVDAY)

NUMDAY**スケジュール・コードとともに間隔として使用したい日数を指定します。このフィールドはNUMDAY**スケジュール・コードには必須です。

1から99

ジョブの投入間隔の日数を指定してください。

[トップ](#)

年間の日付 (DATE)

ジョブの処理がスケジュールされている日付を指定します。日付はシステム値に応じて月日(MMDD)または日月(DDMM)の形式で入力します。DATEパラメーターは、スケジュール・コード(SCDCDE)パラメーターに値*DATEが入っている時に必要です。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

日付 ジョブが投入される日付を指定します。

[トップ](#)

単一日付 (SNGDATE)

ジョブの処理がスケジュールされている日付を指定します。日付は、システム形式に応じて月日(MMDD)または日月(DDMM)の形式で入力します。SNGDATEパラメーターは、スケジュール・コード(SCDCDE)パラメーターに*ONCEが入っている時に使用されます。

*NEXT

ジョブは次の予定時刻に処理されます。

日付 ジョブが投入される単一日付を指定してください。

[トップ](#)

保管 (SAVE)

ジョブがその実行後に保管されるかどうかを指定します。SAVEパラメーターは、*ONCEスケジュール・コードと一緒に使用されます。

***YES** ジョブは実行後にADVANCED JOB SCHEDULERに保管されます。

***NO** ジョブは実行後にADVANCED JOB SCHEDULERによって削除されます。

[トップ](#)

月間の日付 (DAYMONTH)

このジョブを処理したい月内の日付を示します。月内の日付は*DAYスケジュール・コードと一緒に使用されます。

このパラメーターには13個の値を指定できます。

1から31

ジョブを処理したい月内の日付を指定します。

[トップ](#)

作業日 (WRKDAY)

月間の日付(DAYMONTH)パラメーターまたは間隔(ITVDAY)パラメーターに指定された日が作業日であるかどうかを指定します。作業日はそれぞれ*DAYおよび*NUMDAYスケジュール・コードと一緒に使用されます。たとえば、*DAYスケジュール・コードの使用時に、DAYMONTH(05 10)およびWRKDAY(*YES)を指定した場合は、ジョブは毎月5番目と10番目の作業日に実行されます。*NOを指定した場合には、ジョブはそれぞれ月の5番目と10番目のカレンダー日付に実行されます。作業日はシステム制御に指定されます。

*NUMDAYスケジュール・コードを使用していた場合には、選択する間隔は作業日または暦日に基づいたものとなり、これは、WRKDAYパラメーターで選択したものによって異なります。

***NO** 作業日は、DAYMONTHまたはINTERVALパラメーターと組み合わせて使用しません。

***YES** 作業日は、DAYMONTHまたはINTERVALパラメーターと組み合わせて使用します。

[トップ](#)

会計期間 (FSCPERIOD)

ジョブの会計年度内の期間を指定します。期間は、会計予定表(FSCCAL)パラメーターに会計予定表名が指定されているときに使用されます。

単一値

***ALL** すべての期間がジョブに組み込まれます。

その他の値(13までの反復)

1から13

ジョブに組み込みたい会計期間を指定してください。

[トップ](#)

テキスト (TEXT)

ジョブに関連したテキストを示します。

***NONE**

ジョブに関連したテキスト記述はありません。

文字値 ジョブに関連したテキスト記述を指定してください。

[トップ](#)

コマンド要求 (CMD)

このジョブで処理したいコマンドを指定します。コマンド（プログラムに対する呼び出し）を指定し、または呼び出されるプログラムにパラメーターを渡すことができます。コマンドの妥当性が検査され、パラメーターはADVANCED JOB SCHEDULERパラメーター・ファイルに対して有効になります。追加または変更されたジョブにおけるオブジェクトの存在はチェックされません。

コマンド・ストリング

実行するコマンドを指定します。

リモート・ロケーション名 (RMTLOCNAME)

ジョブを実行するシステムのロケーションおよびネットワークIDを指定します。

注: RMTLOCNAMEパラメーターに指定されている値は、スケジュール・コード*ALTERNATEと一緒に使用すると無視されます。

*JOBCTL

ジョブ制御に指定されているリモート・ロケーション名を使用します。

*LCL ジョブをローカル・サーバー上で実行します。

リモート・ロケーション名

ジョブを実行するシステムと関連したリモート・ロケーションの名前を指定します。

ネットワークID, リモート・ロケーション名

システムと関連したネットワークIDおよびリモート・ロケーションの名前を指定してください。これらの値はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式を使用して指定しますが、このNNNNNNNNはネットワークIDであり、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。

トップ

スケジュール範囲 (RANGE)

ジョブの開始時刻と終了時刻および開始日付と終了日付の範囲を指定します。

注: *MINUTESスケジュール・コードを使用する場合は、**開始時刻値は終了時刻**と組み合わせて使用します。*MINUTESスケジュール・コードは、ジョブの開始および停止時刻を指示するためにこれらの2つの値を使用する唯一のスケジュール・コードです。

要素1: 開始時刻および日付

要素1: 開始時刻

*NONE

ジョブには開始時刻は指定されません。

0から2400

ジョブの開始時刻を時分(HHMM)の形式で指定してください。

要素2: 開始日

*NONE

このジョブには開始日付は指定されません。

文字値 このジョブの開始日付をジョブ形式で指定してください。

要素2: 終了時刻および日付

要素1: 終了時刻

*NONE

このジョブには終了時刻は指定されていません。

0から2400

このジョブの終了時刻を時分(HHMM)の形式で指定してください。

要素2: 終了日

*NONE

このジョブに指定された終了日付はありません。

文字値 このジョブの終了日付をジョブ形式で指定してください。

[トップ](#)

最大実行時間 (MAXRUN)

ジョブの最大実行時間 (分数) を指定します。

注: MAXRUNプロンプトに指定されている値は、スケジュール・コード*ALTERNATEと一緒に使用すると無視されます。

*NOMAX

このジョブには最大時間はあります。

1から9999

このジョブの最大時間 (分数) を指定します。この分数が経過すると、ADVANCED JOB SCHEDULERはジョブが完了していてもいなくてもそのジョブを終了します。

[トップ](#)

通知 (正常) (PGRRCPNORM)

追加または変更するジョブの正常完了メッセージを受け取る通知宛先を指定します。このフィールドは、通知コマンドと一緒に使用されます。

注: JSを使用した配布の送信(SNDDSTJS)コマンドでこの機能を使用するには、SMTP情報を指定する必要があります。

注: 通知宛先 (正常) および通知メッセージに指定する値は、CHGNFYJSコマンドでそれぞれ&RCP変数と&MSGTXT変数に使用される置換変数です。

ジョブが正常完了した時に指定した宛先に送信したい通知メッセージを指定することができます。

単一値

***NONE**

このジョブが正常完了した時にメッセージを受け取る通知宛先は割り当てられません。

要素1: 通知の宛先

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されている通知宛先を使用します。

***ONCALL**

呼び出し中の宛先だけがメッセージを受け取ります。

名前 ジョブが正常完了した時に、そのジョブからのメッセージを受け取る宛先の名前を指定してください。

要素2: 通知メッセージ

***JOBCTL**

ジョブ制御からの通知メッセージが通知宛先に送信されます。

***COMP**

ジョブの完了状況が送られます。

文字値 このジョブが正常完了した時に通知宛先に送りたい通知メッセージを指定してください。

[トップ](#)

通知（異常）(PGRRCPABN)

追加または変更するジョブの異常完了メッセージを受け取る通知宛先を指定します。このフィールドは、通知コマンドと一緒に使用されます。

注: JSを使用した配布の送信(SNDDSTJS)コマンドでこの機能を使用するには、SMTP情報を指定する必要があります。

注: 通知宛先（異常）および通知メッセージに指定する値は、CHGNFYJSコマンドでそれぞれ&RCP変数と&MSGTXT変数に使用される置換変数です。

ジョブが異常完了した時に指定した宛先に送信したい通知メッセージを指定することができます。

単一値

***NONE**

このジョブが異常完了した時にメッセージを受け取る通知宛先は割り当てられません。

要素1: 通知の宛先

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されている通知宛先を使用します。

***ONCALL**

呼び出し中の宛先だけがメッセージを受け取ります。

名前 ジョブが異常完了した時に、そのジョブからのメッセージを受け取る宛先の名前を指定します。

要素2: 通知メッセージ

***JOBCTL**

ジョブ制御からの通知メッセージが通知宛先に送信されます。

***COMP**

ジョブの完了状況が送られます。

文字値 このジョブが異常完了した時に、通知宛先に送りたい通知メッセージを指定します。

[トップ](#)

通知開始ジョブ (PGRRCPSTR)

ジョブの投入後、限度内に開始されない場合に、追加または変更しているジョブの通知を受け取る通知宛先を指定します。このフィールドは、通知コマンドと一緒に使用されます。

注: JSを使用した配布の送信(SNDDSTJS)コマンドでこの機能を使用するには、SMTP情報を指定する必要があります。

注: 通知宛先（ジョブ開始）に指定する値は、CHGNFYJSコマンドで&RCP変数に使用される置換変数です。&MSGTXTはメッセージIJS6059で置き換えられます。

開始限度（分数）を指定することができます。これは、通知が出される前にジョブがジョブ待ち行列に留まることのできる時間の長さです。

単一値

***NONE**

このジョブが開始限度を超えた時にメッセージを受け取る通知宛先は割り当てられません。

要素1: 通知の宛先

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されている通知宛先を使用します。

***ONCALL**

呼び出し中の宛先だけがメッセージを受け取ります。

名前 ジョブの投入後、限度内に開始されない場合に、メッセージを受け取る宛先の名前を指定してください。

要素2: 開始限界

***JOBCTL**

ジョブ制御中の開始限度がこのジョブに使用されます。

1から999

通知が出される前にジョブがジョブ待ち行列に留まることのできる分数を指定します。

[トップ](#)

代替ジョブ (ALTJOB)

追加するジョブの代替ジョブの名前を指定します。代替ジョブが実行されるのは、通常のジョブが異常終了した場合だけです。ジョブは必ずしも代替ジョブをもつ必要はありません。このコマンドのプロンプトが出された時にジョブ・リストからジョブを選択したい場合は、カーソルをこのパラメーターに位置付けて、F4キーを押してください。

代替ジョブがグループのメンバーである場合には、グループおよびグループの順序を指定することもできます。

単一値

*NONE

ジョブに代替ジョブはありません。

要素1: ジョブ

名前 このジョブの代替ジョブにしたいジョブの名前を指定します。

要素2: グループ

*NONE

代替ジョブに代替グループはありません。

名前 このジョブの代替ジョブに関連したグループの名前を指定してください。

要素3: グループ順序

*NONE

代替ジョブには順序番号が割り当てられません。

1から99

代替ジョブに割り当てる順序番号を指定してください。

[トップ](#)

報告書配布ID (RPTDSTID)

ジョブの処理の結果として生成される報告書を配布するために使用される報告書配布IDを指定します。

*NONE

ジョブに報告書配布IDはありません。

名前 このジョブと関連付けたい報告書配布IDを指定します。

[トップ](#)

回復処置 (RCYACN)

システムが電源遮断されているか制限状態にあるためにジョブを指定時刻に投入できない場合に取りられる回復処置を指定します。パラメーターに指定された処置は、次のIPL時、あるいはADVANCED JOB SCHEDULERのシステムが活動状態になった時に行われます。

IPL時またはシステムが制限状態から脱出した時に投入されるジョブは、ジョブ・スケジュール項目に指定された時刻にジョブが投入される順序と同じ順序で投入されます。反復ジョブの複数のオカレンスが脱落した場合には、そのジョブは一度しか投入されません。ジョブの脱落した最初のオカレンスは現在の日付から計算されます。

IPLのスケジューラー部分はシステムのIPLでは完了する必要がないので、すべてのジョブが投入される前に、システム上で他のジョブを開始することができます。

ジョブが投入時に保留されてから解放された時には、このパラメーターは適用されません。

注: RCYACNパラメーターに指定されている値は、スケジュール・コード*ALTERNATEまたは*NONEと一緒に使用すると無視されます。

***JOBCTL**

ジョブはジョブ制御に指定された回復処置を使用します。

***SBMRLS**

ジョブは解放状態(RLS)で投入されます。

***SBMHL D**

ジョブは保留状態(HLD)で投入されます。

***NOSBM**

ジョブは投入されません。

*NOSBMを指定して影響があるのは、実行されなかったジョブの繰り返しだけです。ジョブ・スケジュール項目が繰り返しジョブの場合には、将来の繰り返しには影響がありません。

トップ

ジョブ記述 (JOB D)

このジョブで使用するジョブ記述を指定します。

単一値

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されているジョブ記述がジョブで使用されます。

***USRPRF**

投入されたジョブの実行の元になるユーザー・プロファイル中のジョブ記述が投入されたジョブのジョブ記述として使用されます。

修飾子1: ジョブ記述

名前 ジョブに使用するジョブ記述の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ライブラリー・リストを使用して、ジョブ記述を見つけます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、ジョブ記述を見つけます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合は、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述が入っているライブラリーの名前を指定します。

ジョブ待ち行列 (JOBQ)

このジョブが入られるジョブ待ち行列を指定します。

単一値

*JOBCTL

ジョブ制御に指定されているジョブ待ち行列がジョブで使用されます。

*JOBQ

投入されたジョブは、指定されたジョブ記述のジョブ待ち行列に入れられます。

修飾子1: ジョブ待ち行列

名前 投入されたジョブが入られるジョブ待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL ライブラリー・リストを使用して、ジョブ待ち行列を見つけます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーを使用して、ジョブ待ち行列を見つけます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合は、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定します。

トップ

ジョブ優先順位(JOBQ上) (JOBPTY)

ジョブ待ち行列のスケジューリング優先順位を指定します。有効な値の範囲は1から9で、1が最高の優先順位で9が最低の優先順位となります。

*JOBCTL

ジョブ制御に指定されているスケジューリングの省略時値がジョブで使用されます。

*JOBQ

ジョブ記述に指定されているスケジューリング優先順位がこのジョブで使用されます。

1から9 ジョブのスケジューリング優先順位の値を指定します。

トップ

出力優先順位(OUTQ上) (OUTPTY)

このジョブによって作成されたスプール出力ファイルの出力待ち行列の優先順位を指定します。有効な値の範囲は1から9で、1が最高の優先順位で9が最低の優先順位となります。

*JOBCTL

ジョブ制御に指定されている出力優先順位の省略時の値がジョブで使用されます。

*JOBQ

ジョブ記述に指定されている出力優先順位がジョブで使用されます。

1から9 ジョブの出力優先順位の値を指定します。

トップ

印刷装置 (PRTDEV)

このジョブの省略時印刷装置の修飾名を指定します。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されている印刷装置がこのジョブで印刷装置として使用されます。

***CURRENT**

現在実行中のジョブによって使用されているものと同じ印刷装置がこのジョブに使用されます。

***USRPRF**

投入されたジョブの実行の元になるユーザー・プロファイルの中に指定されている印刷装置が、このジョブの印刷装置として使用されます。印刷装置名は、このジョブの投入時にプロファイルから取り出されます。

***SYSVAL**

このジョブの投入時にシステム値QPRTDEVに指定されている印刷装置が使用されます。

***JOB**

ジョブ記述に指定されている印刷装置が投入されるジョブに使用されます。

名前 投入されたジョブに使用される印刷装置の名前を指定してください。

トップ

出力待ち行列 (OUTQ)

ジョブによって作成されるスプール出力に使用する出力待ち行列を指定します。このパラメーターが適用されるのは、出力待ち行列に*JOBを指定しているスプール印刷装置ファイルだけです。

単一値

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されている出力待ち行列がジョブの出力待ち行列として使用されます。

***USRPRF**

投入されたジョブの実行の元になるユーザー・プロファイルの出力待ち行列が、このジョブの出力待ち行列として使用されます。

***DEV** スプール・ファイルの印刷装置と関連した出力待ち行列が使用されます。

***JOB**

投入されたジョブで使用されるジョブ記述に指定されている出力待ち行列がジョブの省略時出力待ち行列となります。

修飾子1: 出力待ち行列

名前 投入されたジョブによって省略時の出力待ち行列として使用される出力待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ライブラリー・リストを使用して、出力待ち行列を見つけます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、出力待ち行列を見つけます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合は、QGPLが使用されます。

名前 出力待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ユーザー (USER)

投入されるジョブのユーザー・プロファイルの名前を指定します。ジョブ記述に*RQDが指定されている場合には、*JOBDDを指定することはできず、代わりにユーザー名を指定しなければなりません。

注：このパラメーターには次のIBM提供オブジェクトは使用できません。

- QDBSHR
- QDFTOWN
- QDOC
- QLPAUTO
- QLPINSTALL
- QRJE
- QSECOFR
- QSPL
- QSYS
- QTSTRQS

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されているユーザー・プロファイルが投入されるジョブに使用されます。

***CURRENT**

現在実行中のジョブが使用しているものと同じユーザー・プロファイルが投入されたジョブに使用されます。

***JOBDD**

指定のジョブ記述に指定されているユーザー・プロファイルが投入されるジョブに使用されます。

名前 投入するジョブに使用されるユーザー・プロファイルの名前を指定してください。このユーザー・プロファイルに対する権限が必要です。ユーザー・プロファイルはジョブ記述に対して認可されていなければなりません。

[トップ](#)

印刷テキスト (PRTTXT)

印刷出力の各ページおよび区切りページの下部に印刷される30文字までのテキストを指定します。

***JOBCTL**

ジョブ制御中の値がこのジョブに使用されます。

***JOB**

ジョブ記述中の値がこのジョブに使用されます。

***SYSVAL**

システム値QPRTTXTがこのジョブに使用されます。

***BLANK**

テキストは印刷されません。

文字値 各ページの最後に印刷される文字ストリングを指定します。最大30文字までをアポストロフィで囲んで入力できます。リスト上のテキストは、入力された通りのまま中央にそろえられます。

トップ

経路指定データ (RTGDTA)

ジョブの最初の経路指定ステップを開始するために使用される経路指定データを指定します。経路指定データは、ジョブが実行するプログラムを識別する経路指定項目を決定するため使用されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御中の経路指定データの値がこのジョブに使用されます。

***JOB**

ジョブ記述に指定されている経路指定データが、経路指定ステップを開始するために使用されます。

文字値 このジョブの経路指定データとして使用される文字ストリングを指定してください。最大80文字まで入力することができます（必要な場合にはアポストロフィで囲みます）。

トップ

現行ライブラリー (CURLIB)

実行中のジョブに関連した現行ライブラリーの名前を指定します。

***JOBCTL**

ジョブ制御の中に指定されている現行ライブラリーが、投入されるジョブで使用されます。

***USRPRF**

投入されたジョブの実行の元になるユーザー・プロファイルの現行ライブラリーが投入されたジョブの現行ライブラリーとして使用されます。

***CRTDFT**

投入されるジョブの現行ライブラリーはありません。オブジェクトが現行ライブラリーに作成される場合には、省略時の現行ライブラリーとしてQGPLが使用されます。

名前 投入されるジョブの現行ライブラリーとして使用するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

ライブラリー・リスト (LIBL)

ライブラリー修飾子なしで指定されたオペレーティング・システムのオブジェクト名を検索するために使用されるライブラリー・リストの名前を指定します。このコマンドをプロンプトしているときにライブラリー・リストをリストから選択したい場合には、カーソルをこのパラメーター上に置いてF4キーを押してください。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されているライブラリー・リストが、投入されるジョブで使用されます。

***JOB**

このジョブで使用されるジョブ記述の中のライブラリー・リストが、ジョブのライブラリー・リストの初期ユーザー部分として使用されます。

***SYSVAL**

システムの省略時ユーザー・ライブラリー・リストがこのジョブで使用されます。これには、ジョブの開始時にシステム値QUSRLIBLで指定されたライブラリー名が入っています。

***NONE**

このジョブの初期ライブラリー・リストのユーザー部分は空になります。

名前 このジョブに使用したいライブラリー・リストの名前を指定してください。

トップ

メッセージ・ロギング (LOG)

このジョブによってジョブ・ログに送られる情報の量およびタイプを決定するために使用するメッセージ・ロギング値を指定します。このパラメーターには、メッセージ（またはロギング）レベル、メッセージ重大度、およびメッセージ・テキストのレベルという3つの要素があります。このパラメーターに値を指定しない場合には、このジョブと関連したジョブ記述に指定されている値が使用されます。

要素1: レベル

***JOBCTL**

ジョブ制御の中に指定されているロギング用の値がこのジョブに使用されます。

***JOB**

ジョブ記述の中でメッセージ・ロギング用に指定されている値がこのジョブに使用されます。

0から4 このジョブのメッセージに使用されるメッセージ・ロギング・レベルの値を指定します。使用できるロギング・レベルは次の通りです。

- 0** データはログに記録されません。
- 1** 次の情報がログに記録されます。重大度レベルが指定されたメッセージ重大度以上で、ジョブの外部メッセージ待ち行列に送られるすべてのメッセージ（これには、ジョブの開始、ジョブの終了、およびジョブの完了状況を示すものが含まれます）。
- 2** 以下の情報がログに記録されます。
 - ロギング・レベル1の情報。
 - CLプログラムからログに記録され、指定された重大度レベル以上の重大度コードをもつメッセージが出される要求またはコマンド。

- 要求に関連するすべてのメッセージ、あるいはCLプログラムからログに記録されるコマンド。これらは結果的に、指定された重大度以上の重大度レベルをもつ高レベル・メッセージとなります。
- 3 以下の情報がログに記録されます。
- ロギング・レベル1の情報。
 - CLプログラムからログに記録されるすべての要求またはコマンド。
 - 要求に関連するすべてのメッセージ、あるいはCLプログラムからログに記録されるコマンド。これらは結果的に、指定された重大度以上の重大度レベルをもつ高レベル・メッセージとなります。
- 4 次の情報がログに記録されます。CLプログラムからログに記録されるすべての要求またはコマンドと、重大度コードが指定の重大度以上の（トレース・メッセージを含む）すべてのメッセージ。
- 注: 高レベル・メッセージは、CLプログラムからログに記録される要求またはコマンドを受け取ったプログラムのプログラム・メッセージ待ち行列に送られるメッセージです。

要素2: 重大度

***JOBCTL**

ジョブ制御にメッセージ重大度として指定されている値がこのジョブに使用されます。

***JOB**

ジョブ記述の中でメッセージ・ロギング用に指定されている値がこのジョブに使用されます。

0から99

エラー・メッセージがジョブ・ログに記録されることになる最低の重大度レベルを指定します。

要素3: テキスト

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されているメッセージ・テキストの値がこのジョブで使用されます。

***JOB**

ジョブ記述の中でメッセージ・ロギング用に指定されている値がこのジョブに使用されます。

***MSG** メッセージ・テキストだけがジョブ・ログに書き込まれるか、またはユーザーに表示されます。

***SECLVL**

エラー・メッセージのメッセージ・テキストとメッセージ・ヘルプの両方がジョブ・ログに書き込まれるか、あるいはユーザーに表示されます。

***NOLIST**

ジョブが正常に完了した場合には、ジョブ・ログは作成されません。ジョブが異常終了した場合（ジョブの終了コードが20またはそれ以上の場合）には、ジョブ・ログが作成されます。ジョブ・ログに現れるメッセージには、メッセージ・テキストとヘルプ・テキストの両方が入っています。

[トップ](#)

CLプログラム・コマンドのログ (LOGCLPGM)

制御言語プログラムで実行されるコマンドがCLプログラムのメッセージ待ち行列を介してジョブ・ログに記録されるかどうかを指定します。このパラメーターはジョブのロギング・フラグの状況を設定します。CLプログラムの作成(CRTCLPGM)コマンドでLOGパラメーターに*JOBが指定されている場合は、このパラメーターに指定された値が使用されます。LOGパラメーターのその他の値はこのパラメーターに指定された値を一時変更します。コマンドは、要求と同じ方法でログに記録されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御中の値がこのジョブに使用されます。

***JOB**

ジョブ記述に指定されている値が使用されます。

***YES** CLプログラムのコマンドはジョブ・ログに記録されます。

***NO** CLプログラムのコマンドはジョブ・ログに記録されません。

トップ

照会メッセージに対する応答 (INQMSGRPY)

このジョブの実行の結果として送られる事前定義メッセージの応答方法を指定します。事前定義メッセージの応答方法に変更が行われないこと、すべての照会メッセージに応答が必要なこと、省略時の応答が出されること、あるいはそれぞれの事前定義照会メッセージが送られたときにシステム応答リストで一致する応答が検査されることを指定することができます。

***JOBCTL**

ジョブ制御の中の照会メッセージに対する応答の値がこのジョブに使用されます。

***JOB**

このジョブで使用されるジョブ記述に指定された照会メッセージに対する応答制御が使用されません。

***RQD** このコマンドの実行時に出されたすべての照会メッセージには、その照会メッセージの受信側による応答が必要です。

***DFT** このコマンドの実行時に出される照会メッセージに回答するために、省略時のメッセージに対する応答が使用されます。

***SYSRPYL**

照会メッセージIDおよびメッセージ・データと一致するメッセージID および比較データをもっているこのジョブの実行結果として出される照会メッセージの項目があるかどうかを確認するために、システム応答リストが検査されます。一致するものがあつた場合にはその項目の応答値が使用されます。そのメッセージの項目がない場合には、応答が必要となります。

トップ

ジョブ待ち行列上での保留 (HOLD)

このジョブがジョブ待ち行列に入れられた時に保留されるかどうかを指定します。保留状態でジョブ待ち行列に入れられたジョブは、ジョブ解放(RLSJOB)コマンドで解放されるか、あるいはジョブ終了(ENDJOB)コマンドまたはジョブ待ち行列消去(CLRJOBQ)コマンドで終了されるまで保留されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御の中のジョブ待ち行列で保留の値がこのジョブで使用されます。

***JOB**

ジョブ記述に指定された値によって、ジョブがジョブ待ち行列に入れられた時にそのジョブが保留されるかどうか決定されます。

***YES** ジョブはジョブ待ち行列に入れられると、ジョブ解放(RLSJOB)コマンドで解放されるか、ジョブ終了(ENDJOB)コマンドで終了されるまで、保留されます。

***NO** ジョブ待ち行列に入れられた時にジョブは保留されません。

トップ

ジョブ・スイッチ (SWS)

このジョブで使用される8個のジョブ・スイッチ・グループの最初の設定値を指定します。これらのスイッチは、CLプログラムで設定またはテストでき、プログラムの流れを制御するために使用できます。8桁の文字ストリングに指定できるのは0（オフ）と1（オン）だけです。

***JOBCTL**

ジョブ制御の中のジョブ・スイッチの値がこのジョブに使用されます。

***JOB**

ジョブ記述に指定されている値がジョブのスイッチの最初の設定値となります。

文字値 投入されたジョブの最初のスイッチ設定値として使用される8個のゼロと1の組み合わせを指定してください。

トップ

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

投入されたジョブが正常か異常かにかかわらず、実行を完了した時点で完了メッセージが送信される宛先のメッセージ待ち行列の名前を指定します。異常終了が起こった場合には、完了メッセージのヘルプ情報に考えられる原因が示されます。

単一値

***JOBCTL**

ジョブ制御の中のメッセージ待ち行列の値がこのジョブに使用されます。

***USRPRF**

完了メッセージは、投入元のユーザー・プロファイルに指定されているメッセージ待ち行列に送られます。

***NONE**

完了メッセージは送られません。

修飾子1: メッセージ待ち行列

名前 完了メッセージが送信されるメッセージ待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ライブラリー・リストを使用して、メッセージ待ち行列を見つけます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、メッセージ待ち行列を見つけます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合は、QGPLが使用されます。

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

会計コード (ACGCDE)

この記述を使用するジョブに使用されるシステム資源の使用状況を記録する時に使用される会計コードを指定します。

***JOBCTL**

この記述を使用するジョブの会計コードはジョブ制御から取り出されます。

***JOB**

この記述を使用するジョブの会計コードはジョブ記述から取り出されます。

***USRPRF**

この記述を使用するジョブの会計コードは、ジョブに関連付けられたユーザー・プロファイルから取り出されます。

***BLANK**

この記述を使用するジョブに15個のブランクの会計コードが割り当てられます。

文字値 この記述を使用するジョブに使用したい会計コードを指定します。

[トップ](#)

実行優先順位 (RUNPTY)

ジョブの実行優先順位を指定します。実行優先順位の値は1（最高の優先順位）から99（最低の優先順位）の範囲であり、これはジョブが他のジョブとマシン資源を求めて競合する時のジョブの重要性を表します。この値はジョブの相対的な（絶対的ではない）重要性を表します。ジョブが再経路指定されると、この値はそのジョブ・クラス内でのジョブの重要性に応じてリセットされます。

***JOBCTL**

実行優先順位はジョブ制御から取り出されます。

***NOCHG**

実行優先順位はジョブ処理の開始時に変更されません。

01から99

使用する実行優先順位を指定します。

[トップ](#)

初期ASPグループ (INLASPGRP)

投入されるジョブの初期スレッドのための補助記憶域プール(ASP)グループ名の初期設定を指定します。スレッドでは、ASPグループの設定(SETASPGRP)コマンドを使用して、そのライブラリー名スペースを変更することができます。ASPグループがスレッドと関連付けられると、ASPグループ内の独立ASPにあるすべてのライブラリーがアクセス可能になり、それらのライブラリーにあるオブジェクトは通常のライブラリー修飾オブジェクト名構文を使用して参照できます。指定されたASPグループ内の独立ASPにあるライブラリーに加えて、システムASP (ASP番号1)と基本ユーザーASP (ASP番号2から32)にあるライブラリーが、そのスレッドにライブラリー名スペースを形成します。

*JOBCTL

初期ASPグループはジョブ制御から取得されます。

*CURRENT

現行スレッドのASPグループ名が投入されるジョブに使用されます。

*JOB

ジョブ記述に指定された初期ASPグループ名が投入されるジョブに使用されます。

*NONE

投入されるジョブの初期スレッドはASPグループと一緒に開始されないことを指定します。ライブラリー名スペースには、どのASPグループからのライブラリーも含まれません。システムASPおよび任意の基本ユーザーASPの中のライブラリーのみがライブラリー名スペースに入れられます。

名前 投入されるジョブの初期スレッドのために設定するASPグループの名前を指定してください。ASPグループ名は、ASPグループ内の基本ASP装置の名前です。このASPグループ内のすべてのASPのすべてのライブラリーがライブラリー名スペースに入れられます。

[トップ](#)

追加のコマンド (ADLCMD)

このジョブで処理したい追加のコマンドを指定します。コマンド（プログラムに対する呼び出し）を指定し、または呼び出されるプログラムにパラメーターを渡すことができます。コマンドの妥当性が検査され、パラメーターはADVANCED JOB SCHEDULERパラメーター・ファイルに対して有効になります。追加または変更されたジョブにおけるオブジェクトの存在はチェックされません。

このパラメーターには4個の値を指定できます。

文字値 実行する追加コマンドを指定します。

[トップ](#)

例

例1:ジョブの追加

```
ADDJOBJS JOB(JOB01) TIME(1000)
```

このコマンドはジョブをジョブ・スケジュールに追加します。この例では、ジョブJOB01がジョブ・スケジュールに追加され、10:00 A.M.に実行するようにスケジュールされます。このジョブの省略時スケジュール・コードは*DAILYであり、DAYパラメーターは*ALLであることに注意してください。

例2: *CALENDARスケジュール・コードを指定したジョブの追加


```
ADDJOBJS  JOB(JOB02) SCDCDE(*CALENDAR) CAL(CAL)
          TIME(1100)  CMD(WRKACTJOB)
```

このコマンドはジョブJOB02をジョブ・スケジューラーに追加します。このジョブは、*CALENDARスケジュールおよびCALと呼ばれる予定表を使用して、11:00 A.M.の実行をスケジュールされます。このジョブが実行されると、WRKACTJOBコマンドを処理します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

JS使用のジョブ権限の変更 (CHGAUTJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用したジョブ権限の変更(CHGAUTJS)コマンドを使用することにより、ADVANCED JOB SCHEDULERジョブに対してセットアップしたジョブ権限を変更することができます。権限を変更したいグループおよびアプリケーションだけでなく、特定のジョブ、総称ジョブ、またはすべてのジョブを選択することができます。

変更コマンドでパラメーターを選択して実行キーを押すと、ジョブに対して指定した権限が変更されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ項目	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: ジョブ	総称名, 名前, *ALL	
	要素 2: グループ	総称名, 名前, *ALL, *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, *ALL, *NONE	
USER	ユーザー	名前, *PUBLIC	必須, 定位置 2
APP	アプリケーション	総称名, 名前, *ALL	オプション
AUT	権限	単一値: *ALL, *CHANGE, *OPER, *USE, *EXCLUDE, *REMOVE その他の値 (最大 7 回の繰り返し): *SBM, *MGT, *AUT, *DSP, *CPY, *UPD, *RMV	オプション
REPLACE	置換権限	*NO, *YES	オプション

[トップ](#)

ジョブ項目 (JOB)

権限を変更したいジョブ、総称ジョブ、またはすべてのジョブの名前を指定します。ジョブが属しているグループおよびグループ内の関連順序番号を、任意に指定することができます。

これは必須パラメーターです。

要素1: ジョブ

***ALL** このコマンドの他のパラメーター値に適合するすべてのジョブ項目が変更されます。

総称名 変更したいジョブ・スケジュール項目があるジョブ・スケジュール項目の総称名を指定します。総称ジョブは、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです (たとえば

ABC*)。総称名を指定した場合には、その総称名で始まるジョブのすべての項目が変更されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なジョブと見なします。

名前 権限を変更したいジョブ項目のユーザー定義名を指定してください。

要素2: グループ

*NONE

このジョブはグループに属していません。

***ALL** このコマンドの他のパラメーター値に適合するすべてのグループ項目が変更されます。

総称名 グループ項目の総称名を指定してください。総称名とは、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングで、たとえば、ABC*などです。総称名を指定した場合には、その総称名で始まるグループのすべての項目が変更されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なグループと見なします。

名前 変更したいグループ項目のユーザー定義名を指定してください。

要素3: グループ順序

*NONE

このジョブに関連した順序番号はありません。

***ALL** グループ中のすべての順序番号が権限変更に取り込まれます。

1から99

権限を変更したいグループの中のジョブの順序番号を指定してください。

[トップ](#)

ユーザー (USER)

指定のジョブに対する権限が与えられるユーザーの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

***PUBLIC**

このジョブに対する特定権限をもっていないすべてのシステム登録ユーザー（またはユーザーのグループ）が変更されます。

名前 権限を変更したいユーザー・プロファイルの名前を指定します。

[トップ](#)

アプリケーション (APP)

権限を変更したいアプリケーション、総称アプリケーション、またはすべてのアプリケーションの名前を指定します。

***ALL** このコマンドの他のパラメーター値に適合するすべてのアプリケーションが変更されます。

総称名 変更したいジョブ・スケジュール項目が入っているアプリケーションの総称名を指定してください。総称名とは、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングで、たとえば、ABC*などです。総称名を指定した場合には、その総称名で始まるアプリケーション名のすべて

ての項目が変更されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはこれを完全なアプリケーション名と見なします。

名前 権限を変更したいアプリケーションのユーザー定義名を指定してください。

[トップ](#)

権限 (AUT)

ユーザー(USER)パラメーターに指定されているユーザーに与えられる権限を指定します。

単一値

***CHANGE**

変更権限によりユーザーは、権限の保守を除いて、ジョブ上のすべての操作を実行することができます。

***ALL** ユーザーはジョブ上のすべての操作を実行することができます。ユーザーは、ジョブの存在を制御したり、ジョブの機密保護を指定したり、ジョブを変更したり、またジョブ上の基本機能を実行することができます。

***OPER**

操作権限は、ジョブ投入権限、ジョブ管理権限、および表示権限を提供します。

***USE** 使用権限は、表示権限を提供します。

***EXCLUDE**

排他権限は、ユーザーがジョブをアクセスするのを防ぎます。

***REMOVE**

指定されたユーザーの権限項目を除去します。

その他の値(7までの反復)

***SBM** 投入権限により、ユーザーはジョブ・グループを開始するか、あるいはジョブを投入することができます。

***MGT** 管理権限により、ユーザーはジョブを保留するか、あるいは保留解除することができます。さらに、管理権限により、ジョブ・スケジューラーを使用した依存ジョブ設定(SETDEPJS)コマンドを使用できる他に、ジョブ依存関係を処理することもできます。

***AUT** ユーザーは、ジョブの権限を変更することができます。

***DSP** 表示権限により、ユーザーはジョブの情報を表示することができます。

***CPY** コピー権限により、ユーザーはジョブをコピーすることができます。

***UPD** 更新権限により、ユーザーはジョブの属性を変更することができます。

***RMV** 除去権限により、ユーザーはジョブを除去することができます。

[トップ](#)

置換権限 (REPLACE)

ユーザー (USER)パラメーターに指定されているユーザーの現行ジョブ権限を置き換える必要があるかどうかを指定します。

***NO** 現行ジョブ権限を置き換えません。これは、現行ジョブ権限と**権限 (AUT)**パラメーターに指定された権限を結合します。

***YES** 現行ジョブ権限をAUTパラメーターに指定された権限で置き換えます。

[トップ](#)

例

```
CHGAUTJS JOB(JOB02) USER(SAM) AUT(*USE)
```

このコマンドは、JOB02ジョブをユーザーSAMに*USE権限を与えるように変更します。この権限はユーザーSAMに画面表示権限を提供します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

パラメーター・データの変更 (CHGDTAJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パラメーター・データの変更(CHGDTAJS)コマンドにより、指定するパラメーターのパラメーター・データを変更することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PARM	パラメーター名	名前	必須, キー, 定位置 1
PARMDATA	パラメーター・データ	文字値, <u>*SAME</u>	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

パラメーター名 (PARM)

変更したいデータが入っているパラメーターを指定します。ADVANCED JOB SCHEDULERに追加されていないパラメーターを入力すると、エラー・メッセージを受け取ることになります。

これは必須パラメーターです。

名前 変更したいパラメーターの名前を指定します。

[トップ](#)

パラメーター・データ (PARMDATA)

パラメーター名 (PARM)パラメーターに指定されているパラメーターのユーザー定義パラメーター・データを指定します。

*SAME

パラメーターの現行値は変更されません。

文字値 パラメーターに使用されるパラメーター・データを指定します。

[トップ](#)

例

```
CHGDTAJS PARM(FRDATE) PARMDATA('12/01/99')
```

このコマンドはパラメーターFRDATEが12/01/99になるように変更します。この例の場合のPARMDATAの日付形式はMM/DD/YYです。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

JSを使用したジョブの変更 (CHGJOBJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用したジョブの変更(CHGJOBJS)コマンドにより、ジョブ・スケジュール中の項目を変更することができます。ジョブは、単一ジョブ、ジョブのグループのメンバー、またはアプリケーションとすることができます。このコマンドを使用することにより、指定するスケジュール・コードに基づいて通常の間隔などで、1回だけ投入されるバッチ・ジョブをスケジュールすることができます。ユーザー定義の予定表、休日例外予定表、および会計年度予定表でジョブをスケジュールすることができます。

ジョブ・スケジュール項目には、ジョブが実行するコマンド、ジョブの実行の元になるジョブ記述およびユーザー・プロファイル、ジョブが投入されるジョブ待ち行列、メッセージの送信先のメッセージ待ち行列などの、ジョブを投入するのに必要なすべての情報が含まれています。

指定した日付および時刻、またはADVANCED JOB SCHEDULERが計算する日付および時刻に、ジョブは指定されたジョブ待ち行列に投入されます。ただし、このコマンドはスケジュールされた時刻にジョブが実行を開始することを保証するものではありません。ジョブ待ち行列が保留されているか非活動のサブシステムに接続されていたり、あるいはサブシステムまたはシステム上で一度に実行できる活動ジョブが最大数に達している場合には、ジョブは実行を開始しません。

各ジョブ・スケジュール項目はユーザー定義ジョブによって識別され、このコマンドのジョブ項目 (JOB) パラメーターとして指定されます。

制約事項:

- ジョブ記述およびユーザー・プロファイルに対する使用(*USE)権限が必要です。
- メッセージ待ち行列に対する*USEおよび追加(*ADD)権限が必要です。
- ジョブ待ち行列および指定されたオブジェクトと関連したすべてのライブラリーに対する読み取り(*READ)権限が必要です。
- *ADDJOB機能に対する*USE権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ項目	要素リスト	必須, キー, 定位置 1
	要素 1: ジョブ	名前	
	要素 2: グループ	名前, *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, *NONE	
APP	アプリケーション	名前, *SAME, *NONE, *JOBCTL	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
SCDCDE	スケジュール・コード	* <u>SAME</u> , *DAILY, *CALENDAR, *DATE, *DAY, *NUMDAY, *MINUTES, *ONCE, *MONTHEND, *FIRST, *SECOND, *THIRD, *FOURTH, *FIFTH, *LAST, *FIRSTWRK, *LASTWRK, *ALTERNATE, *NONE, *JOBCTL	オプション
TIME	スケジュール時刻	単一値: * <u>SAME</u> その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 0-2400	オプション
ITVMIN	間隔	1-720, * <u>SAME</u>	オプション
CAL	予定表	名前, * <u>SAME</u> , *NONE, *JOBCTL	オプション
HDYCAL	休日予定表	名前, * <u>SAME</u> , *NONE, *JOBCTL	オプション
FSCCAL	会計予定表	名前, * <u>SAME</u> , *NONE, *JOBCTL	オプション
DAY	曜日	単一値: * <u>SAME</u> , *ALL, *NONE その他の値 (最大 7 回の繰り返し): *MON, *TUE, *WED, *THU, *FRI, *SAT, *SUN	オプション
SNGDAY	単一曜日	* <u>SAME</u> , *MON, *TUE, *WED, *THU, *FRI, *SAT, *SUN	オプション
ITVDAY	間隔	1-99, * <u>SAME</u>	オプション
DATE	年間の日付	単一値: * <u>SAME</u> その他の値 (最大 13 回の繰り返し): 10 進数	オプション
SNGDATE	単一日付	10 進数, * <u>SAME</u> , *NEXT	オプション
SAVE	保管	* <u>SAME</u> , *YES, *NO	オプション
DAYMONTH	月間の日付	単一値: * <u>SAME</u> その他の値 (最大 13 回の繰り返し): 10 進数	オプション
WRKDAY	作業日	* <u>SAME</u> , *NO, *YES	オプション
FSCPERIOD	会計期間	単一値: * <u>SAME</u> , *ALL その他の値 (最大 13 回の繰り返し): 1-13	オプション
TEXT	テキスト	文字値, * <u>SAME</u> , *NONE	オプション
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション名	名前, * <u>SAME</u> , *JOBCTL, *LCL	オプション
RANGE	スケジュール範囲	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	0-2400, * <u>SAME</u> , *NONE	
	要素 2: 開始日	文字値, * <u>SAME</u> , *NONE	
	要素 2: 終了時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	0-2400, * <u>SAME</u> , *NONE	
	要素 2: 終了日	文字値, * <u>SAME</u> , *NONE	
MAXRUN	最大実行時間	1-9999, * <u>SAME</u> , *NOMAX	オプション
PGRRCPNORM	通知 (正常)	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 通知の宛先	名前, * <u>SAME</u> , *JOBCTL, *ONCALL	
	要素 2: 通知メッセージ	文字値, * <u>SAME</u> , *JOBCTL, *COMP	
PGRRCPABN	通知 (異常)	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 通知の宛先	名前, * <u>SAME</u> , *JOBCTL, *ONCALL	
	要素 2: 通知メッセージ	文字値, * <u>SAME</u> , *JOBCTL, *COMP	
PGRRCPSTR	通知開始ジョブ	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 通知の宛先	名前, * <u>SAME</u> , *JOBCTL, *ONCALL	
	要素 2: 開始限界	1-999, *JOBCTL, * <u>SAME</u>	

キーワード	記述	選択項目	注
ALTJOB	代替ジョブ	単一値: *SAME, *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ジョブ	名前	
	要素 2: グループ	名前, *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, *NONE	
RPTDSTID	報告書配布ID	名前, *SAME, *NONE	オプション
RCYACN	回復処置	*SAME, *JOBCTL, *SBMRLS, *SBMHLD, *NOSBM	オプション
JOBDD	ジョブ記述	単一値: *SAME, *JOBCTL, *USRPRF その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
JOBQ	ジョブ待ち行列	単一値: *SAME, *JOBCTL, *JOBDD その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
JOBPTY	ジョブ優先順位(JOBQ上)	1-9, *SAME, *JOBCTL, *JOBDD	オプション
OUTPTY	出力優先順位(OUTQ上)	1-9, *SAME, *JOBCTL, *JOBDD	オプション
PRTDEV	印刷装置	名前, *SAME, *JOBCTL, *CURRENT, *USRPRF, *SYSVAL, *JOBDD	オプション
OUTQ	出力待ち行列	単一値: *SAME, *JOBCTL, *USRPRF, *DEV, *JOBDD その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
USER	ユーザー	名前, *SAME, *JOBCTL, *CURRENT, *JOBDD	オプション
PRTTXT	印刷テキスト	文字値, *SAME, *JOBCTL, *BLANK, *JOBDD, *SYSVAL	オプション
RTGDTA	経路指定データ	文字値, *SAME, *JOBCTL, *JOBDD	オプション
CURLIB	現行ライブラリー	名前, *SAME, *JOBCTL, *USRPRF, *CRTDFT	オプション
LIBL	ライブラリー・リスト	名前, *SAME, *JOBCTL, *JOBDD, *SYSVAL, *NONE	オプション
LOG	メッセージ・ロギング	要素リスト	オプション
	要素 1: レベル	0-4, *SAME, *JOBCTL, *JOBDD	
	要素 2: 重大度	0-99, *SAME, *JOBCTL, *JOBDD	
	要素 3: テキスト	*SAME, *JOBCTL, *JOBDD, *MSG, *SECLVL, *NOLIST	
LOGCLPGM	CLプログラム・コマンドのログ	*SAME, *JOBCTL, *JOBDD, *YES, *NO	オプション
INQMSGRPY	照会メッセージに対する応答	*SAME, *JOBCTL, *JOBDD, *RQD, *DFT, *SYSRPYL	オプション
HOLD	ジョブ待ち行列上での保留	*SAME, *JOBCTL, *JOBDD, *YES, *NO	オプション
SWS	ジョブ・スイッチ	文字値, *SAME, *JOBCTL, *JOBDD	オプション
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *SAME, *JOBCTL, *USRPRF, *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ACGCDE	会計コード	文字値, *SAME, *JOBCTL, *JOBDD, *USRPRF, *BLANK	オプション
RUNPTY	実行優先順位	01-99, *SAME, *JOBCTL, *NOCHG	オプション
INLASGRP	初期ASPグループ	名前, *SAME, *JOBCTL, *CURRENT, *JOBDD, *NONE	オプション

トップ

ジョブ項目 (JOB)

変更したいジョブ・スケジュール項目の名前を示します。ジョブ名は、指定しなければなりません。あるいは、代りにそのジョブが属しているグループを、そのグループ内でのジョブの順序番号とともに指定することもできます。

グループの最初のジョブは順序番号1でなければなりません。後続の順序番号は間隔をあけておき（10, 20, 30など）、必要な場合にはジョブを挿入できるようにしておく必要があります。

これは必須パラメーターです。

要素1: ジョブ

名前 変更したいジョブ・スケジュール項目のユーザー定義名を指定してください。

要素2: グループ

*NONE

ジョブはグループに割り当てられていません。

名前 ジョブが属するグループのユーザー定義名を指定します。

要素3: グループ順序

*NONE

ジョブに割り当てられる順序番号はありません。

1から99

グループ内のジョブの順序番号を指定します。

[トップ](#)

アプリケーション (APP)

ジョブ(JOB)パラメーターに指定されているジョブが属しているアプリケーションの名前を示します。

*SAME

パラメーターの現行値は変更されません。

*JOBCTL

ジョブ制御に指定されているアプリケーションが、このジョブのアプリケーションとして使用されます。

*NONE

このジョブにはアプリケーションが指定されていません。

名前 変更するジョブが属しているアプリケーションの名前を指定します。

[トップ](#)

スケジュール・コード (SCDCDE)

ジョブに割り当てたいスケジュール・コードを指定します。

注: スケジュール・コードの選択の結果としてジョブを実行する日は、予定表フィールドの1つで予定表を選択することによって変更することができます。予定表の検討は、ジョブ制御(JSJOBCTL)メニューに進み、検討したい予定表タイプを選択することによって実行することができます。

***SAME**

パラメーターの現行値は変更されません。

***DAILY**

ジョブは、毎日または選択した曜日に毎週実行するようにスケジュールされます。たとえば、水曜日にだけ実行したり、週のすべての曜日に実行するようにスケジュールできます。

***CALENDAR**

ジョブをスケジュールするために予定表を使用します。予定表は「予定表の処理」画面で指定します。

***DATE**

ジョブは1年を通じて特定の日付に実行するようスケジュールされます。これらはシステム値に応じて月日(MMDD)または日月(DDMM)の形式でシステムに保管され、指定の日付に投入されます。13個までの日付をスケジュールできます。

***DAY** ジョブは毎月の予定表上の特定の日に実行されます。これらは日(DD)の形式で入力します。

***NUMDAY**

ジョブは指定の日数ごとに実行されます。指定できる日数の範囲は1から99です。

注: 実行のためにスケジュールされた時刻が現在時刻より大きい場合は、その時刻をADVANCED JOB SCHEDULERは丸1日としてカウントします(隔日の5:00 P.M.に実行するために月曜日の3:00 P.M.にADVANCED JOB SCHEDULERジョブを入力した場合は、ジョブが最初に実行されるのは火曜日の5:00 P.M.になります)。

***MINUTES**

ジョブは指定された分数ごとに実行されます。分数は間隔(ITVMIN)パラメーターに指定されている分数に基づきます。

***ONCE**

ジョブは1回だけ実行されます。保管(SAVE)パラメーターは、ジョブの実行後にそのジョブを保管する(*YES)かまたは削除する(*NO)かを指示します。ジョブ・グループの場合には、SAVEパラメーターは表示されず、保管(*YES)とみなされます。ジョブの実行がスケジュールされている日を、単一日付(SNGDATE)パラメーターに指定します。この日付をブランクのままにすると、スケジュール時刻に達した時にジョブが実行されます。

***MONTHEND**

ジョブは月の最後の日に実行されます。

***FIRST**

ジョブは毎月または指定された会計期間の最初の指定曜日に実行されます。このオプションは、単一曜日(SNGDAY)パラメーターと一緒に使用されます。たとえば、SNGDAYパラメーターに*TUEを指定すると、ジョブには毎月第1火曜日の実行がスケジュールされます。

***SECOND**

ジョブは毎月または指定された会計期間の2番目の指定曜日に実行されます。このオプションは、SNGDAYパラメーターと一緒に使用されます。たとえば、SNGDAYパラメーターに*TUEを指定すると、ジョブには毎月第2火曜日の実行がスケジュールされます。

***THIRD**

ジョブは毎月または指定された会計期間の3番目の指定曜日に実行されます。このオプションは、

SNGDAYパラメーターと一緒に使用されます。たとえば、SNGDAYパラメーターに*TUEを指定すると、ジョブには毎月第3火曜日の実行がスケジュールされます。

***FOURTH**

ジョブは毎月または指定された会計期間の4番目の指定曜日に実行されます。このオプションは、SNGDAYパラメーターと一緒に使用されます。たとえば、SNGDAYパラメーターに*TUEを指定すると、ジョブには毎月第4火曜日の実行がスケジュールされます。

***FIFTH**

ジョブは毎月または指定された会計期間の5番目の指定曜日に実行されます。このオプションは、SNGDAYパラメーターと一緒に使用されます。たとえば、SNGDAYパラメーターに*TUEを指定すると、ジョブには毎月第5火曜日の実行がスケジュールされます。

注: 5番目のオカレンスがない月の場合は、ジョブは実行されず、選択された曜日に5番目のオカレンスがある次の月での実行がスケジュールされます。

***LAST**

ジョブは毎月または指定された会計期間の最後の指定曜日に実行されます。このオプションは、SNGDAYパラメーターと一緒に使用されます。たとえば、SNGDAYパラメーターに*TUEを指定すると、ジョブには毎月最終火曜日の実行がスケジュールされます。

***FIRSTWRK**

ジョブは毎月または指定された会計期間の最初の作業日に実行されます。このオプションはシステム制御中の「作業日」フィールドと一緒に使用されます。

***LASTWRK**

ジョブは毎月または指定された会計期間の最後の作業日に実行されます。このオプションはシステム制御中の「作業日」フィールドと一緒に使用されます。

***ALTERNATE**

ジョブは、正規のジョブが異常終了して、このジョブがその代替ジョブとして定義された場合に実行されます。

***NONE**

このジョブはスケジュール済みジョブではありません。これは、投入を待機中のグループ・ジョブのメンバー、先行ジョブの実行を待機中のジョブ、またはユーザーの手操作による投入を待機中のジョブとすることができます。

注: スケジュール・コード*NONEは、V4R2より前のリリースで使用されたスケジュール・コード*DEPJOBと置き換えられます。

***JOBCTL**

ジョブは、ジョブ制御に指定されたスケジュール・コードに基づいて実行をスケジュールされます。

トップ

スケジュール時刻 (TIME)

指定された日にジョブを処理したい時刻(1つまたは複数)を指定します。時刻は時分(HHMM)の形式で入力し、その範囲は0001から2400(深夜)にできます。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

*SAME

パラメーターの現行値は変更されません。

0から2400

ADVANCED JOB SCHEDULERがジョブを投入する時刻を指定します。

[トップ](#)

間隔 (ITVMIN)

*MINUTESスケジュール・コードとともに間隔として使用したい分数を指定します。

*SAME

パラメーターの現行値は変更されません。

1から720

ジョブを投入する間隔の分数を指定します。

[トップ](#)

予定表 (CAL)

ジョブをスケジュールするために使用したい予定表の名前を指定します。予定表は、*NONE, *ALTERNATE,および*NUMDAYを除いたすべてのスケジュール・コードとともに使用できるユーザー定義の曜日または日付のセットです。予定表によって、通常にスケジュールされた日付の他に、複数の日付をスケジュールに追加することができます。

*SAME

パラメーターの現行値は変更されません。

***JOBCTL**

このジョブで使用される予定表はジョブ制御に指定されている予定表です。

***NONE**

このジョブは予定表を使用しません。

名前 このジョブで使用したい予定表の名前を指定してください。

[トップ](#)

休日予定表 (HDYCAL)

ジョブをスケジュールするために使用したい休日予定表の名前を指定します。休日予定表は*NONE, *ALTERNATEおよび*NUMDAYを除いたすべてのスケジュール・コードとともに使用されるユーザー定義の例外曜日または日付のセットです。

*SAME

パラメーターの現行値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御の休日予定表に指定されている値がこのジョブで使用されます。

***NONE**

このジョブは休日予定表を使用しません。

名前 このジョブに使用したい休日予定表の名前を指定してください。

[トップ](#)

会計予定表 (FSCCAL)

ジョブ(JOB)パラメーターに指定されているジョブで使用したい会計年度予定表の名前を指定します。会計年度予定表は各期間の開始日付および終了日付がある12または13の期間で構成されます。会計予定表は、*NONE, *ALTERNATE,および*NUMDAYを除くすべてのスケジュール・コードと共に使用できます。

*SAME

パラメーターの現行値は変更されません。

*JOBCTL

ジョブ制御の会計予定表に指定されている値がこのジョブで使用されます。

*NONE

このジョブには会計予定表はありません。

名前 このジョブに使用したいユーザー定義の会計年度予定表の名前を指定します。

[トップ](#)

曜日 (DAY)

このジョブを処理したい曜日を示します。曜日は、*DAILYおよび*MINUTESスケジュール・コードまたは1より大きい順序番号のジョブ・グループで使用されます。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

*SAME

パラメーターの現行値は変更されません。

***ALL** ジョブはすべての曜日に実行されます。

***MON** ジョブは月曜日に実行するようにスケジュールされます。

***TUE** ジョブは火曜日に実行するようにスケジュールされます。

***WED** ジョブは水曜日に実行するようにスケジュールされます。

***THU** ジョブは木曜日に実行するようにスケジュールされます。

***FRI** ジョブは金曜日に実行するようにスケジュールされます。

***SAT** ジョブは土曜日に実行するようにスケジュールされます。

***SUN** ジョブは日曜日に実行するようにスケジュールされます。

[トップ](#)

単一曜日 (SNGDAY)

このジョブを処理したい曜日を示します。曜日は*FIRST, *SECOND, *THIRD, *FOURTH, *FIFTH,および*LASTスケジュール・コードとともに使用されます。

*SAME

パラメーターの現行値は変更されません。

***SUN** ジョブは日曜日に実行するようにスケジュールされます。

***MON** ジョブは月曜日に実行するようにスケジュールされます。

***TUE** ジョブは火曜日に実行するようにスケジュールされます。

***WED** ジョブは水曜日に実行するようにスケジュールされます。

***THU** ジョブは木曜日に実行するようにスケジュールされます。

***FRI** ジョブは金曜日に実行するようにスケジュールされます。

***SAT** ジョブは土曜日に実行するようにスケジュールされます。

[トップ](#)

間隔 (ITVDAY)

*NUMDAYスケジュール・コードとともに間隔として使用したい日数を指定します。このフィールドは*NUMDAYスケジュール・コードには必須です。

*SAME

パラメーターの現行値は変更されません。

1から99

ジョブの投入間隔の日数を指定してください。

[トップ](#)

年間の日付 (DATE)

ジョブの処理がスケジュールされている日付を指定します。日付は、システム形式に応じて月日(MMDD)または日月(DDMM)の形式で入力します。DATEパラメーターは、スケジュール・コード(SCDCDE)パラメーターに*DATEが入っている時には必須です。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

*SAME

パラメーターの現行値は変更されません。

日付 ジョブが投入される日付を指定します。

[トップ](#)

単一日付 (SNGDATE)

ジョブの処理がスケジュールされている日付を指定します。日付は、システム形式に応じて月日(MMDD)または日月(DDMM)の形式で入力します。SNGDATEパラメーターは、スケジュール・コード(SCDCDE)パラメーターに*ONCEが入っている時に使用されます。

*SAME

パラメーターの現行値は変更されません。

***NEXT**

ジョブは予定時刻が到来した時に処理されます。

日付 ジョブが投入される単一の日付を指定してください。

[トップ](#)

保管 (SAVE)

ジョブがその実行後に保管されるかどうかを指定します。SAVEパラメーターは、*ONCEスケジュール・コードと一緒に使用されます。

***SAME**

パラメーターの現行値は変更されません。

***YES** ジョブは実行後にADVANCED JOB SCHEDULERに保管されます。

***NO** ジョブは実行後にADVANCED JOB SCHEDULERによって削除されます。

[トップ](#)

月間の日付 (DAYMONTH)

このジョブを処理したい月内の日付を示します。月内の日付は*DAYスケジュール・コードと一緒に使用されます。月内の日付は1から31の範囲にできます。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

***SAME**

パラメーターの現行値は変更されません。

1から31

このジョブを処理したい月内の日付を指定します。

[トップ](#)

作業日 (WRKDAY)

月間の日付(DAYMONTH)パラメーターまたは間隔(ITVDAY)パラメーターに指定された日が作業日であるかどうかを指定します。作業日はそれぞれ*DAYおよび*NUMDAYスケジュール・コードと一緒に使用されます。たとえば、*DAYスケジュール・コードの使用時に、DAYMONTH(05 10)およびWRKDAY(*YES)を指定した場合は、ジョブは毎月5番目と10番目の作業日に実行されます。*NOを指定した場合には、ジョブはそれぞれ月の5番目と10番目のカレンダー日付に実行されます。作業日はシステム制御に指定されます。

*NUMDAYスケジュール・コードを使用していた場合には、選択する間隔は作業日または暦日に基づいたものとなり、これは、WRKDAYパラメーターで選択したものによって異なります。

***SAME**

パラメーターの現行値は変更されません。

***NO** 作業日は、DAYMONTHパラメーターと組み合わせて使用しません。

***YES** 作業日は、DAYMONTHパラメーターと組み合わせて使用します。

会計期間 (FSCPERIOD)

ジョブの会計年度内の会計期間を示します。期間は、会計予定表(FSCCAL)パラメーターに会計予定表名が指定されているときに使用されます。

単一値

*SAME

パラメーターの現行値は変更されません。

***ALL** すべての期間がジョブに組み込まれます。

その他の値(13までの反復)

1から13

ジョブに組み込みたい会計期間を指定してください。

トップ

テキスト (TEXT)

ジョブに関連したテキストを示します。

*SAME

パラメーターの現行値は変更されません。

***NONE**

ジョブに関連したテキスト記述はありません。

文字値 ジョブに関連したテキスト記述を指定してください。

トップ

リモート・ロケーション名 (RMTLOCNAME)

ジョブを実行するシステムのリモート・ロケーションおよびネットワーク識別を指定します。

注: RMTLOCNAMEパラメーターに指定されている値は、スケジュール・コード*ALTERNATEと一緒に使用すると無視されます。

*SAME

パラメーターの現行値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されているリモート・ロケーション名を使用します。

***LCL** ジョブをローカル・サーバー上で実行します。

リモート・ロケーション名

ジョブを実行するシステムと関連したリモート・ロケーションの名前を指定します。

ネットワークID.リモート・ロケーション名

システムと関連したネットワークIDおよびリモート・ロケーションの名前を指定してください。こ

これらの値はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式を使用して指定しますが、このNNNNNNNNはネットワークIDであり、CCCCCCCはリモート・ロケーション名です。

トップ

スケジュール範囲 (RANGE)

ジョブの開始時刻と終了時刻および開始日付と終了日付の範囲を指定します。

注: *MINUTESスケジュール・コードを使用する場合は、**開始時刻値は終了時刻**と組み合わせて使用します。*MINUTESスケジュール・コードは、ジョブの開始および停止時刻を指示するためにこれらの2つの値を使用する唯一のスケジュール・コードです。**開始日付および終了日付**はほとんどのスケジュール・コードで使用することができます。

注: RANGEパラメーターに指定されている値は、スケジュール・コード*ALTERNATEまたは*NONEと一緒に使用すると無視されます。

要素1: 開始時刻および日付

要素1: 開始時刻

*SAME

パラメーターの現行値は変更されません。

*NONE

ジョブには開始時刻は指定されません。

0から2400

ジョブの開始時刻を時分(HHMM)の形式で指定してください。

要素2: 開始日

*SAME

パラメーターの現行値は変更されません。

*NONE

このジョブには開始日付は指定されません。

文字値 このジョブの開始日付をジョブ形式で指定してください。

要素2: 終了時刻および日付

要素1: 終了時刻

*SAME

パラメーターの現行値は変更されません。

*NONE

このジョブには終了時刻は指定されていません。

0から2400

このジョブの終了時刻を時分(HHMM)の形式で指定してください。

要素2: 終了日

*SAME

パラメーターの現行値は変更されません。

*NONE

このジョブに指定された終了日付はありません。

文字値 このジョブの終了日付をジョブ形式で指定してください。

[トップ](#)

最大実行時間 (MAXRUN)

ジョブの最大実行時間 (分数) を指定します。

注: MAXRUNプロンプトに指定されている値は、スケジュール・コード*ALTERNATEと一緒に使用すると無視されます。

*SAME

パラメーターの現行値は変更されません。

*NOMAX

このジョブには最大時間はありません。

1から9999

このジョブの最大時間 (分数) を指定します。この分数が経過すると、ADVANCED JOB SCHEDULERはジョブが完了していてもいなくてもそのジョブを終了します。

[トップ](#)

通知 (正常) (PGRRCPNORM)

追加または変更するジョブの正常完了メッセージを受け取る通知宛先を指定します。このフィールドは、通知コマンドと一緒に使用されます。

注: JSを使用した配布の送信(SNDDSTJS)コマンドでこの機能を使用するには、SMTP情報を指定する必要があります。

注: 通知宛先 (正常) および通知メッセージに指定する値は、CHGNFYJSコマンドでそれぞれ&RCP変数と&MSGTXT変数に使用される置換変数です。

ジョブが正常完了した時に指定した宛先に送信したい通知メッセージを指定することができます。

単一値

***NONE**

このジョブが正常完了した時にメッセージを受け取る通知宛先は割り当てられません。

要素1: 通知の宛先

***SAME**

パラメーターの現行値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されている通知宛先を使用します。

***ONCALL**

呼び出し中の宛先だけがメッセージを受け取ります。

名前 ジョブが正常完了した時に、そのジョブからのメッセージを受け取る宛先の名前を指定してください。

要素2: 通知メッセージ

***SAME**

パラメーターの現行値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御からの通知メッセージが通知宛先に送信されます。

***COMP**

ジョブの完了状況が送られます。

文字値 このジョブが正常完了した時に通知宛先に送りたい通知メッセージを指定してください。

[トップ](#)

通知（異常）(PGRRC PABN)

追加または変更するジョブの異常完了メッセージを受け取る通知宛先を指定します。このフィールドは、通知コマンドと一緒に使用されます。

注: JSを使用した配布の送信(SNDDSTJS)コマンドでこの機能を使用するには、SMTP情報を指定する必要があります。

注: 通知宛先（異常）および通知メッセージに指定する値は、CHGNFYJSコマンドでそれぞれ&RCP変数と&MSGTXT変数に使用される置換変数です。

ジョブが異常完了した時に指定した宛先に送信したい通知メッセージを指定することができます。

単一値

***NONE**

このジョブが異常完了した時にメッセージを受け取る通知宛先は割り当てられません。

要素1: 通知の宛先

***SAME**

パラメーターの現行値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されている通知宛先を使用します。

***ONCALL**

呼び出し中の宛先だけがメッセージを受け取ります。

名前 ジョブが異常完了した時に、そのジョブからのメッセージを受け取る宛先の名前を指定します。

要素2: 通知メッセージ

***SAME**

パラメーターの現行値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御からの通知メッセージが通知宛先に送信されます。

***COMP**

ジョブの完了状況が送られます。

文字値 このジョブが異常完了した時に、通知宛先に送りたい通知メッセージを指定します。

トップ

通知開始ジョブ (PGRRCPPSTR)

ジョブの投入後、限度内に開始されない場合に、追加または変更しているジョブの通知を受け取る通知宛先を指定します。このフィールドは、通知コマンドと一緒に使用されます。

注: JSを使用した配布の送信(SNDDSTJS)コマンドでこの機能を使用するには、SMTP情報を指定する必要があります。

注: 通知宛先（ジョブ開始）に指定する値は、CHGNFYJSコマンドで&RCP変数に使用される置換変数です。&MSGTXTはメッセージIJS6059で置き換えられます。

開始限度（分数）を指定することができます。これは、通知が出される前にジョブがジョブ待ち行列に留まることのできる時間の長さです。

単一値

***NONE**

このジョブが開始限度を超えた時にメッセージを受け取る通知宛先は割り当てられません。

要素1: 通知の宛先

***SAME**

パラメーターの現行値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されている通知宛先を使用します。

***ONCALL**

呼び出し中の宛先だけがメッセージを受け取ります。

名前 ジョブの投入後、限度内に開始されない場合に、メッセージを受け取る宛先の名前を指定してください。

要素2: 開始限界

***SAME**

パラメーターの現行値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御中の開始限度がこのジョブに使用されます。

1から999

通知が出される前にジョブがジョブ待ち行列に留まることのできる分数を指定します。

[トップ](#)

代替ジョブ (ALTJOB)

ジョブの代替ジョブの名前を指定します。代替ジョブが実行されるのは、通常のジョブが異常終了した場合だけです。ジョブは必ずしも代替ジョブをもつ必要はありません。このコマンドのプロンプトが出された時にジョブ・リストからジョブを選択したい場合は、カーソルをこのパラメーターに位置付けて、F4キーを押してください。

代替ジョブがグループのメンバーである場合には、グループおよびグループの順序を指定することもできます。

単一値

***SAME**

パラメーターの現行値は変更されません。

***NONE**

ジョブに代替ジョブはありません。

要素1: ジョブ

名前 このジョブの代替ジョブにしたいジョブの名前を指定します。

要素2: グループ

***NONE**

代替ジョブに代替グループはありません。

名前 このジョブの代替ジョブに関連したグループの名前を指定してください。

要素3: グループ順序

***NONE**

代替ジョブには順序番号が割り当てられません。

1から99

代替ジョブに割り当てる順序番号を指定してください。

[トップ](#)

報告書配布ID (RPTDSTID)

ジョブの処理の結果として生成される報告書を配布するために使用される報告書配布IDを指定します。

***SAME**

パラメーターの現行値は変更されません。

***NONE**

ジョブに報告書配布IDはありません。

名前 このジョブと関連付けたい報告書配布IDを指定します。

トップ

回復処置 (RCYACN)

システムが電源遮断されているか制限状態にあるためにジョブを指定時刻に投入できない場合に取りられる回復処置を指定します。パラメーターに指定された処置は、次回のIPL時、あるいはADVANCED JOB SCHEDULERのシステムが活動状態になった時に行われます。

IPL時またはシステムが制限状態から脱出した時に投入されるジョブは、ジョブ・スケジュール項目に指定された時刻にジョブが投入される順序と同じ順序で投入されます。反復ジョブの複数のオカレンスが脱落した場合には、そのジョブは一度しか投入されません。ジョブの脱落した最初のオカレンスは現在の日付から計算されます。

IPLのスケジューラー部分はシステムのIPLでは完了する必要がないので、すべてのジョブが投入される前に、システム上で他のジョブを開始することができます。

このパラメーターは次の場合には適用されません。

- ジョブが投入された日付および時刻に保留されてから解放された場合。

注: RCYACNパラメーターに指定されている値は、スケジュール・コード*ALTERNATEまたは*NONEと一緒に使用すると無視されます。

*SAME

パラメーターの現行値は変更されません。

*JOBCTL

ジョブはジョブ制御に指定された回復処置を使用します。

*SBMRLS

ジョブは解放状態(RLS)で投入されます。

*SBMHLD

ジョブは保留状態(HLD)で投入されます。

*NOSBM

ジョブは投入されません。

*NOSBMを指定して影響があるのは、実行されなかったジョブの繰り返しだけです。ジョブ・スケジュール項目が繰り返しジョブの場合には、将来の繰り返しには影響がありません。

トップ

ジョブ記述 (JOBDD)

このジョブで使用されるジョブ記述の名前を指定します。

単一値

*SAME

パラメーターの現行値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されているジョブ記述がジョブで使用されます。

***USRPRF**

投入されたジョブの実行の元になるユーザー・プロファイル中のジョブ記述が投入されたジョブのジョブ記述として使用されます。

修飾子1: ジョブ記述

名前 ジョブに使用するジョブ記述の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ライブラリー・リストを使用して、ジョブ記述を見つけます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、ジョブ記述を見つけます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合は、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述が入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

ジョブ待ち行列 (JOBQ)

このジョブが入られるジョブ待ち行列の名前を指定します。

単一値

***SAME**

パラメーターの現行値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されているジョブ待ち行列がジョブで使用されます。

***JOBQ**

投入されたジョブは、指定されたジョブ記述のジョブ待ち行列に入れられます。

修飾子1: ジョブ待ち行列

名前 投入されたジョブが入られるジョブ待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ライブラリー・リストを使用して、ジョブ待ち行列を見つけます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、ジョブ待ち行列を見つけます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合は、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

ジョブ優先順位(JOBQ上) (JOBPTY)

ジョブ待ち行列のスケジューリング優先順位を指定します。有効な値の範囲は1から9で、1が最高の優先順位で9が最低の優先順位となります。

*SAME

パラメーターの現行値は変更されません。

*JOBCTL

ジョブ制御に指定されているスケジューリングの省略時値がジョブに使用されます。

*JOB

ジョブ記述に指定されているスケジューリング優先順位がこのジョブに使用されます。

1から9 ジョブのスケジューリング優先順位の値を指定します。

[トップ](#)

出力優先順位(OUTQ上) (OUTPTY)

このジョブによって作成されたプール出力ファイルの出力待ち行列の優先順位を指定します。有効な値の範囲は1から9で、1が最高の優先順位で9が最低の優先順位となります。

*SAME

パラメーターの現行値は変更されません。

*JOBCTL

ジョブ制御に指定されている出力優先順位の省略時の値がジョブに使用されます。

*JOB

ジョブ記述に指定されている出力優先順位がジョブに使用されます。

1から9 ジョブの出力優先順位の値を指定します。

[トップ](#)

印刷装置 (PRTDEV)

このジョブの省略時印刷装置の修飾名を指定します。

*SAME

パラメーターの現行値は変更されません。

*JOBCTL

ジョブ制御に指定されている印刷装置がこのジョブで印刷装置として使用されます。

*CURRENT

現在実行中のジョブによって使用されているものと同じ印刷装置がこのジョブに使用されます。

*USRPRF

投入されたジョブの実行の元になるユーザー・プロファイルの中に指定されている印刷装置が、このジョブの印刷装置として使用されます。印刷装置名は、このジョブの投入時にプロファイルから取り出されます。

*SYSVAL

このジョブの投入時にシステム値QPRTDEVに指定されている印刷装置が使用されます。

*JOBID

ジョブ記述に指定されている印刷装置が投入されるジョブに使用されます。

名前 投入されたジョブに使用される印刷装置の名前を指定してください。

[トップ](#)

出力待ち行列 (OUTQ)

ジョブによって作成されるスプール出力に使用される出力待ち行列の修飾名を指定します。このパラメーターが適用されるのは、出力待ち行列に*JOBを指定しているスプール印刷装置ファイルだけです。

単一値

*SAME

パラメーターの現行値は変更されません。

*JOBCTL

ジョブ制御に指定されている出力待ち行列がジョブの出力待ち行列として使用されます。

*USRPRF

投入されたジョブの実行の元になるユーザー・プロファイルの出力待ち行列が、このジョブの出力待ち行列として使用されます。

***DEV** スプール・ファイルの印刷装置と関連した出力待ち行列が使用されます。

*JOBID

投入されたジョブで使用されるジョブ記述に指定されている出力待ち行列がジョブの省略時出力待ち行列となります。

修飾子1: 出力待ち行列

名前 投入されたジョブによって省略時の出力待ち行列として使用される出力待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ライブラリー・リストを使用して、出力待ち行列を見つけます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーを使用して、出力待ち行列を見つけます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合は、QGPLが使用されます。

名前 出力待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ユーザー (USER)

投入されるジョブのユーザー・プロファイルの名前を指定します。ジョブ記述に*RQDが指定されている場合には、*JOBIDを指定することはできず、代わりにユーザー名を指定しなければなりません。

注：このパラメーターには次のIBM提供オブジェクトは使用できません。

- QDBSHR
- QDFTOWN

- QDOC
- QLPAUTO
- QLPINSTALL
- QRJE
- QSECOFR
- QSPL
- QSYS
- QTSTRQS

***SAME**

パラメーターの現行値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されているユーザー・プロファイルが投入されるジョブに使用されます。

***CURRENT**

現在実行中のジョブが使用しているものと同じユーザー・プロファイルが投入されたジョブに使用されます。

***JOB**

指定のジョブ記述に指定されているユーザー・プロファイルが投入されるジョブに使用されます。

名前 投入するジョブに使用されるユーザー・プロファイルの名前を指定してください。このユーザー・プロファイルに対する権限が必要です。ユーザー・プロファイルはジョブ記述に対して認可されていなければなりません。

トップ

印刷テキスト (PRTTXT)

印刷出力の各ページおよび区切りページの下部に印刷される30文字までのテキストを指定します。

***SAME**

パラメーターの現行値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御中の値がこのジョブに使用されます。

***JOB**

ジョブ記述中の値がこのジョブに使用されます。

***SYSVAL**

システム値QPRTTXTがこのジョブに使用されます。

***BLANK**

テキストは印刷されません。

文字値 各ページの最後に印刷される文字ストリングを指定します。最大30文字までをアポストロフィで囲んで入力できます。リスト上のテキストは、入力された通りのまま中央にそろえられます。

トップ

経路指定データ (RTGDTA)

ジョブの最初の経路指定ステップを開始するために使用される経路指定データを指定します。経路指定データは、ジョブが実行するプログラムを識別する経路指定項目を決定するため使用されます。

*SAME

パラメーターの現行値は変更されません。

*JOBCTL

ジョブ制御中の経路指定データの値がこのジョブに使用されます。

*JOB

ジョブ記述に指定されている経路指定データが、経路指定ステップを開始するために使用されます。

文字値 このジョブの経路指定データとして使用される文字ストリングを指定してください。最大80文字まで入力することができます（必要な場合にはアポストロフィで囲みます）。

[トップ](#)

現行ライブラリー (CURLIB)

実行中のジョブに関連した現行ライブラリーの名前を指定します。

*SAME

パラメーターの現行値は変更されません。

*JOBCTL

ジョブ制御の中に指定されている現行ライブラリーが、投入されるジョブで使用されます。

*USRPRF

投入されたジョブの実行の元になるユーザー・プロファイルの現行ライブラリーが投入されたジョブの現行ライブラリーとして使用されます。

*CRTDFT

投入されるジョブの現行ライブラリーはありません。オブジェクトが現行ライブラリーに作成される場合には、省略時の現行ライブラリーとしてQGPLが使用されます。

名前 投入されるジョブの現行ライブラリーとして使用するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ライブラリー・リスト (LIBL)

ライブラリー修飾子なしで指定されたオペレーティング・システムのオブジェクト名を検索するために使用されるライブラリー・リストの名前を指定します。このコマンドをプロンプトしているときにライブラリー・リストをリストから選択したい場合には、カーソルをこのパラメーター上に置いてF4キーを押してください。

*SAME

パラメーターの現行値は変更されません。

*JOBCTL

ジョブ制御に指定されているライブラリー・リストが、投入されるジョブで使用されます。

*JOBID

このジョブで使用されるジョブ記述の中のライブラリー・リストが、ジョブのライブラリー・リストの初期ユーザー部分として使用されます。

*SYSVAL

システムの省略時ユーザー・ライブラリー・リストがこのジョブで使用されます。これには、ジョブの開始時にシステム値QUSRLIBLで指定されたライブラリー名が入っています。

*NONE

このジョブの初期ライブラリー・リストのユーザー部分は空になります。

名前 このジョブに使用したいライブラリー・リストの名前を指定してください。

トップ

メッセージ・ロギング (LOG)

このジョブによってジョブ・ログに送られる情報の量およびタイプを決定するために使用するメッセージ・ロギング値を指定します。このパラメーターには、メッセージ（またはロギング）レベル、メッセージ重大度、およびメッセージ・テキストのレベルという3つの要素があります。このパラメーターに値を指定しない場合には、このジョブと関連したジョブ記述に指定されている値が使用されます。

要素1: レベル

*SAME

パラメーターの現行値は変更されません。

*JOBCTL

ジョブ制御の中に指定されているロギング用の値がこのジョブに使用されます。

*JOBID

ジョブ記述の中でメッセージ・ロギング用に指定されている値がこのジョブに使用されます。

0から4 このジョブのメッセージに使用されるメッセージ・ロギング・レベルの値を指定します。使用できるロギング・レベルは次の通りです。

- 0** データはログに記録されません。
- 1** 次の情報がログに記録されます。重大度レベルが指定されたメッセージ重大度以上で、ジョブの外部メッセージ待ち行列に送られるすべてのメッセージ（これには、ジョブの開始、ジョブの終了、およびジョブの完了状況を示すものが含まれます）。
- 2** 以下の情報がログに記録されます。
 - ロギング・レベル1の情報。
 - CLプログラムからログに記録され、指定された重大度レベル以上の重大度コードをもつメッセージが出される要求またはコマンド。
 - 要求に関連するすべてのメッセージ、あるいはCLプログラムからログに記録されるコマンド。これらは結果的に、指定された重大度以上の重大度レベルをもつ高レベル・メッセージとなります。
- 3** 以下の情報がログに記録されます。
 - ロギング・レベル1の情報。
 - CLプログラムからログに記録されるすべての要求またはコマンド。

- 要求に関連するすべてのメッセージ、あるいはCLプログラムからログに記録されるコマンド。これらは結果的に、指定された重大度以上の重大度レベルをもつ高レベル・メッセージとなります。

- 4 次の情報がログに記録されます。CLプログラムからログに記録されるすべての要求またはコマンドと、重大度コードが指定の重大度以上の（トレース・メッセージを含む）すべてのメッセージ。

注: 高レベル・メッセージは、CLプログラムからログに記録される要求またはコマンドを受け取ったプログラムのプログラム・メッセージ待ち行列に送られるメッセージです。

要素2: 重大度

*SAME

パラメーターの現行値は変更されません。

*JOBCTL

ジョブ制御にメッセージ重大度として指定されている値がこのジョブに使用されます。

*JOBBD

ジョブ記述の中でメッセージ・ロギング用に指定されている値がこのジョブに使用されます。

0から99

エラー・メッセージがジョブ・ログに記録されることになる最低の重大度レベルを指定します。

要素3: テキスト

*SAME

パラメーターの現行値は変更されません。

*JOBCTL

ジョブ制御に指定されているメッセージ・テキストの値がこのジョブで使用されます。

*JOBBD

ジョブ記述の中でメッセージ・ロギング用に指定されている値がこのジョブに使用されます。

*MSG メッセージ・テキストだけがジョブ・ログに書き込まれるか、またはユーザーに表示されます。

*SECLVL

エラー・メッセージのメッセージ・テキストとメッセージ・ヘルプの両方がジョブ・ログに書き込まれるか、あるいはユーザーに表示されます。

*NOLIST

ジョブが正常に完了した場合には、ジョブ・ログは作成されません。ジョブが異常終了した場合（ジョブの終了コードが20またはそれ以上の場合）には、ジョブ・ログが作成されます。ジョブ・ログに現れるメッセージには、メッセージ・テキストとヘルプ・テキストの両方が入っています。

トップ

CLプログラム・コマンドのログ (LOGCLPGM)

制御言語プログラムで実行されるコマンドがCLプログラムのメッセージ待ち行列を介してジョブ・ログに記録されるかどうかを指定します。このパラメーターはジョブのロギング・フラグの状況を設定します。CLプログラムの作成(CRTCLPGM)コマンドでLOGパラメーターに*JOBが指定されている場合は、このパラメーターに指定された値が使用されます。LOGパラメーターのその他の値はこのパラメーターに指定された値を一時変更します。コマンドは、要求と同じ方法でログに記録されます。

***SAME**

パラメーターの現行値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御中の値がこのジョブに使用されます。

***JOB**

ジョブ記述に指定されている値が使用されます。

***YES** CLプログラムのコマンドがジョブ・ログに記録されます。

***NO** CLプログラムのコマンドはジョブ・ログに記録されません。

トップ

照会メッセージに対する応答 (INQMSGRPY)

このジョブの実行の結果として送られる事前定義メッセージの応答方法を指定します。事前定義メッセージの応答方法に変更が行われないこと、すべての照会メッセージに応答が必要なこと、省略時の応答が出されること、あるいはそれぞれの事前定義照会メッセージが送られたときにシステム応答リストで一致する応答が検査されることを指定することができます。

***SAME**

パラメーターの現行値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御の中の照会メッセージに対する応答の値がこのジョブに使用されます。

***JOB**

このジョブで使用されるジョブ記述に指定された照会メッセージに対する応答制御が使用されます。

***RQD** このコマンドの実行時に出されたすべての照会メッセージには、その照会メッセージの受信側による応答が必要です。

***DFT** このコマンドの実行時に出される照会メッセージに回答するために、省略時のメッセージに対する応答が使用されます。

***SYSRPYL**

照会メッセージIDおよびメッセージ・データと一致するメッセージID および比較データをもっているこのジョブの実行結果として出される照会メッセージの項目があるかどうかを確かめるために、システム応答リストが検査されます。一致するものがあった場合にはその項目の応答値が使用されます。そのメッセージの項目がない場合には、応答が必要となります。

トップ

ジョブ待ち行列上での保留 (HOLD)

このジョブがジョブ待ち行列に入れられた時に保留されるかどうかを指定します。保留状態でジョブ待ち行列に入れられたジョブは、ジョブ解放(RLSJOB)コマンドで解放されるか、あるいはジョブ終了(ENDJOB)コマンドまたはジョブ待ち行列消去(CLRJOBQ)コマンドで終了されるまで保留されます。

*SAME

パラメーターの現行値は変更されません。

*JOBCTL

ジョブ制御の中のジョブ待ち行列で保留の値がこのジョブで使用されます。

*JOB

ジョブ記述に指定された値によって、ジョブがジョブ待ち行列に入れられた時にそのジョブが保留されるかどうか決定されます。

***YES** ジョブはジョブ待ち行列に入れられると、ジョブ解放(RLSJOB)コマンドで解放されるか、ジョブ終了(ENDJOB)コマンドで終了されるまで、保留されます。

***NO** ジョブ待ち行列に入れられた時にジョブは保留されません。

トップ

ジョブ・スイッチ (SWS)

このジョブで使用される8個のジョブ・スイッチ・グループの最初の設定値を指定します。これらのスイッチは、CLプログラムで設定またはテストでき、プログラムの流れを制御するために使用できます。8桁の文字ストリングに指定できるのは0 (オフ) と1 (オン) だけです。

*SAME

パラメーターの現行値は変更されません。

*JOBCTL

ジョブ制御の中のジョブ・スイッチの値がこのジョブに使用されます。

*JOB

ジョブ記述に指定されている値がジョブのスイッチの最初の設定値となります。

文字値 投入されたジョブの最初のスイッチ設定値として使用される8個のゼロと1の組み合わせを指定してください。

トップ

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

投入されたジョブが正常か異常かにかかわらず、実行を完了した時点で完了メッセージが送信される宛先のメッセージ待ち行列の名前を指定します。異常終了が起こった場合には、完了メッセージのヘルプ情報に考えられる原因が示されます。

単一値

*SAME

パラメーターの現行値は変更されません。

***JOBCTL**

ジョブ制御の中のメッセージ待ち行列の値がこのジョブに使用されます。

***USRPRF**

完了メッセージは、投入元のユーザー・プロファイルに指定されているメッセージ待ち行列に送られます。

***NONE**

完了メッセージは送られません。

修飾子1: メッセージ待ち行列

名前 完了メッセージが送信されるメッセージ待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ライブラリー・リストを使用して、メッセージ待ち行列を見つけます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、メッセージ待ち行列を見つけます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合は、QGPLが使用されます。

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

会計コード (ACGCDE)

この記述を使用するジョブのシステム資源の使用をログに記録する時に使用される会計コードを指定します。

***SAME**

パラメーターの現行値は変更されません。

***JOBCTL**

この記述を使用するジョブの会計コードはジョブ制御から取り出されます。

***JOB**

この記述を使用するジョブの会計コードはジョブ記述から取り出されます。

***USRPRF**

この記述を使用するジョブの会計コードは、ジョブに関連付けられたユーザー・プロファイルから取り出されます。

***BLANK**

この記述を使用するジョブに15個のブランクの会計コードが割り当てられます。

文字値 この記述を使用するジョブに使用したい会計コードを指定します。

[トップ](#)

実行優先順位 (RUNPTY)

ジョブの実行優先順位を指定します。実行優先順位は、他のジョブとマシン資源の使用を競合する時のジョブの重要性を表す1（最高の優先順位）から99（最低の優先順位）までの値です。この値はジョブの相対的な（絶対的ではない）重要性を表します。ジョブが再経路指定されると、この値はそのジョブ・クラス内でのジョブの重要性に応じてリセットされます。

*SAME

パラメーターの現行値は変更されません。

*JOBCTL

実行優先順位はジョブ制御から取り出されます。

*NOCHG

実行優先順位はジョブ処理の開始時に変更されません。

01から99

使用する優先順位を指定します。

[トップ](#)

初期ASPグループ (INLASPGRP)

投入されるジョブの初期スレッドのための補助記憶域プール(ASP)グループ名の初期設定を指定します。スレッドでは、ASPグループの設定(SETASPGRP)コマンドを使用して、そのライブラリー名スペースを変更することができます。ASPグループがスレッドと関連付けられると、ASPグループ内の独立ASPにあるすべてのライブラリーがアクセス可能になり、それらのライブラリーにあるオブジェクトは通常のライブラリー修飾オブジェクト名構文を使用して参照できます。指定されたASPグループ内の独立ASPにあるライブラリーに加えて、システムASP (ASP番号1)と基本ユーザーASP (ASP番号2から32)にあるライブラリーが、そのスレッドにライブラリー名スペースを形成します。

*SAME

パラメーターの現行値は変更されません。

*JOBCTL

初期ASPグループはジョブ制御から取得されます。

*CURRENT

現行スレッドのASPグループ名が投入されるジョブに使用されます。

*JOB

ジョブ記述に指定された初期ASPグループ名が投入されるジョブに使用されます。

*NONE

投入されるジョブの初期スレッドはASPグループと一緒に開始されないことを指定します。ライブラリー名スペースには、どのASPグループからのライブラリーも含まれません。システムASPおよび任意の基本ユーザーASPの中のライブラリーのみがライブラリー名スペースに入れられます。

名前 投入されるジョブの初期スレッドのために設定するASPグループの名前を指定してください。ASPグループ名は、ASPグループ内の基本ASP装置の名前です。このASPグループ内のすべてのASPのすべてのライブラリーがライブラリー名スペースに入れられます。

[トップ](#)

例

例1:ジョブの変更

```
CHGJOBJS  JOB(JOB02) APP(ACCTG) SCDCDE(*DAILY)
           FSCPERIOD(*ALL) TEXT('CHANGE TO JOB02')
```

このコマンドはジョブJOB02を変更します。このジョブのアプリケーションは会計アプリケーションに変更され、ジョブは、すべての会計期間にわたりスケジュール・コード*DAILYに従って実行されるように変更されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

通知コマンドの変更 (CHGNFYJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用した通知コマンドの変更(CHGNFYJS)コマンドにより、ユーザーが指定する宛先にメッセージを送信するための通知ソフトウェアから、使用するコマンドを指定することができます。ここで指定したコマンドは、ADDJOBJS、CHGJOBJS、およびSBMJOBJSコマンドによって、それぞれ正常および異常なジョブ完了の場合だけでなく、ジョブが指定された時間内に開始されない場合に通知を送信するために使用されます。通知 (正常) (PGRRCPNORM)、通知 (異常) (PGRRCPABN)、および通知開始ジョブ (PGRRCPSTR)パラメーターに指定した通知宛先と通知メッセージの値は、CHGNFYJSコマンドで使用される置換値になります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CMD	通知コマンド	文字値、 <u>*SAME</u> 、*SNDDSTJS、*NONE	オプション、位置 1

[トップ](#)

通知コマンド (CMD)

メッセージを送信するために指定の通知ソフトウェアの中で使用されるコマンドを指定します。ここで指定したコマンドは、正常および異常なジョブ完了の場合だけでなく、ジョブが指定された時間内に開始されない場合に通知を送信するために使用されます。

*SAME

パラメーターの現行値は変更されません。

*SNDDSTJS

JSを使用した配布の送信(SNDDSTJS)を使用して、電子メールを使用した通知メッセージを指定の宛先に送信します。置換変数が使用されますが、指定されていません。

注: JSを使用した配布の送信(SNDDSTJS)コマンドを使用する前に、SMTP情報の指定が必要です。

*NONE

ADVANCED JOB SCHEDULERで通知ソフトウェア・パッケージは使用しません。

文字値 正常および異常なジョブ完了の場合だけでなく、ジョブが指定された時間内に開始されない場合にADVANCED JOB SCHEDULERにメッセージを送信させたい時に使用するコマンドを指定してください。2つの置換変数は&RCP (宛先) と&MSGTXT (メッセージ) です。

[トップ](#)

例

```
CHGNFYJS  CMD('SNDMNASG TOUSER(&RCP)
           MSG(''&MSGTXT''))
```

このコマンドはADVANCED JOB SCHEDULERの通知属性を変更します。この例では、正常または異常なジョブ完了の結果としてメッセージを宛先に送信するために、MNAメッセージの送信(SNDMNASG)コマンドが使用されます。変数&RCP（宛先）および&MSGTXT（メッセージ）の値はPGRRCPNORMおよびPGRRCPABNパラメーターの中で指定され、CHGNFYJSコマンドで使用される置換変数となります。&MSGTXT変数の前後に引用符の対を入れる必要があります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

JS使用ポケット・ベル変更コマンド (CHGPGRJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用したポケットベル・コマンドの変更(CHGPGRJS) コマンドにより、指定する宛先にポケットベル・メッセージを送信するためにポケットベル呼び出しソフトウェアから使用するコマンドを指定できます。ここで指定するコマンドは、ADDJOBJS、CHGJOBJS、およびSBMJOBJSコマンドによって、それぞれ正常および異常なジョブ完了の場合にページを送信するために使用されます。**通知 (正常) (PGRRCPNORM)**パラメーターと**通知 (異常) (PGRRCPABN)**パラメーターに指定したポケットベル宛先およびポケットベル・メッセージの値は、CHGPGRJSコマンドで使用される置換値になります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CMD	通知コマンド	文字値, <u>*SAME</u> , *SNDDSTJS, *NONE	オプション的, 位置 1

[トップ](#)

通知コマンド (CMD)

メッセージを送信するために指定のポケットベル呼び出しソフトウェアで使用するコマンドを指定します。ここで指定するコマンドは、ジョブ・スケジュール項目の正常および異常完了の場合にページを送信するために使用されます。

*SAME

パラメーターの現行値は変更されません。

*NONE

ADVANCED JOB SCHEDULERでポケットベル呼び出しソフトウェア・パッケージは使用しません。

*SNDDSTJS

JSを使用した配布の送信(SNDDSTJS)を使用して、電子メールを使用した通知メッセージを指定の宛先に送信します。置換変数が使用されますが、指定されていません。

文字値 正常および異常なジョブ完了の場合に、ADVANCED JOB SCHEDULERでポケットベル・メッセージを送信する時に使用するコマンドを指定してください。2つの置換変数は&RCP (宛先) と &MSGTXT (メッセージ) です。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

JS使用のジョブのコピー (CPYJOBJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用するジョブのコピー(CPYJOBJS)コマンドによって、1つ以上のジョブとそのパラメーターのすべてを、1つ以上の新規のジョブにコピーすることができます。同じシステム上でジョブをコピーしたり、ユーザーが指定したリモート・ロケーション名にジョブをコピーしたり、あるいは同じシステム上の別のデータ・ライブラリーにジョブをコピーすることができます。新規ジョブの作成後に、関連するパラメーターの一部またはすべてを修正または変更することができます。

グループ内のすべてのジョブを、指定の新規グループにコピーすることができます。グループのコピー時には、コピー元ジョブの ジョブおよびグループ順序 フィールドに*ALLを、コピー先ジョブの ジョブおよびグループ順序 フィールドに*SAMEを指定しなければなりません。

依存関係をコピーするかどうか、ジョブをコピーしたい宛先、およびジョブのコピー時に行う必要がある処置の内容を指定することができます。実際のジョブ・コピーを処理する前に、1つ以上のジョブのコピーの影響を分析する報告書を印刷することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMJOB	FROMジョブ項目	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: ジョブ	総称名, 名前, *ALL	
	要素 2: グループ	総称名, 名前, *NONE, *ALL	
	要素 3: グループ順序	1-99, *NONE, *ALL	
TOJOB	TOジョブ項目	単一値: *RMTLOCNAME, *DATALIB その他の値: 要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: ジョブ	名前, *SAME	
	要素 2: グループ	名前, *SAME, *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, *SAME, *NONE	
CPYDEP	依存関係のコピー	*NO, *YES	オプション
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション名	名前	オプション
DATALIB	データ・ライブラリー	名前	オプション
APP	アプリケーション	総称名, 名前, *ALL, *NONE	オプション
ACTION	処置	*REPORT, *COPY	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
ITMOPT	項目オプション	要素リスト	オプションナル
	要素 1: ジョブ定義	<u>*ADD</u> , *REPLACE	
	要素 2: アプリケーション	<u>*ADD</u> , *REPLACE	
	要素 3: 予定表	<u>*ADD</u> , *REPLACE	
	要素 4: 休日予定表	<u>*ADD</u> , *REPLACE	
	要素 5: 会計予定表	<u>*ADD</u> , *REPLACE	
	要素 6: ライブラリー・リスト	<u>*ADD</u> , *REPLACE	
	要素 7: パラメーター	<u>*ADD</u> , *REPLACE	

トップ

FROMジョブ項目 (FROMJOB)

新しいジョブを作成するためにコピーしたいジョブ・スケジュール項目の名前を指定します。ジョブを指定しなければなりません、代わりにジョブが属しているグループを、グループ内でのそのジョブの順序番号とともに指定することもできます。

注: 総称ジョブ名または*ALLの指定が有効であるのは、リモート・ロケーション名がリモート・ロケーション名 (RMTLOCNAME)パラメーターに指定されている時、またはデータ・ライブラリーがデータ・ライブラリー (DTALIB)パラメーターに指定されている時だけです。これらのパラメーターは、それぞれ *RMTLOCNAMEまたは*DATALIBをTOジョブ項目 (TOJOB)ジョブ・パラメーターに指定すると使用可能になります。

注: グループをコピーしている場合は、ジョブ名の*ALL,単一グループ名、およびグループ順序の*ALLを指定する必要があります。

これは必須パラメーターです。

要素1: ジョブ

***ALL** コマンドに指定した他のパラメーターと一致するすべてのジョブがコピーされます。

総称名 ジョブの総称名を指定します。総称名とは、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングで、たとえば、ABC*などです。総称名を指定した場合には、その総称名で始まるジョブ名をもつすべての項目が表示されます。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが組み込まれていない場合には、システムはそれを完全なジョブ名と見なします。

名前 コピーしたいジョブ・スケジュール項目のユーザー定義名を指定してください。

要素2: グループ

*NONE

ジョブはグループに割り当てられていません。

***ALL** そのジョブが属しているすべてのグループをコピーします。

総称名 グループの総称名を指定します。総称名とは、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングで、たとえば、ABC*などです。総称名を指定した場合には、その総称名で始まるグループ名をもつすべての項目が表示されます。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが組み込まれていない場合には、システムはそれを完全なグループ名と見なします。

名前 ジョブが属するグループのユーザー定義名を指定します。

要素3: グループ順序

*NONE

ジョブに割り当てられる順序番号はありません。

***ALL** すべての順序番号をコピーします。

1から99

グループ内のジョブの順序番号を指定してください。

[トップ](#)

TOジョブ項目 (TOJOB)

コピー元ジョブ(**FROMJOB**)パラメーターに指定されているジョブをコピーした結果として作成するジョブ・スケジュール項目の名前を指定します。ジョブを指定しなければなりません、代わりにジョブが属しているグループを、グループ内でのそのジョブの順序番号とともに指定することもできます。

注: グループをコピーしている場合には、ジョブ名に***SAME**を指定し、グループ順序番号に単一のグループ名と***SAME**を指定しなければなりません。

単一値

***RMTLOCNAME**

ジョブはリモート・ロケーション名 (**RMTLOCNAME**)パラメーターに指定されたりリモート・ロケーション名にコピーされます。

***DATALIB**

ジョブはデータ・ライブラリー (**DTALIB**)パラメーターに指定された同じシステム上のデータ・ライブラリーにコピーされます。

要素1: ジョブ

*SAME

ジョブの現行の名前は変更されません。

名前 コピーするジョブから作成するジョブ・スケジュール項目のユーザー定義名を指定してください。

要素2: グループ

*SAME

グループの現行の名前は変更されません。

***NONE**

ジョブはグループのメンバーではありません。

名前 ジョブが属するグループのユーザー定義名を指定します。

要素3: グループ順序

*SAME

ジョブの順序番号は変更されません。

***NONE**

ジョブに割り当てられる順序番号はありません。

グループ内のジョブの順序番号を指定してください。

[トップ](#)

依存関係のコピー (CPYDEP)

依存関係をFROMJOBパラメーターに指定されているジョブからTOJOBパラメーターに指定されているジョブにコピーする必要があるかどうかを指定します。

***NO** 元のジョブからジョブ依存関係は新しいジョブにコピーされません。

***YES** 元のジョブからジョブ依存関係が新しいジョブにコピーされます。

[トップ](#)

リモート・ロケーション名 (RMTLOCNAME)

ジョブのコピー先であるシステムのロケーションおよびネットワーク識別を指定します。

リモート・ロケーション名

ジョブのコピー先であるシステムと関連したリモート・ロケーションの名前を指定します。

ネットワークID.リモート・ロケーション名

システムと関連したネットワークIDおよびリモート・ロケーションの名前を指定してください。これらの値はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式を使用して指定しますが、このNNNNNNNNはネットワークIDであり、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。

[トップ](#)

データ・ライブラリー (DTALIB)

ジョブのコピー先であるデータ・ライブラリーを指定します。

名前 ジョブのコピー先であるデータ・ライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

アプリケーション (APP)

FROMJOBパラメーターに指定されたジョブが属しているアプリケーションの名前を指定します。

***ALL** FROMJOBパラメーターに指定されたジョブを含むすべてのアプリケーションを組み込みます。

***NONE**

このジョブにはアプリケーションが指定されていません。

総称名 アプリケーションの総称名を指定してください。総称名とは、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングで、たとえば、ABC*などです。総称名を指定した場合には、その総称名で始まるアプリケーション名をもつすべての項目が表示されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはこれを完全なアプリケーション名と見なします。

名前 コピーしているジョブが属しているアプリケーション・プログラムの名前を指定します。

処置 (ACTION)

ジョブ・リモート報告書のコピーを作成するか、あるいは実際のコピーを実行するかを指定します。

***REPORT**

ジョブ・リモート報告書のコピーを作成します。これは、*ALLまたは総称選択を使用する時には特に、別のシステムにジョブをコピーする前に行うようお願いめます。この報告書の印刷装置ファイルはQPIJS2CJです。

***COPY**

要求されたジョブをコピーします。

トップ

項目オプション (ITMOPT)

処置リストに指定された各項目に対して行う処置の内容を指定します。

要素1: ジョブ定義

***ADD** ジョブのジョブ定義をコピー先に追加します。ジョブ定義がすでに存在する場合には、このジョブ定義はコピーされません。

***REPLACE**

ジョブのジョブ定義をコピー先に追加します。ジョブ定義がすでに存在する場合には、これは置き換えられます。

要素2: アプリケーション

***ADD** ジョブのアプリケーションをコピー先に追加します。そのアプリケーションがすでに存在する場合には、このアプリケーションはコピーされません。

***REPLACE**

ジョブのアプリケーションをコピー先に追加します。このアプリケーションがすでに存在する場合には、これは置き換えられます。

要素3: 予定表

***ADD** ジョブの予定表をコピー先に追加します。この予定表がすでに存在する場合には、この予定表はコピーされません。

***REPLACE**

ジョブの予定表をコピー先に追加します。この予定表がすでに存在する場合には、これは置き換えられます。

要素4: 休日予定表

***ADD** ジョブの休日の予定表をコピー先に追加します。この休日の予定表がすでに存在する場合には、この休日の予定表はコピーされません。

***REPLACE**

ジョブの休日の予定表をコピー先に追加します。この休日の予定表がすでに存在する場合には、これは置き換えられます。

要素5: 会計予定表

***ADD** ジョブの会計予定表をコピー先に追加します。会計予定表がすでに存在する場合には、この会計予定表はコピーされません。

***REPLACE**

ジョブの会計予定表をコピー先に追加します。この会計予定表がすでに存在する場合には、これは置き換えられます。

要素6: ライブラリー・リスト

***ADD** ジョブのライブラリー・リストをコピー先に追加します。ライブラリー・リストがすでに存在する場合には、このライブラリー・リストはコピーされません。

***REPLACE**

ジョブのライブラリー・リストをコピー先に追加します。ライブラリー・リストがすでに存在する場合には、これは置き換えられます。

要素7: パラメーター

***ADD** ジョブのパラメーターをコピー先に追加します。パラメーターがすでに存在する場合には、このパラメーターはコピーされません。

***REPLACE**

ジョブのパラメーターをコピー先に追加します。パラメーターがすでに存在する場合には、これは置き換えられます。

[トップ](#)

例

例1:新規ジョブへのジョブのコピー

```
CPYJOBJS FROMJOB(JOB02) TOJOB(JOB03) CPYDEP(*YES)
```

このコマンドはJOB02をJOB03と呼ばれる新規ジョブにコピーします。ジョブの依存関係がJOB02からJOB03にコピーされます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

JSを使用した履歴の表示 (DSPHSTJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用した履歴の表示(DSPHSTJS)コマンドにより、指定された完了状況、日付範囲、および順序に基づいて、ジョブ完了履歴を表示または印刷できます。ジョブ・スケジューラーを使用した履歴の表示コマンドは、「履歴の表示」画面を表示しますが、これには DSPHSTJS で選択したパラメーターに基づいてジョブのジョブ情報、最終実行情報、および完了状況が示されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ項目	要素リスト	オプション、位置 1
	要素 1: ジョブ	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	
	要素 2: グループ	総称名, 名前, <u>*ALL</u> , *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, <u>*ALL</u> , *NONE	
STATUS	完了状況	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 7 回の繰り返し): *NORMAL, *ABNORMAL, *ABNGRP, *SBMERROR, *PROCESS, *JOBQ, *CANCELLED, *RESET	オプション
PERIOD	履歴出力の期間	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
	要素 2: 開始日	文字値, *CURRENT, <u>*BEGIN</u>	
	要素 2: 終了時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
要素 2: 終了日	文字値, *CURRENT, <u>*END</u>		
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション名	名前, <u>*ALL</u> , *LCL, *JOBCTL	オプション
SEQOPT	順序付けオプション	<u>*DATE</u> , *JOB, *GROUP	オプション
START	最初に表示する項目	<u>*LAST</u> , *FIRST	オプション
OUTPUT	出力	<u>*</u> , *PRINT	オプション

[トップ](#)

ジョブ項目 (JOB)

表示または印刷したい1つ以上のジョブの名前を指定します。その履歴を表示または印刷したいジョブのグループおよび関連順序番号を指定することができます。画面または報告書は、ジョブ別、日付別、またはグループ別に順序付けできます。実行キーを押すと「履歴の表示」パネルが示されて、選択したジョブ・履歴情報に対してさまざまな処置を実行できます。

要素1: ジョブ

***ALL** コマンド中に指定されている基準に適合するすべてのジョブのADVANCED JOB SCHEDULERヒストリーを表示または印刷します。

総称名 総称ジョブを指定してください。たとえば、JOB*を指定すると、名前がJOBで始まるすべてのジョブが組み込まれることになります。

名前 表示または印刷したいジョブの名前を指定してください。

要素2: グループ

***ALL** 任意のグループのメンバーであるすべてのグループのADVANCED JOB SCHEDULER ヒストリーを表示または印刷します。

***NONE**

ジョブはグループのメンバーではありません。

総称名 総称グループを指定してください。たとえば、GROUP*を指定すると、名前がGROUPで始まるすべてのグループが組み込まれることになります。

名前 表示または印刷したいグループの名前を指定してください。

要素3: グループ順序

***ALL** すべての順序番号が、表示または印刷したいジョブに組み込まれます。

***NONE**

ジョブには順序番号がありません。

1から99

表示または印刷したいジョブの順序番号を指定してください。

[トップ](#)

完了状況 (STATUS)

ADVANCED JOB SCHEDULERヒストリー情報を表示または印刷する時に使用したい完了状況を指定します。

単一値

***ALL** 完了状況に関係なくすべてのジョブが「ヒストリーの表示」画面に組み込まれます。

その他の値(7までの反復)

***NORMAL**

ジョブは正常完了で終了しました。

***ABNORMAL**

ジョブは異常完了しました。ジョブが異常終了した理由は、ADVANCED JOB SCHEDULERログを使用して判別できます。

***ABNGRP**

グループは異常終了しました。この完了状況は、前のジョブ・グループが正常に実行されなかったために処理されなかったグループ中のすべてのジョブに適用されます。

***SBMERROR**

ジョブは、ジョブ投入でエラーがあったために正常に実行されていません。投入エラーの例には、ジョブを投入する適切な権限をもたないユーザーがジョブを投入した場合があります。

***PROCESS**

ジョブは現在システムで処理中です。

***JOBQ**

ジョブは現在ジョブ待ち行列上にあり、処理を待機しています。

***CANCELLED**

ジョブは完了する前に取り消されました。

***RESET**

ジョブは手操作でリセットされました。

[トップ](#)

ヒストリー出力の期間 (PERIOD)

表示または印刷のためにヒストリー項目が選択される期間を指定します。

要素1: 開始時刻および日付

それ以降にヒストリー項目が組み込まれる開始日時を指定します。指定した時刻および日付より前に開始したジョブは画面または報告書に組み込まれません。

要素1: 開始時刻

***AVAIL**

開始日用に使用できる任意の時刻が組み込まれます。

時刻 指定した開始日付に対する開始時刻を指定してください。これにより、どのヒストリー項目を組み込むかを指示します。

時刻は24時間形式で指定し、時刻区切り記号を使用してもしなくても構いません。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4桁のストリング(HHMM)を指定してください。ここで、HH=時、MM=分です。時および分はそれぞれ正確に2桁でなければなりません(必要な場合は先行ゼロを使用します)。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、5桁のストリングを指定してください。ジョブに指定されている時刻区切り記号が時、分、および秒を区切るために使用されます。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合は、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ユーザー・ジョブに指定されているもの以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

要素2: 開始日

***BEGIN**

ヒストリー項目の最初の項目から組み込まれます。

***CURRENT**

現在の日付で、指定された開始時刻と終了時刻の間（指定されている場合）の実行日付が組み込まれます。

日付 開始日付を指定してください。日付はジョブ日付形式で指定しなければなりません。

整数 検索のために使用したい（現在の日付より前の）日数を表す数値を指定してください。たとえば、10など。現在の日付が03/12/01（MM/DD/YYの日付形式）である場合には、ADVANCED JOB SCHEDULERヒストリーの開始日付は03/02/01となります。

要素2: 終了時刻および日付

それ以降にヒストリー項目が組み込まれなくなる終了日時を指定します。指定した時刻および日付より後のジョブ完了時刻は画面または報告書のヒストリー項目に組み込まれません。

要素1: 終了時刻

***AVAIL**

終了日付用に使用できる任意の時刻が組み込まれます。

時刻 指定した終了日付に対する終了時刻を指定してください。これにより、どのヒストリー項目を組み込むかを指示します。

要素2: 終了日

***END** ヒストリー情報の終わりまでのヒストリー項目が画面または報告書に組み込まれます。

***CURRENT**

実行日付が現在日付またはそれ以前となっているヒストリー項目が画面または報告書に組み込まれます。

日付 終了日付を指定してください。日付はジョブ日付形式で指定しなければなりません。

整数 検索のために使用したい（現在の日付より前の）日数を表す数値を指定してください。たとえば、10など。現在の日付が03/22/01（MM/DD/YYの日付形式）である場合には、ADVANCED JOB SCHEDULERヒストリーの終了日付は03/12/01となります。

トップ

リモート・ロケーション名 (RMTLOCNAME)

表示または印刷したいジョブ・ヒストリーを作成したシステムのリモート・ロケーションおよびネットワーク識別を示します。

***ALL** ネットワーク中のすべてのシステムに対してすべてのジョブ・ヒストリーを選択します。

***LCL** ローカル・システムに対してすべてのジョブ・ヒストリーを選択します。

***JOBCTL**

リモート・ロケーション名として*JOBCTLを使用して、すべてのジョブ・ヒストリーを選択します。

リモート・ロケーション名

表示または印刷したいジョブ・ヒストリーのあるシステムに関連したリモート・ロケーションの名前を指定してください。

ネットワークID.リモート・ロケーション名

システムと関連したネットワークIDおよびリモート・ロケーションの名前を指定してください。これらの値はNNNNNNNN.CCCCCCの形式を使用して指定しますが、このNNNNNNNNはネットワークIDであり、CCCCCはリモート・ロケーション名です。

トップ

順序付けオプション (SEQOPT)

「ヒストリーの表示」画面がどのように順序付けられるかを指定します。

***DATE**

「ヒストリーの表示」画面を日付別に順序付けます。

***JOB** 「ヒストリーの表示」画面をジョブ別に順序付けます。

***GROUP**

「ヒストリーの表示」画面をグループ別に順序付けます。

トップ

最初に表示する項目 (START)

最も新しいジョブ・ヒストリー項目を最初に表示するか、あるいは最も古いジョブ・ヒストリー項目を最初に表示するかを指定します。ジョブ・ヒストリー項目が別の表示画面上にある場合には、表示装置ユーザーは画面を上下に移動することによって、それを表示することができます。

***LAST**

最後の（最も新しい）ジョブ・ヒストリーが画面の最下行に表示されます。

***FIRST**

最初の（最も古い）ジョブ・ヒストリーが画面の最上行に表示されます。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求元ワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを示します。

*
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

例1:ジョブ・スケジューラー・履歴の表示

```
DSPHSTJS  SEQOPT(*JOB)  OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、すべてのジョブおよびすべてのグループについてジョブ・スケジューラー・履歴報告書を印刷します。報告書はジョブ別に順序付けられます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

JSを使用したジョブの表示 (DSPJOBJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用したジョブの表示(DSPJOBJS)コマンドを使用することにより、ADVANCED JOB SCHEDULERにセットアップした単一ジョブ、ジョブのグループ、またはすべてのジョブを表示または印刷することができます。画面または報告書はジョブ別、日付別、またはグループ別に順序付けることができます。

単一ジョブの表示を選択した場合には、「ジョブの表示」画面が表示されます。複数のジョブを表示するよう選択した場合には、「ジョブの表示」画面が表示され、この画面で、任意のジョブ・グループを個々に表示するよう選択することができます。ジョブまたはジョブのグループについての情報を印刷したい場合には、特定の区域またはすべての区域を印刷するように選択することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ項目	要素リスト	オプション、位置 1
	要素 1: ジョブ	総称名, 名前, *ALL	
	要素 2: グループ	総称名, 名前, *ALL, *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, *ALL, *NONE	
APP	アプリケーション	総称名, 名前, *ALL, *NONE	オプション
SCDCDE	スケジュール・コード	文字値, *ALL, *DAILY, *CALENDAR, *DATE, *DAY, *NUMDAY, *MINUTES, *ONCE, *MONTHEND, *FIRST, *SECOND, *THIRD, *FOURTH, *FIFTH, *LAST, *FIRSTWRK, *LASTWRK, *ALTERNATE, *TEMP, *NONE	オプション
CAL	予定表	総称名, 名前, *ALL, *NONE	オプション
HDYCAL	休日予定表	総称名, 名前, *ALL, *NONE	オプション
FSCCAL	会計予定表	総称名, 名前, *ALL, *NONE	オプション
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション名	名前, *ALL, *LCL, *JOBCTL	オプション
RPTDSTID	報告書配布ID	総称名, 名前, *ALL, *NONE	オプション
LIBL	ライブラリー・リスト	総称名, 名前, *ALL, *JOBCTL, *JOB, *SYSVAL, *NONE	オプション
STATUS	ジョブ状況	*ALL, *READY, *DEPW, *HELD, *OMIT, *PROCESS, *JOBQ, *SAVED	オプション
TEXT	テキスト	文字値, *ALL, *NONE, *GENERIC*	オプション
CMD	コマンド要求	文字値, *ALL, *NONE, *GENERIC*	オプション
SEQ	順序	*JOB, *DATE, *GROUP	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション
DETAIL	詳細	*BASIC, *FULL	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
AREA	領域	単一値: *ALL その他の値 (最大 5 回の繰り返し): *JOBDFN, *CMD, *AUT, *LDA, *DOC, *DEP	オプション

トップ

ジョブ項目 (JOB)

単一ジョブ、ジョブの総称グループ、またはすべてのジョブを表示または印刷したいことを指定します。総称グループをもつ単一ジョブ、単一グループをもつすべてのジョブ、などと指定することができます。

要素1: ジョブ

***ALL** すべてのジョブを表示または印刷します。

総称名 表示または印刷したいジョブの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。名前に*が指定されていない場合には、システムはその名前を完全なジョブと見なします。

名前 表示または印刷したいジョブの名前を指定してください。

要素2: グループ

***ALL** 指定された1つ以上のジョブがそのメンバーとなるすべてのグループが表示または印刷されます。

***NONE**

1つ以上のジョブと関連したグループはありません。

総称名 表示または印刷したいグループの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。名前に*が指定されていない場合には、システムはその名前を完全なグループと見なします。

名前 表示または印刷したい1つ以上のジョブが入っているグループの名前を指定してください。

要素3: グループ順序

***ALL** 指定した1つ以上のグループのすべての順序番号が表示または印刷されます。

***NONE**

このジョブと関連した順序番号はありません。

1から99

表示または印刷したい1つ以上のグループの中のジョブの順序番号を指定してください。

トップ

アプリケーション (APP)

表示または印刷したいアプリケーションの名前を指定します。

***ALL** このコマンドの他のパラメーター値に適合するすべてのアプリケーション項目が画面または報告書に表示されます。

***NONE**

ジョブはアプリケーションに割り当てられていません。

総称名 アプリケーションの総称名を指定してください。総称名とは、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングで、たとえば、ABC*などです。総称名を指定した場合には、その総称名で始まるアプリケーション名をもつすべての項目が表示されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはこれを完全なアプリケーション名と見なします。

名前 表示または印刷したいアプリケーションのユーザー定義名を指定してください。

トップ

スケジュール・コード (SCDCDE)

表示または印刷したい1つ以上のジョブのスケジュール・コードまたはスケジュール名を指定します。

***ALL** このコマンドの他のパラメーター値に適合するすべてのスケジュール・コード項目が画面または報告書に表示されます。

***DAILY**

表示または印刷したいジョブは、*DAILYスケジュール・コードを使用して実行されるようにスケジュールします。

***CALENDAR**

表示または印刷したいジョブは、*CALENDARスケジュール・コードを使用して実行されるようにスケジュールします。

***DATE**

表示または印刷したいジョブは、*DATEスケジュール・コードを使用して実行されるようにスケジュールします。

***DAY** 表示または印刷したいジョブは、*DAYスケジュール・コードを使用して実行されるようにスケジュールします。

***NUMDAY**

表示または印刷したいジョブは、*NUMDAYスケジュール・コードを使用して実行されるようにスケジュールします。

***MINUTES**

表示または印刷したいジョブは、*MINUTESスケジュール・コードを使用して実行されるようにスケジュールします。

***ONCE**

表示または印刷したいジョブは、*ONCEスケジュール・コードを使用して実行されるようにスケジュールします。

***MONTHEND**

表示または印刷したいジョブは、*MONTHENDスケジュール・コードを使用して実行されるようにスケジュールします。

***FIRST**

表示または印刷したいジョブは、*FIRSTスケジュール・コードを使用して実行されるようにスケジュールします。

***SECOND**

表示または印刷したいジョブは、*SECONDスケジュール・コードを使用して実行されるようにスケジュールします。

***THIRD**

表示または印刷したいジョブは、*THIRDスケジュール・コードを使用して実行されるようにスケジュールします。

***FOURTH**

表示または印刷したいジョブは、*FOURTHスケジュール・コードを使用して実行されるようにスケジュールします。

***FIFTH**

表示または印刷したいジョブは、*FIFTHスケジュール・コードを使用して実行されるようにスケジュールします。5番目のオカレンスがない月の場合は、ジョブは実行されず、選択された曜日に5番目のオカレンスがある次の月での実行がスケジュールされます。

***LAST**

表示または印刷したいジョブは、*LASTスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

***FIRSTWRK**

表示または印刷したいジョブは、*FIRSTWRKスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

***LASTWRK**

表示または印刷したいジョブは、*LASTWRKスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

***ALTERNATE**

表示または印刷したいジョブは、*ALTERNATEスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

***TEMP**

表示または印刷したいジョブは一時的なジョブであり、SBMJOBJSコマンドの処理の結果として作成されます。

***NONE**

このジョブはスケジュール済みジョブではありません。これは、投入を待機中のグループ・ジョブのメンバー、先行ジョブの実行を待機中のジョブ、またはユーザーの手操作による投入を待機中のジョブとすることができます。

注: スケジュール・コード*NONEは、V4R2より前のリリースで使用されたスケジュール・コード*DEPJOBと置き換えられます。

文字値 処理したい1つ以上のジョブは、指定されたスケジュールまたは指定のスケジュールに見つかるスケジュール・コードを使用して実行されるようにスケジュールされます。たとえば、ユーザー定義のスケジュールMONTHLY1はスケジュール・コード*DAYを使用しています。MONTHLY1を指定することにより、スケジュールとしてMONTHLY1あるいはスケジュール・コードとして*DAYが使用されているジョブのすべてがリストされることになります。

トップ

予定表 (CAL)

表示または印刷したい予定表の名前を指定します。

***ALL** このコマンドの他のパラメーター値に適合するすべての予定表項目が画面または報告書に表示されます。

***NONE**

表示または印刷したいジョブは予定表を使用しません。

総称名 予定表の総称名を指定します。総称名とは、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングで、たとえば、ABC*などです。総称名を指定した場合には、その総称名で始まる予定表名をもつすべての項目が表示されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはこれを完全な予定表名と見なします。

名前 表示または印刷したい予定表のユーザー定義名を指定してください。

トップ

休日予定表 (HDYCAL)

表示または印刷したい休日予定表の名前を指定します。

***ALL** このコマンドの他のパラメーター値に適合するすべての休日予定表項目が画面または報告書に表示されます。

***NONE**

ジョブには休日予定表は割り当てられません。

総称名 休日予定表の総称名を指定します。総称名とは、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングで、たとえば、ABC*などです。総称名を指定した場合には、その総称名で始まる休日予定表名をもつすべての項目が表示されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはこれを完全な休日予定表名と見なします。

名前 表示または印刷したい休日予定表のユーザー定義名を指定してください。

トップ

会計予定表 (FSCCAL)

表示または印刷したい会計年度予定表の名前を指定します。

***ALL** このコマンドの他のパラメーター値に適合するすべての会計予定表が画面または報告書に表示されます。

***NONE**

ジョブには会計予定表は割り当てられません。

総称名 会計予定表の総称名を指定します。総称名とは、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングで、たとえば、ABC*などです。総称名を指定した場合には、その総称名で始まる会計予定表名をもつすべての項目が表示されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが組み込まれない場合には、システムは、それを完全な会計予定表名と見なします。

名前 表示または印刷したい会計予定表のユーザー定義名を指定してください。

トップ

リモート・ロケーション名 (RMTLOCNAME)

表示または印刷したいジョブ項目を作成したシステムのリモート・ロケーションおよびネットワーク識別を指定します。

***ALL** ネットワーク内のすべてのシステムのすべてのジョブ項目を選択します。

***LCL** ローカル・システムのすべてのジョブ項目を選択します。

***JOBCTL**

リモート・ロケーション名として*JOBCTLを使用するすべてのジョブ項目を選択します。

リモート・ロケーション名

表示または印刷したいジョブ項目のあるシステムに対応したリモート・ロケーションの名前を指定してください。

ネットワークID.リモート・ロケーション名

システムと関連したネットワークIDおよびリモート・ロケーションの名前を指定してください。これらの値はNNNNNNNN.CCCCCCの形式を使用して指定しますが、このNNNNNNNNはネットワークIDであり、CCCCCはリモート・ロケーション名です。

トップ

報告書配布ID (RPTDSTID)

表示または印刷したい報告書配布名のIDを指定します。

***ALL** このコマンドの他のパラメーター値に適合するすべての報告書配布IDが画面または報告書に表示されます。

***NONE**

報告書配布IDをもつジョブを画面または報告書に組み込みません。

総称名 報告書配布IDは総称です。たとえば、**ACT***を指定すると、文字**ACT**で始まる報告書配布IDが入っているすべてのジョブが画面または報告書に組み込まれることとなります。

名前 表示または印刷したい報告書配布IDを指定してください。

トップ

ライブラリー・リスト (LIBL)

表示または印刷に組み込みたいライブラリー・リストの名前を指定します。このコマンドのプロンプトが出された時にリストからライブラリー・リスト名を選択したい場合は、カーソルをこのパラメーターに位置付けて、F4キーを押してください。

***ALL** ライブラリー・リストに関係なく、すべてのジョブが画面または報告書に組み込まれます。

***JOBCTL**

そのライブラリー・リストが*JOBCTLであるジョブだけが画面または報告書に組み込まれます。

***JOB**

そのライブラリー・リストが*JOBであるジョブだけが画面または報告書に組み込まれます。

***SYSVAL**

そのライブラリー・リストが*SYSVALであるジョブだけが画面または報告書に組み込まれます。

***NONE**

そのライブラリー・リストが*NONEであるジョブだけが画面または報告書に組み込まれます。

総称名 ライブラリー・リスト名は総称です。たとえば、"LIB*"を指定することによって、そのライブラリー・リストが文字"LIB"で始まるすべてのジョブが表示または報告書に組み込まれることとなります。

名前 画面または報告書に組み込みたいライブラリー・リストの名前を指定します。

トップ

ジョブ状況 (STATUS)

表示または印刷したいジョブの状況コードを指定します。

***ALL** 状況に関係なくすべてのジョブを画面または報告書に組み込みます。

***READY**

ジョブ状況が*READYとなっているジョブだけを画面または報告書に組み込みます。ジョブ状況*READYのジョブは、それらの次のスケジュール日時に処理されるのを待機しているジョブです。

***DEPW**

そのジョブ状況が*DEPWであるジョブだけが表示または報告書に組み込まれます。ジョブ状況*DEPWのジョブは、他のジョブまたはイベントに基づいて処理されるのを待機しているジョブです。

***HELD**

ジョブ状況が*HELDのジョブだけを画面または報告書に組み込みます。ジョブ状況が*HELDのジョブは、中断されていて解放されるまでは処理されないジョブのことです。

***OMIT**

ジョブ状況が*OMITとなっているジョブだけを画面または報告書に組み込みます。

***PROCESS**

ジョブ状況が*PROCESSとなっているジョブだけを画面または報告書に組み込みます。ジョブ状況が*PROCESSとなっているジョブとは、表示または報告の時点で処理中のジョブのことです。

***JOBQ**

ジョブ状況が*JOBQとなっているジョブだけが画面または報告書に組み込まれます。ジョブ状況が*JOBQとなっているジョブとは、表示または報告の時点でジョブ待ち行列上にあるジョブのことです。

***SAVED**

ジョブ状況が*SAVEDとなっているジョブだけが画面または報告書に組み込まれます。ジョブ状況が*SAVEDとなっているジョブとは、将来の使用のために保管されている1回限りのジョブのことです。

トップ

テキスト (TEXT)

表示または印刷したいジョブに関連したテキストを指定します。任意の文字ストリングを検索することができ、テキスト中にその文字ストリングが入っているジョブ・スケジュール項目だけが画面または報告書に組み込まれます。

***ALL** テキストに関係なく、すべてのジョブ・スケジュール項目を表示または報告します。

***NONE**

テキストとして空白または*NONEが入っているすべてのジョブ・スケジュール項目を表示または報告します。

総称テキスト

テキストは総称です。たとえば、「THE JOB」を指定すると、「THE JOB」という語で始まるすべてのテキストが画面または報告書に組み込まれることになります。

文字値 指定されたテキスト・ストリングをもつすべてのジョブ・スケジュール項目を表示したいことを指定します。

トップ

コマンド要求 (CMD)

表示または印刷したいジョブのコマンド要求を指定します。任意のコマンド要求、コマンド文字のストリング、またはコマンド要求をもたない画面項目を組み込むことができます。

***ALL** コマンド要求の有無に関係なく、すべてのジョブ・スケジュール項目を表示または印刷します。

***NONE**

コマンド要求をもたないジョブ・スケジュール項目を表示または印刷します。

総称コマンド

総称コマンド情報を指定します。たとえば、「CALL PG*」を指定すると、「CALL PG」というストリングで始まるすべてのコマンド要求が画面に組み込まれることになります。

文字値 コマンド要求が指定されているすべてのジョブ・スケジュール項目を表示または印刷したいことを指定します。

トップ

順序 (SEQ)

選択したジョブ・スケジュール項目を表示または報告したい順序を指定します。

***JOB** ジョブ・スケジュール項目をジョブの順序で表示または報告します。

***DATE**

ジョブ・スケジュール項目を日付の順序で表示または報告します。

***GROUP**

ジョブ・スケジュール項目をグループの順序で表示または報告します。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求元ワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスプール出力で印刷するかを示します。

***** 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスプール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

***PRINT**

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

詳細 (DETAIL)

印刷出力用に使用される形式を指定します。

***BASIC**

項目は簡略リスト形式で印刷されます。

***FULL**

各項目の詳細が拡大形式で印刷されます。

[トップ](#)

領域 (AREA)

詳細 (DETAIL)パラメーターに*FULLを指定した時に、報告書に組み込みたいジョブについての情報を指定します。

単一値

***ALL** 1つ以上のジョブについてのすべての情報が画面または報告書に組み込まれます。

その他の値(5までの反復)

***JOBDEFN**

ジョブ定義情報が画面または報告書に組み込まれます。

***CMD** コマンド情報が画面または報告書に組み込まれます。

***LDA** ローカル・データ域情報が画面または報告書に組み込まれます。

***DOC** 文書情報が画面または報告書に組み込まれます。

***DEP** 依存関係情報が画面または報告書に組み込まれます。

[トップ](#)

例

例1:ジョブの表示

```
DSPJOBJS JOB(JOB02) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドはジョブJOB02に関する情報を印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

ジョブ・スケジューラーのログ表示 (DSPLOGJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーのログの表示(DSPLOGJS)コマンドを使用することにより、ADVANCED JOB SCHEDULERのログを表示または印刷することができます。ADVANCED JOB SCHEDULERログは、ADVANCED JOB SCHEDULERが処理の結果として作成したメッセージを日付および時刻別に表示したものです。DSPLOGJSコマンドを使用することにより、ログのすべてまたは一部を表示または印刷することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	タイプ	*ALL, *RUN, *SUBMIT, *MAINT, *EMAIL, *WORKFLOW	オプション、位置 1
PERIOD	ログ出力の期間	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, *AVAIL	
	要素 2: 開始日	文字値, *CURRENT, *BEGIN	
	要素 2: 終了時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, *AVAIL	
	要素 2: 終了日	文字値, *CURRENT, *END	
SEV	重大度	0-99, *ALL	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション
DETAIL	詳細	*BASIC, *FULL	オプション
JOB	ジョブ項目	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ジョブ	総称名, 名前, *ALL	
	要素 2: グループ	総称名, 名前, *ALL, *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, *ALL, *NONE	
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション名	名前, *ALL, *LCL	オプション
USER	ユーザー	名前, *ALL	オプション
MSGID	メッセージID	名前, *ALL	オプション

トップ

タイプ (TYPE)

ログ項目を検討したい項目のタイプ。

***ALL** すべてのログ項目を表示のために選択します。

***RUN** ジョブ実行項目だけを表示のために選択します。

***SUBMIT**

ジョブ投入ログ項目だけを表示のために選択します。

***MAINT**

保守ログ項目だけを表示のために選択します。

***EMAIL**

電子メールと関連したログ項目だけを表示のために選択します。

***WORKFLOW**

ワークフローと関連したログ項目だけを表示のために選択します。

トップ

ログ出力の期間 (PERIOD)

表示または報告のためにログ項目が選択される期間を指定します。

要素1: 開始時刻および日付

それ以降にログ項目が組み込まれる開始日時を指定します。指定した時刻および日付より前に作成されたログ項目は画面または報告書に組み込まれません。

要素1: 開始時刻

***AVAIL**

開始日用に使用できる任意の時刻が組み込まれます。

時刻 指定した開始日付の開始時刻を指定してください。これにより、どのログ項目が組み込まれるかを指示します。

時刻は24時間形式で指定し、時刻区切り記号を使用してもしなくても構いません。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4桁のストリング(HHMM)を指定してください。ここで、HH=時、MM=分です。時および分はそれぞれ正確に2桁でなければなりません(必要な場合は先行ゼロを使用します)。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、5桁のストリングを指定してください。ジョブに指定されている時刻区切り記号が時、分、および秒を区切るために使用されます。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合は、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ユーザー・ジョブに指定されているもの以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

要素2: 開始日

***BEGIN**

ログ項目の最初のヒストリー項目から組み込まれます。

***CURRENT**

現在の作成日付で、指定された開始時刻および終了時刻の間(指定されている場合)にあるログ項目が組み込まれます。

- 日付** 開始日付を指定してください。日付はジョブ日付形式で指定しなければなりません。
- 整数** 検索のために使用したい（現在の日付より前の）日数を表す数値を指定してください。たとえば、10など。現在の日付が03/12/01（MM/DD/YYの日付形式）である場合には、ADVANCED JOB SCHEDULERログの開始日付は03/02/01となります。

要素2: 終了時刻および日付

それ以降にログ項目が組み込まれなくなる終了日時を指定します。指定の日時より後に作成されたログ項目は、画面または報告書に組み込まれません。

要素1: 終了時刻

***AVAIL**

終了日付用に使用できる任意の時刻が組み込まれます。

- 時刻** 指定された終了日付の終了時刻を指定してください。これにより、どのログ項目が組み込まれるかを示します。

要素2: 終了日

***END** ログ情報の終わりまでのログ項目が画面または報告書に組み込まれます。

***CURRENT**

日付が現在日付またはそれ以前となっているログ項目が画面または報告書に組み込まれます。

- 日付** 終了日付を指定してください。日付はジョブ日付形式で指定しなければなりません。
- 整数** 検索のために使用したい（現在の日付より前の）日数を表す数値を指定してください。たとえば、10など。現在の日付が03/22/01（MM/DD/YYの日付形式）である場合には、ADVANCED JOB SCHEDULERログの終了日付は03/12/01となります。

[トップ](#)

重大度 (SEV)

報告書／画面に組み込みたいメッセージ重大度レベルを指定します。たとえば、重大度レベル30を指定した場合には、重大度レベルが30およびそれ以上のすべてのメッセージが組み込まれます。

***ALL** すべての重大度レベルが画面または報告書に組み込まれます。

0から99

画面または報告書に組み込みたいログ項目に関連した重大度レベルを指定します。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求元ワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを示します。

*
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

詳細 (DETAIL)

印刷出力用に使用される形式を指定します。

*BASIC

項目は簡略リスト形式で印刷されます。

*FULL

各項目の詳細が拡大形式で印刷されます。

[トップ](#)

ジョブ項目 (JOB)

表示または印刷したいログ項目のあるジョブの名前を指定します。すべてのジョブに対して1つのジョブを指定しなければなりません、代わりにジョブが属しているグループをグループ内でのそのジョブの順序番号と共に指定することもできます。

単一値

*NONE

ログ項目のないジョブが表示されます。

要素1: ジョブ

***ALL** ログ項目をもつすべてのジョブが表示されます。

総称名 表示したいログ項目のあるジョブの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後のアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。名前に*が指定されていない場合には、システムはその名前を完全なジョブと見なします。

名前 表示したいログ項目のあるジョブの名前を指定してください。

要素2: グループ

***ALL** 指定した1つ以上のジョブがそのメンバーとなっているすべてのグループが表示されます。

*NONE

ジョブに関連したグループはありません。

総称名 表示したいログ項目のあるグループの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後のアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。名前に*が指定されていない場合には、システムはその名前を完全なグループと見なします。

名前 表示したいログ項目のあるジョブが入っているグループの名前を指定してください。

要素3: グループ順序

***ALL** ログ項目のあるこのグループに属しているすべてのジョブ順序が表示されます。

***NONE**

このジョブと関連した順序番号はありません。

1から99

表示したいログ項目のあるグループ内のジョブの順序番号を指定してください。

[トップ](#)

リモート・ロケーション名 (RMTLOCNAME)

表示したいログ項目を作成したシステムのリモート・ロケーション名およびネットワーク識別を指定します。

***ALL** ネットワーク中のすべてのシステムのすべてのログ項目を選択します。

***LCL** ローカル・システムのすべてのログ項目を選択します。

リモート・ロケーション名

表示したいログ項目のあるシステムに対応したリモート・ロケーションの名前を指定してください。

ネットワークID.リモート・ロケーション名

システムと関連したネットワークIDおよびリモート・ロケーションの名前を指定してください。これらの値はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式を使用して指定しますが、このNNNNNNNNはネットワークIDであり、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。

[トップ](#)

ユーザー (USER)

表示したいログ項目のユーザー・プロファイルの名前を指定します。

***ALL** すべてのユーザー・プロファイルを画面または報告書に組み込みます。

名前 画面または報告書に組み込みたいログ項目が入っているユーザー・プロファイルの名前を指定します。

[トップ](#)

メッセージID (MSGID)

表示したいログ項目のメッセージIDを指定します。

***ALL** すべてのメッセージIDを画面または報告書に組み込みます。

名前 画面または報告書にそのログ項目を組み込みたいメッセージIDを指定してください。

[トップ](#)

例

```
DSPLOGJS PERIOD((*AVAIL *BEGIN) (*AVAIL *END))  
          JOB(JOB02)
```

このコマンドは、JOB02についてログの先頭から終わりまでジョブ・スケジューラー・ログ項目を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

ジョブ・スケジューラー終了 (ENDJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーの終了(ENDJS)コマンドを使用することにより、ADVANCED JOB SCHEDULERのジョブ・モニターを終了したり、あるいはSTRJSコマンドを使用して開始したソフトウェア・アプリケーションのジョブ情報の収集を停止することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	オプション	<u>*MONITOR</u> , *CAPTURE	オプション、位置 1
DTALIB	データ・ライブラリー	名前, *ALL, <u>*USRPRF</u> , *PROMPT	オプション

[トップ](#)

オプション (OPTION)

ADVANCED JOB SCHEDULERモニターを終了するのか、あるいはジョブ情報の収集を停止するのかを指定します。

*MONITOR

ADVANCED JOB SCHEDULERモニターを終了します。

*CAPTURE

アプリケーション・ソフトウェアのジョブ情報の収集を停止します。

[トップ](#)

データ・ライブラリー(DTALIB)

ADVANCED JOB SCHEDULERに対するモニターを終了したいデータ・ライブラリーを指定します。

*USRPRF

現行ユーザーのユーザー・プロファイルに指定されたデータ・ライブラリーが使用されます。

***ALL** 既存のすべてのデータ・ライブラリーが使用されます。

名前 使用したいデータ・ライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

ENDJS OPTION(*MONITOR)

このコマンドはジョブ・スケジューラー・モニターを終了します。モニターは、次回ジョブ・スケジューラーの開始(STRJS)コマンドを実行するまで非活動状態のままです。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

JSを使用したジョブの保留 (HLDJOBJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用したジョブの保留(HLDJOBJS)コマンドにより、指定するジョブを保留できます。実行キーを押すと、選択したジョブが保留されたことを確認するメッセージが表示されます。ジョブでジョブ・スケジューラーを使用したジョブの解放(RLSJOBJS)コマンドが処理されるか、あるいは「ジョブの処理」画面でジョブに対してオプション6（解放/リセット）が選択されるまでは、ジョブは保留されません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ項目	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: ジョブ	名前	
	要素 2: グループ	名前, *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, *NONE	

[トップ](#)

ジョブ項目 (JOB)

保留したいジョブの名前を指定します。

ジョブを指定しなければなりません。任意に、そのジョブが属しているグループとそのジョブの対応順序番号を指定することもできます。

これは必須パラメーターです。

要素1: ジョブ

名前 保留したいジョブの名前を指定してください。

要素2: グループ

*NONE

ジョブはグループのメンバーではありません。

名前 ジョブが属するグループの名前を指定します。

要素3: グループ順序

*NONE

このジョブに割り当てられた順序番号はありません。

1から99

グループ内のジョブの順序番号を指定してください。

[トップ](#)

例

HLDJOBJS JOB(JOB02)

このコマンドによってジョブJOB02は保留されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

JS使用のスケジュールの印刷 (PRTSCDJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用したスケジュールの印刷(PRTSCDJS)コマンドを使用することにより、ADVANCED JOB SCHEDULERによってどのジョブが投入されるか、また何時投入されるかの予測を指定した日数に基づいて報告書を印刷することができます。保留されているジョブを組み込むことも除外することもできます。

注: スケジュール・コード*MINUTESを使用すると、PRTSCDJSコマンドは長時間の実行が可能となります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NBRDAY	日数	1-365, <u>30</u> , *NEXT, *SELECT	オプション、位置 1
PAGADV	ページ前進	* <u>YES</u> , *NO	オプション
INCHLDJOB	保留中ジョブの組み込み	* <u>YES</u> , * <u>NO</u>	オプション
SEQ	順序	* <u>DATE</u> , *JOBQ	オプション
SLTDATE	選択日付	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始日	文字値, * <u>CURRENT</u>	
	要素 2: 終了日	文字値, * <u>CURRENT</u>	

[トップ](#)

日数 (NBRDAY)

ADVANCED JOB SCHEDULERによって投入がスケジュールされるジョブを予測したい日数を指定します。日数、翌日のみ、または日数の範囲を指定することができます。

30 予測により、次の30日が組み込まれます。

***NEXT**

翌日のみの予測となります。

***SELECT**

*SELECTを指定すると、予測に組み込む日付の範囲をSLTDATEパラメーターに追加できます。

1から365

予測に組み込みたい日数を指定してください。

[トップ](#)

ページ前進 (PAGADV)

指定する日ごとにページを前進させるかどうかを指定します。

***YES** 予測されたジョブの毎日の終わりに、用紙が新しいページの再上部に前進するように、報告書が印刷されます。

***NO** ページが満杯になった時には改ページして連続的に報告書が印刷されます。

[トップ](#)

保留中ジョブの組み込み (INCHLDJOB)

保留されているジョブを予測報告書に組み込むかどうかを指定します。

***NO** 保留されているジョブは報告書に組み込まれません。

***YES** 保留されているジョブが報告書に組み込まれます。

[トップ](#)

順序 (SEQ)

予測報告書をソートしたい順序を指定します。

***DATE**

報告書を日付順にします。

***JOBQ**

報告書をジョブ待ち行列によって順序付けします。

[トップ](#)

選択日付 (SLTDATE)

予測報告書の印刷時に使用したい日付の範囲を指定します。**開始日付**は表示される予測情報の日付範囲の開始時点であり、**終了日付**は終了時点です。

要素1: 開始日

***CURRENT**

日付範囲の開始日付として現在日付を使用します。

文字値 日付範囲の開始日付にしたい日付を、区切り文字付きまたは日付区切り文字なしのシステム形式で (12/01/01または120101など) 指定してください。

要素2: 終了日

***CURRENT**

現在日付が日付範囲の終了日付になります。

文字値 日付範囲の終了日付にしたい日付を、区切り文字付きまたは日付区切り文字なしのシステム形式で (12/01/01または120101など) 指定してください。

[トップ](#)

例

PRTSCDJS NBRDAY(5) PAGEADV(*NO) INCHLDJOB(*YES)

このコマンドは、次の5日間に実行されるジョブについてジョブ・スケジュール報告書を印刷します。それぞれの日ごとに独立したページはなく、報告書には保留中のジョブも含まれます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

JSを使用したジョブの解放 (RLSJOBJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用したジョブの解放(RLSJOBJS)コマンドにより、指定するジョブを解放できます。実行キーを押すと、選択したジョブが解放されたことを確認するメッセージが表示されます。ジョブは、ジョブ・スケジューラーを使用したジョブの保留(HLDJOBJS)コマンドがジョブに対して処理されるか、あるいは「ジョブの処理」画面でオプション3（保留）がジョブに対して選択されるまでは、解放されています。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ項目	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: ジョブ	名前	
	要素 2: グループ	名前, *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, *NONE	

[トップ](#)

ジョブ項目 (JOB)

解放したいジョブの名前を指定します。

ジョブを指定しなければなりません。任意に、そのジョブが属しているグループとそのジョブの対応順序番号を指定することもできます。

これは必須パラメーターです。

要素1: ジョブ

名前 解放したいジョブの名前を指定してください。

要素2: グループ

*NONE

ジョブはグループのメンバーではありません。

名前 ジョブが属するグループの名前を指定します。

要素3: グループ順序

*NONE

このジョブに割り当てられた順序はありません。

1から99

グループ内のジョブの順序番号を指定してください。順序番号は1から99の範囲とすることができます。

[トップ](#)

例

```
RLSJOBJS JOB(JOB02)
```

このコマンドは、前にHLDJOBJSコマンドを使用して保留されたジョブJOB02を解放します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

JSを使用した履歴の除去 (RMVHSTJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用した履歴の除去(RMVHSTJS)コマンドにより、保持または除去したい履歴の量を指定することによって、ADVANCED JOB SCHEDULERのジョブ・履歴・ファイルから履歴を除去することができます。ジョブ・履歴のオカレンス数を記録するかどうかを指定することや、指定する日付範囲に基づいて履歴項目を除去することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RMVTYPE	除去タイプ	<u>*OCCUR</u> , *DAYS	オプション、定位置 1
NBROCCUR	発生回数	1-999, <u>180</u>	オプション
SLTDATE	選択日付	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始日	文字値, *CURRENT, <u>*BEGIN</u>	
	要素 2: 終了日	文字値, <u>180</u> , *CURRENT, *END	

[トップ](#)

除去タイプ (RMVTYPE)

ADVANCED JOB SCHEDULERログから項目を選択する方法を指定します。

*OCCUR

履歴・ファイル項目は、**発生回数 (NBROCCUR)**パラメーターに指定されているオカレンスの数に基づいて保持されます。

*DAYS

履歴・ファイル項目は、**開始日付**フィールドおよび**終了日付**フィールドに指定されている日付範囲に基づいて除去されます。

[トップ](#)

発生回数 (NBROCCUR)

履歴・ファイルに保持されるジョブのオカレンスの数を指定します。オカレンスの番号は最も古い（最も早い日付の）オカレンスから始まり、最新のものと進みます。オカレンスの数は1-999の範囲とすることができます。

180 ファイルに保持されるジョブのオカレンスの数は180です。

1から999

ファイルに保持されるジョブのオカレンスの数を指定してください。

[トップ](#)

選択日付 (SLTDATE)

ADVANCED JOB SCHEDULERジョブ・ヒストリーを除去する時に使用したい日付の範囲を指定します。開始日付が、除去されるADVANCED JOB SCHEDULERのヒストリーの開始時点で、終了日付が終了時点です。

要素1: 開始日

***BEGIN**

日付範囲の開始日付として、ファイル中の最も古いADVANCED JOB SCHEDULERヒストリー・ファイル日付を使用します。

***CURRENT**

日付範囲の開始日付として現在日付を使用します。

日付 日付範囲の開始日付にしたい日付を、区切り文字付きまたは日付区切り文字なしのシステム形式で(12/01/01または120101など)指定してください。

数値 日付範囲の開始日付にしたい現在の日付より前の日数を表す数値を指定してください。たとえば、10など。現在の日付が03/22/01である場合には、ADVANCED JOB SCHEDULERログの開始日付は03/12/01となります。

要素2: 終了日

180 保存されるヒストリーの日数は180となります。

***CURRENT**

現在日付が日付範囲の終了日付になります。

***END** ADVANCED JOB SCHEDULERヒストリー・ファイル中の最新の日付が、日付範囲の終了日付として使用されます。

日付 日付範囲の終了日付にしたい日付を、区切り文字付きまたは日付区切り文字なしのシステム形式で(12/01/01または120101など)指定してください。

数値 日付範囲の終了日付にしたい現在の日付より前の日数を表す数値を指定してください。たとえば、10など。現在の日付が03/22/01である場合には、ADVANCED JOB SCHEDULERログの終了日付は03/12/01となります。

[トップ](#)

例

```
RMVHSTJS RMVTYPE(*DAYS) SLTDATE(*BEGIN 60)
```

このコマンドは、60日より古いヒストリー情報を除去します。直前の60日間のヒストリー情報が保持されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

JSを使用したジョブの除去 (RMVJOBJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用したジョブの除去(RMVJOBJS)コマンドを使用することにより、ADVANCED JOB SCHEDULERのジョブ・スケジュールからジョブまたはジョブのグループを除去することができます。1つ以上のジョブはジョブのグループに属することができます。

注: 順序1のジョブ・グループを除去するには、先にすべての従属ジョブ・グループを除去しておかなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ項目	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: ジョブ	総称名, 名前, *ALL	
	要素 2: グループ	総称名, 名前, *ALL, *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, *ALL, *NONE	

トップ

ジョブ項目 (JOB)

除去したいジョブ・スケジュール項目の名前を指定します。単一のジョブ、総称ジョブ名を指定するか、あるいはすべてのジョブでは特殊値*ALLを使用することができます。ジョブ仕様は、そのグループ内のジョブの順序番号とともに、そのジョブが属しているグループと組み合わせて使用することができます。また、総称グループ名および順序番号も指定することができます。

これは必須パラメーターです。

要素1: ジョブ

***ALL** グループおよび順序番号仕様を満たすすべてのジョブを除去します。

総称名 除去されるジョブの総称ジョブ名を指定します。たとえば、JOB*を指定することによって、名前がJOBで始まり、そのグループおよび順序番号の仕様を満たすすべてのジョブがADVANCED JOB SCHEDULERから除去されることとなります。

名前 除去したいジョブ・スケジュール項目のユーザー定義名を指定してください。

要素2: グループ

*NONE

ジョブはグループに割り当てられていません。

***ALL** 任意のグループに属するすべての指定ジョブを除去します。

総称名 グループは総称です。たとえば、GROUP*を指定することによって、GROUPで始まり、その順序番号仕様を満たすすべてのグループがADVANCED JOB SCHEDULERから除去されることとなります。

名前 除去するジョブが属しているグループのユーザー定義名を指定してください。

要素3: グループ順序

*NONE

ジョブに割り当てられる順序番号はありません。

***ALL** ジョブおよびグループ仕様を満たす順序番号のジョブが組み込まれます。

1から99

グループ内のジョブの順序番号を指定してください。

[トップ](#)

例

```
RMVJOBJS JOB(JOB02 ACCTG 11)
```

このコマンドは、グループACCTG内の順序番号が11のジョブJOB02を除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

JSからのログ項目の除去 (RMVLOGEJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーからのログ項目の除去(RMVLOGEJS)コマンドにより、指定する日付範囲に基づいてADVANCED JOB SCHEDULERログを消去できます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	タイプ	*ALL, *RUN, *SUBMIT, *MAINT, *EMAIL, *WORKFLOW	オプション、位置 1
SLTDATE	選択日付	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始日	文字値, *CURRENT, *BEGIN	
	要素 2: 終了日	文字値, 180, *CURRENT, *END	

[トップ](#)

タイプ (TYPE)

ADVANCED JOB SCHEDULERログから消去したい項目のタイプを指定します。項目のタイプの例としては、実行、投入、保守などがあります。

***ALL** 指定した日付範囲内のすべてのログ項目を消去するように選択します。

***RUN** 指定した日付範囲内で実行処理中にログに記録されたログ項目だけを消去するように選択します。

***SUBMIT**

指定した日付範囲内で投入処理中にログに記録されたログ項目だけを消去するように選択します。

***MAINT**

指定した日付範囲内で保守処理中にログに記録されたログ項目だけを消去するように選択します。

***EMAIL**

指定した日付範囲内で電子メール処理中にログに記録されたログ項目だけを消去するように選択します。

***WORKFLOW**

指定した日付範囲内でワークフロー処理中にログに記録されたログ項目だけを消去するように選択します。

[トップ](#)

選択日付 (SLTDATE)

ADVANCED JOB SCHEDULERログを消去する時に使用したい日付の範囲を指定します。**開始日付**が、消去されるADVANCED JOB SCHEDULERのログの開始時点であり、**終了日付**が終了日です。

要素1: 開始日

***BEGIN**

ファイル中の最も古いADVANCED JOB SCHEDULERログ日付を、日付範囲の開始日付として使用します。

***CURRENT**

日付範囲の開始日付として現在日付を使用します。

日付 日付範囲の開始日付にしたい日付を、区切り文字付きまたは日付区切り文字なしのシステム形式で(12/01/01または120101など)指定してください。

数値 日付範囲の開始にしたい現在の日付より前の日数を表す数値を指定してください。たとえば、10など。現在の日付が03/12/01である場合には、ADVANCED JOB SCHEDULERログの開始日付は03/02/01となります。

要素2: 終了日

180 保持されるログ項目の日数は180となります。

***CURRENT**

現在の日付を日付範囲の終了日付として使用します。

***END** 使用するADVANCED JOB SCHEDULERログ中の最新の日付を、日付範囲の終了日付として使用します。

日付 日付範囲の終了日付にしたい日付を、区切り文字付きまたは日付区切り文字なしのシステム形式で(12/01/01または120101など)指定してください。

数値 日付範囲の終わりにしたい現在の日付より前の日数を表す数値を指定してください。たとえば、10など。現在の日付が03/22/01である場合には、ADVANCED JOB SCHEDULERログの終了日付は03/12/01となります。

[トップ](#)

例

```
RMVLOGEJS TYPE(*ALL) SLTDATE('3/12/99' '4/12/99')
```

このコマンドは、1999年3月12日から1999年4月12日までの期間のすべてのログ項目を除去します。この例では、SLTDATEはMM/DD/YY形式で表されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

JSを使用したジョブ名前変更 (RNMJOBJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用したジョブの名前変更(RNMJOBJS)コマンドを使用することにより、ジョブを名前変更することができます。ジョブを名前変更した後で、関連パラメーターの一部またはすべてを修正および変更することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ項目	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: ジョブ	名前	
	要素 2: グループ	名前, *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, *NONE	
NEWJOB	新規ジョブ項目	要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: ジョブ	名前, *SAME	
	要素 2: グループ	名前, *SAME, *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, *SAME, *NONE	

[トップ](#)

ジョブ項目 (JOB)

名前変更したいジョブ・スケジュール項目の名前を指定します。すべてのジョブに対して1つのジョブを指定しなければなりません。代りにジョブが属しているグループをグループ内でのそのジョブの順序番号と共に指定することもできます。

注: 順序1のジョブ・グループを名前変更するためには、そのグループに従属ジョブが存在してはいけません。

これは必須パラメーターです。

要素1: ジョブ

名前 名前変更したいジョブ・スケジュール項目のユーザー定義名を指定してください。

要素2: グループ

*NONE

ジョブはグループに割り当てられていません。

名前 ジョブが属するグループのユーザー定義名を指定します。

要素3: グループ順序

*NONE

ジョブに割り当てられる順序番号はありません。

1から99

グループ内のジョブの順序番号を指定します。

[トップ](#)

新しいジョブ項目(NEWJOB)

ジョブ項目 (JOB)パラメーターに指定されているジョブを名前変更した結果として作成するジョブ・スケジュール項目の名前を指定します。すべてのジョブに対して1つのジョブを指定しなければなりません、代わりにジョブが属しているグループをグループ内でのそのジョブの順序番号と共に指定することもできます。

グループの最初のジョブは順序番号1でなければなりません。後続の順序番号は間隔をあけておき (10, 20, 30など) , 必要な場合にはジョブを挿入できるようにしておく必要があります。

要素1: ジョブ

*SAME

ジョブの現行の名前は変更されません。

名前 名前変更するジョブをもとにして作成したいジョブ・スケジュール項目のユーザー定義名を指定してください。

要素2: グループ

*SAME

グループの現行の名前は変更されません。

*NONE

ジョブはグループに割り当てられていません。

名前 ジョブが属するグループのユーザー定義名を指定します。

要素3: グループ順序

*SAME

ジョブの現行の順序番号は変更されません。

*NONE

ジョブに割り当てられる順序番号はありません。

1から99

グループ内のジョブの順序番号を指定してください。

[トップ](#)

例

```
RNMJOBJS JOB(JOB02) NEWJOB(JOB04)
```

このコマンドはジョブJOB02をJOB04に名前変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

コンソール・コマンドの投入 (SBMCMDJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

コンソール・コマンドの投入(SBMCMDJS)コマンドによって、システム・コンソールにコマンドを投入することができます。SBMCMDJSコマンドはADVANCED JOB SCHEDULERのコンソール・モニター機能と一緒に作動します。コンソール・モニター機能が活動状態の場合に、コマンド要求が処理されます。コンソール・モニター機能が活動状態でない場合には、コンソール・モニター機能が開始されるまで、要求は処理されません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CMD	コマンド要求	コマンド・ストリング	オプション、位置 1

[トップ](#)

コマンド要求 (CMD)

処理したいコマンドを指定します。コマンド（プログラムに対する呼び出し）を指定し、または呼び出されるプログラムにパラメーターを渡すことができます。コマンドの妥当性が検査され、パラメーターはADVANCED JOB SCHEDULERパラメーター・ファイルに対して有効になります。オブジェクト存在は検査されません。

コマンド・ストリング

実行するコマンドを指定します。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

JS使用のジョブの投入 (SBMJOBJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用したジョブの投入(SBMJOBJS)コマンドを使用することにより、ADVANCED JOB SCHEDULERを介してバッチ・ジョブを投入することができます。投入の時刻および日付、パラメーター情報、およびすべての投入情報を指定することができます。

グループ内からジョブを投入しても、そのグループは開始されません。「依存性の更新(UPDDEP)」フィールドに*GRPを指定しない限り、投入するように選択したジョブだけが実行されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ項目	要素リスト	必須, キー, 定位置 1
	要素 1: ジョブ	名前	
	要素 2: グループ	名前, *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, *NONE	
TIME	投入時刻	0-2400, *IMMED, *SCHED	オプション
DATE	投入日付	文字値, *CURRENT	オプション
STRSEQ	開始順序	整数, *FIRST	オプション
ENDSEQ	終了順序	整数, *LAST	オプション
CHKDEP	依存関係の検査	*YES, *NO	オプション
UPDDEP	依存関係の更新	*NO, *YES, *GRP	オプション
PARM	パラメーター	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: パラメーター名	名前	
	要素 2: パラメーター・データ	文字値	
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション名	名前, *SAME, *JOBCTL, *LCL	オプション
MAXRUN	最大実行時間	1-9999, *SAME, *NOMAX	オプション
PGRRCPNORM	通知 (正常)	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 通知の宛先	名前, *SAME, *JOBCTL, *ONCALL	
	要素 2: 通知メッセージ	文字値, *SAME, *JOBCTL, *COMP	
PGRRCPABN	通知 (異常)	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 通知の宛先	名前, *SAME, *JOBCTL, *ONCALL	
	要素 2: 通知メッセージ	文字値, *SAME, *JOBCTL, *COMP	

キーワード	記述	選択項目	注
PGRRCPSTR	通知開始ジョブ	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 通知の宛先	名前, *SAME, *JOBCTL, *ONCALL	
	要素 2: 開始限界	1-999, *JOBCTL, *SAME	
ALTJOB	代替ジョブ	単一値: *SAME, *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ジョブ	名前	
	要素 2: グループ	名前, *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, *NONE	
RPTDSTID	報告書配布ID	名前, *SAME, *NONE	オプション
RCYACN	回復処置	*SAME, *JOBCTL, *SBMRLS, *SBMHLD, *NOSBM	オプション
JOB D	ジョブ記述	単一値: *SAME, *JOBCTL, *USRPRF その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
JOBQ	ジョブ待ち行列	単一値: *SAME, *JOBCTL, *JOB D その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
JOBPTY	ジョブ優先順位(JOBQ上)	1-9, *SAME, *JOBCTL, *JOB D	オプション
OUTPTY	出力優先順位(OUTQ上)	1-9, *SAME, *JOBCTL, *JOB D	オプション
PRTDEV	印刷装置	名前, *SAME, *JOBCTL, *CURRENT, *USRPRF, *SYSVAL, *JOB D	オプション
OUTQ	出力待ち行列	単一値: *SAME, *JOBCTL, *USRPRF, *DEV, *JOB D その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
USER	ユーザー	名前, *SAME, *JOBCTL, *CURRENT, *JOB D	オプション
PRTTXT	印刷テキスト	文字値, *SAME, *JOBCTL, *BLANK, *JOB D, *SYSVAL	オプション
RTGDTA	経路指定データ	文字値, *SAME, *JOBCTL, *JOB D	オプション
CURLIB	現行ライブラリー	名前, *SAME, *JOBCTL, *USRPRF, *CRTDFT	オプション
LIBL	ライブラリー・リスト	名前, *SAME, *JOBCTL, *JOB D, *SYSVAL, *NONE	オプション
LOG	メッセージ・ロギング	要素リスト	オプション
	要素 1: レベル	0-4, *SAME, *JOBCTL, *JOB D	
	要素 2: 重大度	0-99, *SAME, *JOBCTL, *JOB D	
	要素 3: テキスト	*SAME, *JOBCTL, *JOB D, *MSG, *SECLVL, *NOLIST	
LOGCLPGM	CLプログラム・コマンドのログ	*SAME, *JOBCTL, *JOB D, *YES, *NO	オプション
INQMSGRPY	照会メッセージに対する応答	*SAME, *JOBCTL, *JOB D, *RQD, *DFT, *SYSRPYL	オプション
HOLD	ジョブ待ち行列上での保留	*SAME, *JOBCTL, *JOB D, *YES, *NO	オプション
SWS	ジョブ・スイッチ	文字値, *SAME, *JOBCTL, *JOB D	オプション
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *SAME, *JOBCTL, *USRPRF, *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ACGCDE	会計コード	文字値, *SAME, *JOBCTL, *JOB D, *USRPRF, *BLANK	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
RUNPTY	実行優先順位	01-99, *SAME, *JOBCTL, *NOCHG	オプション
INLASGRP	初期ASPグループ	名前, *SAME, *JOBCTL, *CURRENT, *JOB, *NONE	オプション

トップ

ジョブ項目 (JOB)

ジョブ・スケジュール項目の名前を示します。すべてのジョブにジョブ名を指定しなければなりません。さらに、そのジョブが属しているグループを、グループ内でのそのジョブの順序番号とともに指定することもできます。

グループの最初のジョブは順序番号1でなければなりません。後続の順序番号は間隔をあけておき（10, 20, 30など）、必要な場合にはジョブを挿入できるようにしておく必要があります。

これは必須パラメーターです。

要素1: ジョブ

名前 ジョブ・スケジュール項目のユーザー定義名を指定してください。

要素2: グループ

*NONE

ジョブはグループに割り当てられていません。

名前 ジョブが属するグループのユーザー定義名を指定します。

要素3: グループ順序

*NONE

ジョブに割り当てられる順序番号はありません。

1から99

グループ内のジョブの順序番号を指定します。

トップ

投入時刻 (TIME)

このジョブを投入したい時刻を指定します。ジョブは、指定した時刻に投入したり、直ちに投入したり、あるいは次の予定時刻に投入することができます。時刻は時、分(HHMM)の形式で入力し、その範囲は0001 - 2400（深夜）とします。

*SCHED

ジョブは次のスケジュール時刻にADVANCED JOB SCHEDULERによって投入されます。

*IMMED

ジョブは直ちに投入されます。

注: これは、1より大きい順序をもつすべてのジョブ・グループの場合の省略時の値となります。

0から2400

ADVANCED JOB SCHEDULERによってジョブが投入される時刻を指定してください。

投入日付 (DATE)

このジョブを投入したい日付を指定します。日付はジョブ日付形式で指定します。

*CURRENT

ジョブは、ADVANCED JOB SCHEDULERによって現在日付で、**予定時刻(TIME)**パラメーターに指定されている時刻に投入されます。

文字値 ADVANCED JOB SCHEDULERによってジョブを投入したい日付をジョブ日付形式で指定してください。

トップ

開始順序 (STRSEQ)

投入するジョブの開始コマンド順序番号を指定します。

*FIRST

投入するジョブの最初のコマンド順序番号で開始します。

整数 ジョブ内の開始したいコマンドの順序番号を指定してください。

トップ

終了順序 (ENDSEQ)

投入するジョブの終了コマンド順序番号を指定します。

*LAST

投入するジョブの最終コマンド順序番号で終了します。

整数 ジョブ内の終了したいコマンドの順序番号を指定してください。

トップ

依存関係の検査 (CHKDEP)

ジョブの投入が可能となる前に、資源および活動状態の依存関係を検査する必要があるかどうかを指定します。

***YES** ジョブの投入時に資源および活動状態の依存関係を検査します。ジョブを投入する前に、その依存性を満たしていなければなりません。

***NO** ジョブの投入時に資源および活動状態の依存関係を検査しません。ジョブを投入する前に、その依存性を満たす必要はありません。

トップ

依存関係の更新 (UPDDEP)

ジョブの完了後に、元のジョブと関連した依存関係を更新する必要があるかどうかを指定します。

***NO** ジョブの完了後に、依存関係を更新しません。

***YES** ジョブの完了後に、依存関係を更新します。

***GRP** ジョブの完了後に、依存関係を更新します。ジョブがグループの一部である場合は、グループ処理を次のジョブから続けます。これはJS (STRGRPJS)コマンドを使用したグループ開始と同等です。

トップ

パラメーター (PARM)

投入されたジョブで使用したいパラメーターの名前およびパラメーター・データを指定します。指定するパラメーターは、ADVANCED JOB SCHEDULERに定義されているものでなければなりません。

パラメーター・データ・フィールドへの入力では、任意の文字が有効です。妥当性は、プログラム内のパラメーターの使用範囲まで、またはジョブの投入時にはADVANCED JOB SCHEDULERジョブの使用範囲まで検査されます。パラメーター・データの文字数はパラメーター長フィールドに入れられている長さに対応していなければなりません。パラメーター長フィールドより短く入力されたデータは、そのパラメーターの長さまでブランクを埋め込んだデータを渡します。先行ブランクおよび組み込みブランクは、入力された通り正確にユーザーの要求データのパラメーターに渡されます。パラメーター・フィールドに指定された長さを超えて入力したパラメーター・データは切り捨てられます。パラメーター・データの中で使用するアポストロフィ(')は対で使用しなければなりません。テキストおよびアポストロフィを受け入れることができるフィールドには、アポストロフィが必要です。アポストロフィを1つしか使用しなかった場合は、そのパラメーターは「パラメーター・データ内の引用符(')は対でなければならない」というエラーで拒否されます。続行する前にこのエラーを訂正しなければなりません。

パラメーター・データ フィールドで使用できる特殊値があります。これらの特殊値の一部は日付計算に使用されます。たとえば、日付の計算で使用される特殊値の1つは*QMDYです。Qはシステム日付を示し、Mは月を示し、Dは日を示し、Yは年を示します。Qで始まる特殊値が表示される時には常に、計算は現行のシステム日付に基づいて行われます。特殊値がAで始まる場合には、その計算は実行要求日付に基づいて行われます。

たとえば、*QMDY(D-33,M+1,D+5W)として指定されたパラメーター・データは、現行のシステム日付が計算の開始点であることを示します。次に、現行のシステム日付から33日を減算し、その月に1を加算し、前日(D-33)の計算から計算した日付に5の作業日数を加算します。結果の日付は月、日、年の形式で示されます。

もう1つの例は*QMDY(M+1,D=1)です。これは、現行のシステム日付に基づいて、月に1を加算し、その日を月の最初の日として設定することを示します。結果の日付は月、日、年の形式で示されます。

一部の特殊値にあるもう1つの文字はCです。これは世紀標識であり、0は20世紀、1は21世紀です。

単一値

***NONE**

投入するジョブは、ここでパラメーターを入力する必要はありません。

その他の値(50までの反復)

要素1: パラメーター名

名前 このジョブで使用したいパラメーターの名前を指定します。

要素2: パラメーター・データ

文字値 パラメーターに使用したいパラメーター・データを指定します。

[トップ](#)

リモート・ロケーション名 (RMTLOCNAME)

ジョブを実行するシステムのロケーションおよびネットワークIDを指定します。

*SAME

ADVANCED JOB SCHEDULERジョブ項目に指定されている値が使用されます。

*JOBCTL

ジョブ制御に指定されているリモート・ロケーション名を使用します。

***LCL** ジョブをローカル・サーバー上で実行します。

リモート・ロケーション名

ジョブを実行するシステムと関連したリモート・ロケーションの名前を指定します。

ネットワークID.リモート・ロケーション名

システムと関連したネットワークIDおよびリモート・ロケーションの名前を指定してください。これらの値はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式を使用して指定しますが、このNNNNNNNNはネットワークIDであり、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。

[トップ](#)

最大実行時間 (MAXRUN)

ジョブの最大実行時間（分数）を指定します。

注: MAXRUNプロンプトに指定されている値は、スケジュール・コード*ALTERNATEと一緒に使用すると無視されます。

*SAME

ADVANCED JOB SCHEDULERジョブ項目に指定されている値が使用されます。

*NOMAX

このジョブには最大時間はありません。

1から9999

このジョブの最大時間（分数）を指定します。この分数が経過すると、ADVANCED JOB SCHEDULERはジョブが完了していてもいなくてもそのジョブを終了します。

[トップ](#)

通知（正常）(PGRRCPNORM)

追加または変更するジョブの正常完了メッセージを受け取る通知宛先を指定します。このフィールドは、通知コマンドと一緒に使用されます。

注: JSを使用した配布の送信(SNDDSTJS)コマンドでこの機能を使用するには、SMTP情報を指定する必要があります。

注: 通知宛先（正常）および通知メッセージに指定する値は、CHGNFYJSコマンドでそれぞれ&RCP変数と&MSGTXT変数に使用される置換変数です。

ジョブが正常完了した時に指定した宛先に送信したい通知メッセージを指定することができます。

単一値

*NONE

このジョブが正常完了した時にメッセージを受け取る通知宛先は割り当てられません。

要素1: 通知の宛先

*SAME

ADVANCED JOB SCHEDULERジョブ項目に指定されている値が使用されます。

*JOBCTL

ジョブ制御に指定されている通知宛先を使用します。

*ONCALL

呼び出し中の宛先だけがメッセージを受け取ります。

名前 ジョブが正常完了した時に、そのジョブからのメッセージを受け取る宛先の名前を指定してください。

要素2: 通知メッセージ

*SAME

ADVANCED JOB SCHEDULERジョブ項目に指定されている値が使用されます。

*JOBCTL

ジョブ制御からの通知メッセージが通知宛先に送信されます。

*COMP

ジョブの完了状況が送られます。

文字値 このジョブが正常完了した時に通知宛先に送りたい通知メッセージを指定してください。

[トップ](#)

通知（異常）(PGRRC PABN)

追加または変更するジョブの異常完了メッセージを受け取る通知宛先を指定します。このフィールドは、通知コマンドと一緒に使用されます。

注: JSを使用した配布の送信(SNDDSTJS)コマンドでこの機能を使用するには、SMTP情報を指定する必要があります。

注: 通知宛先（異常）および通知メッセージに指定する値は、CHGNFYJSコマンドでそれぞれ&RCP変数と&MSGTXT変数に使用される置換変数です。

ジョブが異常完了した時に指定した宛先に送信したい通知メッセージを指定することができます。

単一値

***NONE**

このジョブが異常完了した時にメッセージを受け取る通知宛先は割り当てられません。

要素1: 通知の宛先

***SAME**

ADVANCED JOB SCHEDULERジョブ項目に指定されている値が使用されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されている通知宛先を使用します。

***ONCALL**

呼び出し中の宛先だけがメッセージを受け取ります。

名前 ジョブが異常完了した時に、そのジョブからのメッセージを受け取る宛先の名前を指定します。

要素2: 通知メッセージ

***SAME**

ADVANCED JOB SCHEDULERジョブ項目に指定されている値が使用されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御からの通知メッセージが通知宛先に送信されます。

***COMP**

ジョブの完了状況が送られます。

文字値 このジョブが異常完了した時に、通知宛先に送りたい通知メッセージを指定します。

トップ

通知開始ジョブ (PGRRCPPSTR)

ジョブの投入後、限度内に開始されない場合に、追加または変更しているジョブの通知を受け取る通知宛先を指定します。このフィールドは、通知コマンドと一緒に使用されます。

注: JSを使用した配布の送信(SNDDSTJS)コマンドでこの機能を使用するには、SMTP情報を指定する必要があります。

注: 通知宛先 (ジョブ開始) に指定する値は、CHGNFYJSコマンドで&RCP変数に使用される置換変数です。&MSGTXTはメッセージIJS6059で置き換えられます。

開始限度 (分数) を指定することができます。これは、通知が出される前にジョブがジョブ待ち行列に留まることのできる時間の長さです。

単一値

***NONE**

このジョブが開始限度を超えた時にメッセージを受け取る通知宛先は割り当てられません。

要素1: 通知の宛先

***SAME**

ADVANCED JOB SCHEDULERジョブ項目に指定されている値が使用されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されている通知宛先を使用します。

***ONCALL**

呼び出し中の宛先だけがメッセージを受け取ります。

名前 ジョブの投入後、限度内に開始されない場合に、メッセージを受け取る宛先の名前を指定してください。

要素2: 開始限界

***SAME**

ADVANCED JOB SCHEDULERジョブ項目に指定されている値が使用されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御中の開始限度がこのジョブに使用されます。

1から999

通知が出される前にジョブがジョブ待ち行列に留まることのできる分数を指定します。

[トップ](#)

代替ジョブ (ALTJOB)

ジョブの代替ジョブの名前を指定します。代替ジョブが実行されるのは、通常のジョブが異常終了した場合だけです。ジョブは必ずしも代替ジョブをもつ必要はありません。このコマンドのプロンプトが出された時にジョブ・リストからジョブを選択したい場合は、カーソルをこのパラメーターに位置付けて、F4キーを押してください。

代替ジョブがグループのメンバーである場合には、グループおよびグループの順序を指定することもできます。

単一値

***SAME**

ADVANCED JOB SCHEDULERジョブ項目に指定されている値が使用されます。

***NONE**

ジョブに代替ジョブはありません。

要素1: ジョブ

名前 このジョブの代替ジョブにしたいジョブの名前を指定します。

要素2: グループ

***NONE**

代替ジョブに代替グループはありません。

名前 このジョブの代替ジョブに関連したグループの名前を指定してください。

要素3: グループ順序

***NONE**

代替ジョブには順序番号が割り当てられません。

1から99

代替ジョブに割り当てる順序番号を指定してください。

[トップ](#)

報告書配布ID (RPTDSTID)

ジョブの処理の結果として生成される報告書を配布するために使用される報告書配布IDを指定します。

*SAME

ADVANCED JOB SCHEDULERジョブ項目に指定されている値が使用されます。

*NONE

ジョブに報告書配布IDはありません。

名前 このジョブと関連付けたい報告書配布IDを指定します。

[トップ](#)

回復処置 (RCYACN)

システムが電源遮断されているか制限状態にあるためにジョブを指定時刻に投入できない場合に取りられる回復処置を指定します。パラメーターに指定された処置は、次のIPL時、あるいはADVANCED JOB SCHEDULERのシステムが活動状態になった時に行われます。

IPL時またはシステムが制限状態から脱出した時に投入されるジョブは、ジョブ・スケジュール項目に指定された時刻にジョブが投入される順序と同じ順序で投入されます。反復ジョブの複数のオカレンスが脱落した場合には、そのジョブは一度しか投入されません。ジョブの脱落した最初のオカレンスは現在の日付から計算されます。

IPLのスケジューラー部分はシステムのIPLでは完了する必要がないので、すべてのジョブが投入される前に、システム上で他のジョブを開始することができます。

このパラメーターは次の場合には適用されません。

- ジョブが投入された日付および時刻に保留されてから解放された場合。

注: RCYACNパラメーターに指定されている値は、スケジュール・コード*ALTERNATEまたは*NONEと一緒に使用すると無視されます。

*SAME

ADVANCED JOB SCHEDULERジョブ項目に指定されている値が使用されます。

*JOBCTL

ジョブはジョブ制御に指定されている回復処置を使用します。

*SBMRLS

ジョブは解放状態(RLS)で投入されます。

*SBMHLD

ジョブは保留状態(HLD)で投入されます。

*NOSBM

ジョブは投入されません。

*NOSBMを指定して影響があるのは、実行されなかったジョブの繰り返しだけです。ジョブ・スケジュール項目が繰り返しジョブの場合には、将来の繰り返しには影響がありません。

[トップ](#)

ジョブ記述 (JOB D)

このジョブで使用するジョブ記述を指定します。

単一値

*SAME

ADVANCED JOB SCHEDULERジョブ項目に指定されている値が使用されます。

*JOBCTL

ジョブ制御の中のジョブ記述がこのジョブで使用されます。

*USRPRF

投入されたジョブの実行の元になるユーザー・プロファイル中のジョブ記述が投入されたジョブのジョブ記述として使用されます。

修飾子1: ジョブ記述

名前 ジョブに使用するジョブ記述の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL ジョブ記述名を見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

*CURLIB

ジョブ記述名を見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述名が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ待ち行列 (JOB Q)

このジョブが入られるジョブ待ち行列を指定します。

単一値

*SAME

ADVANCED JOB SCHEDULERジョブ項目に指定されている値が使用されます。

*JOBCTL

ジョブ制御の中のジョブ待ち行列がこのジョブで使用されます。

*JOB D

投入されたジョブは、指定されたジョブ記述のジョブ待ち行列に入れられます。

修飾子1: ジョブ待ち行列

名前 投入されたジョブが入られるジョブ待ち行列の名前（ライブラリー名/ジョブ待ち行列名）を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL ライブラリー・リストを使用して、ジョブ待ち行列名を見つけます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、ジョブ待ち行列を見つけます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ待ち行列名が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ優先順位(JOBQ上) (JOBPTY)

ジョブ待ち行列のスケジューリング優先順位を指定します。有効な値の範囲は1から9で、1が最高の優先順位で9が最低の優先順位となります。

***SAME**

ADVANCED JOB SCHEDULERジョブ項目に指定されている値が使用されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されているスケジューリングの省略時値がジョブに使用されます。

***JOB**

ジョブ記述に指定されているスケジューリング優先順位がこのジョブに使用されます。

1から9 ジョブのスケジューリング優先順位に使用される値を指定します。

[トップ](#)

出力優先順位(OUTQ上) (OUTPTY)

このジョブによって作成されたスプール出力ファイルの出力待ち行列の優先順位を指定します。有効な値の範囲は1から9で、1が最高の優先順位で9が最低の優先順位となります。

***SAME**

ADVANCED JOB SCHEDULERジョブ項目に指定されている値が使用されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されている出力優先順位の省略時の値がジョブに使用されます。

***JOB**

ジョブ記述に指定されている出力優先順位がジョブに使用されます。

1から9 ジョブの出力優先順位に使用される値を指定します。

[トップ](#)

印刷装置 (PRTDEV)

このジョブの省略時印刷装置を指定します。

***SAME**

ADVANCED JOB SCHEDULERジョブ項目に指定されている値が使用されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されている印刷装置がこのジョブで印刷装置として使用されます。

***CURRENT**

現在実行中のジョブによって使用されているものと同じ印刷装置がこのジョブに使用されます。

***USRPRF**

投入されたジョブの実行の元になるユーザー・プロファイルの中に指定されている印刷装置が、このジョブの印刷装置として使用されます。印刷装置名は、このジョブの投入時にプロファイルから取り出されます。

***SYSVAL**

このジョブの投入時にシステム値QPRTDEVに指定されている印刷装置が使用されます。

***JOB**

ジョブ記述に指定されている印刷装置が投入されるジョブに使用されます。

名前 投入されたジョブに使用される印刷装置の名前を指定してください。

[トップ](#)

出力待ち行列 (OUTQ)

ジョブによって作成されるスプール出力に使用する出力待ち行列を指定します。このパラメーターが適用されるのは、出力待ち行列に*JOBを指定しているスプール印刷装置ファイルだけです。

単一値

***SAME**

ADVANCED JOB SCHEDULERジョブ項目に指定されている値が使用されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御に指定されている出力待ち行列がジョブの出力待ち行列として使用されます。

***USRPRF**

投入されたジョブの実行の元になるユーザー・プロファイルの出力待ち行列が、このジョブの出力待ち行列として使用されます。

***DEV** スプール・ファイルの印刷装置と関連した出力待ち行列が使用されます。

***JOB**

投入されたジョブで使用されるジョブ記述に指定されている出力待ち行列がジョブの省略時出力待ち行列となります。

修飾子1: 出力待ち行列

名前 投入されるジョブによって省略時の出力待ち行列として使用される出力待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 出力待ち行列名を見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

出力待ち行列名を見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 出力待ち行列名が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ユーザー (USER)

投入されるジョブのユーザー・プロファイルの名前を指定します。ジョブ記述に*RQDが指定されている場合には、*JOBIDを指定することはできず、代わりにユーザー名を指定しなければなりません。

注：このパラメーターには次のIBM提供オブジェクトは使用できません。

- QDBSHR
- QDFTOWN
- QDOC
- QLPAUTO
- QLPINSTALL
- QRJE
- QSECOFR
- QSPL
- QSYS
- QTSTRQS

*SAME

ADVANCED JOB SCHEDULERジョブ項目に指定されている値が使用されます。

*JOBCTL

ジョブ制御に指定されているユーザー・プロファイルが投入されるジョブに使用されます。

*CURRENT

現在実行中のジョブが使用しているものと同じユーザー・プロファイルが投入されたジョブに使用されます。

*JOBID

指定のジョブ記述に指定されているユーザー・プロファイルが投入されるジョブに使用されます。

名前 投入するジョブに使用されるユーザー・プロファイルの名前を指定してください。このユーザー・プロファイルに対する権限が必要です。ユーザー・プロファイルはジョブ記述に対して認可されていなければなりません。

[トップ](#)

印刷テキスト (PRTTXT)

印刷出力の各ページおよび区切りページの下部に印刷される30文字までのテキストを指定します。

*SAME

ADVANCED JOB SCHEDULERジョブ項目に指定されている値が使用されます。

*JOBCTL

ジョブ制御中の値がこのジョブに使用されます。

*JOBID

ジョブ記述中の値がこのジョブに使用されます。

*SYSVAL

システム値QPRTTXTがこのジョブに使用されます。

***BLANK**

テキストは印刷されません。

文字値 各ページの最後に印刷される文字ストリングを指定します。最大30文字までをアポストロフィで囲んで入力できます。リスト上のテキストは、入力された通りのまま中央にそろえられます。

トップ

経路指定データ (RTGDTA)

ジョブの最初の経路指定ステップを開始するために使用される経路指定データを指定します。経路指定データは、ジョブが実行するプログラムを識別する経路指定項目を決定すめために使用されます。

***SAME**

ADVANCED JOB SCHEDULERジョブ項目に指定されている値が使用されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御中の経路指定データの値がこのジョブに使用されます。

***JOB**

ジョブ記述に指定されている経路指定データが、経路指定ステップを開始するために使用されます。

文字値 このジョブの経路指定データとして使用される文字ストリングを指定してください。最大80文字まで入力することができます（必要な場合にはアポストロフィで囲みます）。

トップ

現行ライブラリー (CURLIB)

実行中のジョブに関連した現行ライブラリーの名前を指定します。

***SAME**

ADVANCED JOB SCHEDULERジョブ項目に指定されている値が使用されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御の現行ライブラリーが投入されたジョブに使用されます。

***USRPRF**

投入されたジョブの実行の元になるユーザー・プロファイルの現行ライブラリーが投入されたジョブの現行ライブラリーとして使用されます。

***CRTDFT**

投入されるジョブの現行ライブラリーはありません。オブジェクトが現行ライブラリーに作成される場合には、省略時の現行ライブラリーとしてQGPLが使用されます。

名前 投入されるジョブの現行ライブラリーとして使用するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

ライブラリー・リスト (LIBL)

ライブラリー修飾子なしで指定されたオペレーティング・システムのオブジェクト名を検索するために使用されるライブラリー・リストの名前を指定します。このコマンドのプロンプトが出された時にリストからライブラリー・リストを選択したい場合は、カーソルをこのパラメーターに位置付けて、F4キーを押してください。

*SAME

ADVANCED JOB SCHEDULERジョブ項目に指定されている値が使用されます。

*JOBCTL

ジョブ制御中のライブラリー・リストがこのジョブに使用されます。

*JOBID

このジョブで使用されるジョブ記述の中のライブラリー・リストが、ジョブのライブラリー・リストの初期ユーザー部分として使用されます。

*SYSVAL

システムの省略時ユーザー・ライブラリー・リストがこのジョブで使用されます。これには、ジョブの開始時にシステム値QUSRLIBLで指定されたライブラリー名が入っています。

*NONE

このジョブの初期ライブラリー・リストのユーザー部分は空になります。

名前 このジョブに使用したいライブラリー・リストの名前を指定してください。

トップ

メッセージ・ロギング (LOG)

このジョブによってジョブ・ログに送られる情報の量およびタイプを決定するために使用するメッセージ・ロギング値を指定します。このパラメーターには、メッセージ（またはロギング）レベル、メッセージ重大度、およびメッセージ・テキストのレベルという3つの要素があります。このパラメーターに値を指定しない場合には、このジョブと関連したジョブ記述に指定されている値が使用されます。

要素1: レベル

*SAME

ADVANCED JOB SCHEDULERジョブ項目に指定されている値が使用されます。

*JOBCTL

ジョブ制御の中に指定されているロギング用の値がこのジョブに使用されます。

*JOBID

ジョブ記述の中でメッセージ・ロギング用に指定されている値がこのジョブに使用されます。

0から4 このジョブのメッセージに使用されるメッセージ・ロギング・レベルを指定します。ロギング・レベルの値は次の通りです。

- 0** データはログに記録されません。
- 1** 次の情報がログに記録されます。重大度レベルが指定されたメッセージ重大度以上で、ジョブの外部メッセージ待ち行列に送られるすべてのメッセージ（これには、ジョブの開始、ジョブの終了、およびジョブの完了状況を示すものが含まれます）。
- 2** 以下の情報がログに記録されます。
 - ロギング・レベル1の情報。

- CLプログラムからログに記録され、指定された重大度レベル以上の重大度コードをもつメッセージが出される要求またはコマンド。
 - 要求に関連するすべてのメッセージ、あるいはCLプログラムからログに記録されるコマンド。これらは結果的に、指定された重大度以上の重大度レベルをもつ高レベル・メッセージとなります。
- 3 以下の情報がログに記録されます。
- ロギング・レベル1の情報。
 - CLプログラムからログに記録されるすべての要求またはコマンド。
 - 要求に関連するすべてのメッセージ、あるいはCLプログラムからログに記録されるコマンド。これらは結果的に、指定された重大度以上の重大度レベルをもつ高レベル・メッセージとなります。
- 4 次の情報がログに記録されます。CLプログラムからログに記録されるすべての要求またはコマンドと、重大度コードが指定の重大度以上の（トレース・メッセージを含む）すべてのメッセージ。
- 注：高レベル・メッセージは、CLプログラムからログに記録される要求またはコマンドを受け取ったプログラムのプログラム・メッセージ待ち行列に送られるメッセージです。

要素2: 重大度

*SAME

ADVANCED JOB SCHEDULERジョブ項目に指定されている値が使用されます。

*JOBCTL

ジョブ制御にメッセージ重大度として指定されている値がこのジョブに使用されます。

*JOB

ジョブ記述の中でメッセージ・ロギング用に指定されている値がこのジョブに使用されます。

0から99

エラー・メッセージがジョブ・ログに記録されることになる最低の重大度レベルを指定します。

要素3: テキスト

*SAME

ADVANCED JOB SCHEDULERジョブ項目に指定されている値が使用されます。

*JOBCTL

ジョブ制御に指定されているメッセージ・テキストの値がこのジョブで使用されます。

*JOB

ジョブ記述の中でメッセージ・ロギング用に指定されている値がこのジョブに使用されます。

*MSG メッセージ・テキストだけがジョブ・ログに書き込まれるか、またはユーザーに表示されます。

*SECLVL

エラー・メッセージのメッセージ・テキストとメッセージ・ヘルプの両方がジョブ・ログに書き込まれるか、あるいはユーザーに表示されます。

*NOLIST

ジョブが正常に完了した場合には、ジョブ・ログは作成されません。ジョブが異常終了した場合（ジョブの終了コードが20またはそれ以上の場合）には、ジョブ・ログが作成されます。ジョブ・ログに現れるメッセージには、メッセージ・テキストとヘルプ・テキストの両方が入っています。

CLプログラム・コマンドのログ (LOGCLPGM)

制御言語プログラムで実行されるコマンドがCLプログラムのメッセージ待ち行列を介してジョブ・ログに記録されるかどうかを指定します。このパラメーターはジョブのロギング・フラグの状況を設定します。CLプログラムの作成(CRTCLPGM)コマンドでLOGパラメーターに*JOBが指定されている場合は、このパラメーターに指定された値が使用されます。LOGパラメーターのその他の値はこのパラメーターに指定された値を一時変更します。コマンドは、要求と同じ方法でログに記録されます。

*SAME

ADVANCED JOB SCHEDULERジョブ項目に指定されている値が使用されます。

*JOBCTL

ジョブ制御中の値がこのジョブに使用されます。

*JOB

ジョブ記述に指定されている値が使用されます。

***YES** CLプログラムのコマンドがジョブ・ログに記録されます。

***NO** CLプログラムのコマンドはジョブ・ログに記録されません。

照会メッセージに対する応答 (INQMSGRPY)

このジョブの実行の結果として送られる事前定義メッセージの応答方法を指定します。事前定義メッセージの応答方法に変更が行われないこと、すべての照会メッセージに応答が必要なこと、省略時の応答が出されること、あるいはそれぞれの事前定義照会メッセージが送られたときにシステム応答リストで一致する応答が検査されることを指定することができます。

*SAME

ADVANCED JOB SCHEDULERジョブ項目に指定されている値が使用されます。

*JOBCTL

ジョブ制御の中の照会メッセージに対する応答の値がこのジョブに使用されます。

*JOB

このジョブで使用されるジョブ記述に指定された照会メッセージに対する応答制御が使用されません。

***RQD** このコマンドの実行時に出されたすべての照会メッセージには、その照会メッセージの受信側による応答が必要です。

***DFT** このコマンドの実行時に出される照会メッセージに回答するために、省略時のメッセージに対する応答が使用されます。

*SYSRPYL

照会メッセージIDおよびメッセージ・データと一致するメッセージID および比較データをもっているこのジョブの実行結果として出される照会メッセージの項目があるかどうかを確かめるために、システム応答リストが検査されます。一致するものがあつた場合にはその項目の応答値が使用されます。そのメッセージの項目がない場合には、応答が必要となります。

ジョブ待ち行列上での保留 (HOLD)

このジョブがジョブ待ち行列に入れられた時に保留されるかどうかを指定します。保留状態でジョブ待ち行列に入れられたジョブは、ジョブ解放(RLSJOB)コマンドで解放されるか、あるいはジョブ終了(ENDJOB)コマンドまたはジョブ待ち行列消去(CLRJOBQ)コマンドで終了されるまで保留されます。

***SAME**

ADVANCED JOB SCHEDULERジョブ項目に指定されている値が使用されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御の中のジョブ待ち行列で保留の値がこのジョブで使用されます。

***JOB**

ジョブ記述に指定された値によって、ジョブがジョブ待ち行列に入れられた時にそのジョブが保留されるかどうかが決まります。

***YES** ジョブはジョブ待ち行列に入れられると、ジョブ解放(RLSJOB)コマンドで解放されるか、ジョブ終了(ENDJOB)コマンドで終了されるまで、保留されます。

***NO** ジョブ待ち行列に入れられた時にジョブは保留されません。

トップ

ジョブ・スイッチ (SWS)

このジョブで使用される8個のジョブ・スイッチ・グループの最初の設定値を指定します。これらのスイッチは、CLプログラムで設定またはテストでき、プログラムの流れを制御するために使用できます。8桁の文字ストリングに指定できるのは0（オフ）と1（オン）だけです。

***SAME**

ADVANCED JOB SCHEDULERジョブ項目に指定されている値が使用されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御の中のジョブ・スイッチの値がこのジョブに使用されます。

***JOB**

ジョブ記述に指定されている値がジョブのスイッチの最初の設定値となります。

文字値 投入されたジョブの最初のスイッチ設定値として使用される8個のゼロと1の組み合わせを指定してください。

トップ

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

投入されたジョブが正常か異常かにかかわらず、実行を完了した時点で完了メッセージが送信される宛先のメッセージ待ち行列の名前を指定します。異常終了が起こった場合には、完了メッセージのヘルプ情報に考えられる原因が示されます。

単一値

***SAME**

ADVANCED JOB SCHEDULERジョブ項目に指定されている値が使用されます。

***JOBCTL**

ジョブ制御の中のメッセージ待ち行列の値がこのジョブに使用されます。

***USRPRF**

完了メッセージは、投入元のユーザー・プロファイルに指定されているメッセージ待ち行列に送られます。

***NONE**

完了メッセージは送られません。

修飾子1: メッセージ待ち行列

名前 完了メッセージが送信されるメッセージ待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** メッセージ待ち行列名を見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

メッセージ待ち行列名を見つけるために現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 メッセージ待ち行列名が入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

会計コード (ACGCDE)

この記述を使用するジョブに使用されるシステム資源の使用状況を記録する時に使用される会計コードを指定します。

***SAME**

ADVANCED JOB SCHEDULERジョブ項目に指定されている値が使用されます。

***JOBCTL**

この記述を使用するジョブの会計コードはジョブ制御から取り出されます。

***JOB**

この記述を使用するジョブの会計コードはジョブ記述から取り出されます。

***USRPRF**

この記述を使用するジョブの会計コードは、ジョブに関連付けられたユーザー・プロファイルから取り出されます。

***BLANK**

この記述を使用するジョブに15個のブランクの会計コードが割り当てられます。

文字値 この記述を使用するジョブに使用したい会計コードを指定します。

トップ

実行優先順位 (RUNPTY)

ジョブ実行の実行優先順位を指定します。実行優先順位は、他のジョブとマシン資源の使用を競合する時のジョブの重要性を表す1（最高の優先順位）から99（最低の優先順位）までの値です。この値はジョブの相対的な（絶対的ではない）重要性を表します。ジョブが再経路指定されると、この値はそのジョブ・クラス内でのジョブの重要性に応じてリセットされます。

*SAME

ADVANCED JOB SCHEDULERジョブ項目に指定されている値が使用されます。

*JOBCTL

実行優先順位はジョブ制御から取り出されます。

*NOCHG

実行優先順位はジョブ処理の開始時に変更されません。

01から99

ジョブが使用する実行優先順位を指定します。

[トップ](#)

初期ASPグループ (INLASPGRP)

投入されるジョブの初期スレッドのための補助記憶域プール(ASP)グループ名の初期設定を指定します。スレッドでは、補助記憶域プール・グループの設定(SETASPGRP)コマンドを使用して、そのライブラリー名スペースを変更することができます。ASPグループがスレッドと関連付けられると、ASPグループ内の独立ASPにあるすべてのライブラリーがアクセス可能になり、それらのライブラリーにあるオブジェクトは通常のライブラリー修飾オブジェクト名構文を使用して参照できます。指定されたASPグループ内の独立ASPにあるライブラリーに加えて、システムASP (ASP番号1)と基本ユーザーASP (ASP番号2から32)にあるライブラリーが、そのスレッドにライブラリー名スペースを形成します。

*SAME

ADVANCED JOB SCHEDULERジョブ項目に指定されている値が使用されます。

*JOBCTL

初期ASPグループはジョブ制御から取得されます。

*CURRENT

現行スレッドのASPグループ名が投入されるジョブに使用されます。

*JOB

ジョブ記述に指定された初期ASPグループ名が投入されるジョブに使用されます。

*NONE

投入されるジョブの初期スレッドはASPグループと一緒に開始されないことを指定します。ライブラリー名スペースには、どのASPグループからのライブラリーも含まれません。システムASPおよび任意の基本ユーザーASPの中のライブラリーのみがライブラリー名スペースに入れられます。

名前

投入されるジョブの初期スレッドのために設定するASPグループの名前を指定してください。ASPグループ名は、ASPグループ内の基本ASP装置の名前です。このASPグループ内のすべてのASPのすべてのライブラリーがライブラリー名スペースに入れられます。

[トップ](#)

例

```
SBMJOBJS JOB(JOB02) TIME('300') DATE('8/19/99')
```

このコマンドは、ジョブJOB02を投入し、それが1999年8月19日の3:00 A.M.に実行されるようにスケジュールします。この例では、DATEはMM/DD/YY形式で表されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

JS使用の依存ジョブの設定 (SETDEPJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用した依存ジョブの設定(SETDEPJS)コマンドによって、先行/後続関係にある先行ジョブの完了フラグを*YESから*NOまたはその逆に変更することができます。完了フラグは、ジョブの処理が完了したかどうかを表します。このコマンドによって、依存ジョブを投入または投入から除外して、そのジョブを完了させるか、完了させないかを指示することができます。

たとえば、毎平日の5:00 P.M.に実行する1日の終わり(EOD)ジョブをセットアップすることができます。EODジョブの完了後の金曜日に実行するようスケジュールされている週の終わり(EOW)処理のための依存ジョブをセットアップすることもできます。EOWCHECK (週の終わりのチェック) と呼ばれる3番目のジョブをセットアップすることができ、その唯一の目的はEODジョブの完了フラグを*YESから*NOに変更することです。このEOWCHECKジョブは金曜日の5:00 P.M.より前に実行されます。これを実行する理由は、EODジョブの完了後の金曜日にEOWジョブを実行できるようにすることにあります。そのためには、次のコマンド・ストリングを使用することができます。

```
SETDEPJS PREDJOB(EOD) SUCCJOB(EOW) COMPLETE(*NO)
```

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PREDJOB	先行ジョブ項目	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: ジョブ	名前	
	要素 2: グループ	名前, *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, *NONE	
SUCCJOB	後続ジョブ項目	単一値: *ALL その他の値: 要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: ジョブ	名前	
	要素 2: グループ	名前, *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, *NONE	
COMPLETE	完了	*YES, *NO	オプション

[トップ](#)

先行ジョブ項目 (PREDJOB)

変更したい先行ジョブ・スケジュール項目の名前を指定します。すべてのジョブに対して1つのジョブを指定しなければなりません。任意にジョブが属しているグループをグループ内でのそのジョブの順序番号と共に指定することもできます。

グループの最初のジョブは順序番号1でなければなりません。後続の順序番号は間隔をあけておき（10, 20, 30など）、必要な場合にはジョブを挿入できるようにしておく必要があります。

これは必須パラメーターです。

要素1: ジョブ

名前 変更したい先行ジョブ・スケジュール項目のユーザー定義名を指定してください。

要素2: グループ

*NONE

ジョブはグループに割り当てられていません。

名前 ジョブが属するグループのユーザー定義名を指定します。

要素3: グループ順序

*NONE

ジョブに割り当てられる順序番号はありません。

1から99

グループ内のジョブの順序番号を指定してください。順序番号は1から99の範囲とすることができます。

[トップ](#)

後続ジョブ項目 (SUCCJOB)

変更したい後続ジョブ・スケジュール項目の名前を指定します。すべてのジョブに対して1つのジョブを指定しなければなりません。代りにジョブが属しているグループをグループ内でのそのジョブの順序番号と共に指定することもできます。

グループの最初のジョブは順序番号1でなければなりません。後続の順序番号は間隔をあけておき（10, 20, 30など）、必要な場合にはジョブを挿入できるようにしておく必要があります。

単一値

***ALL** すべての後続ジョブが、変更するジョブに組み込まれます。

要素1: ジョブ

名前 変更したい後続ジョブ・スケジュール項目のユーザー定義名を指定してください。

要素2: グループ

*NONE

ジョブはグループに属していません。

名前 ジョブが属するグループのユーザー定義名を指定します。

要素3: グループ順序

*NONE

ジョブには順序番号はありません。

1から99

グループ内のジョブの順序番号を指定してください。

完了 (COMPLETE)

先行ジョブの完了フラグを完了(*YES)から未完了(*NO), あるいはその逆に変更するかどうかを指定します。

***YES** 完了フラグを*YESに変更します。

***NO** 完了フラグを*NOに変更します。

トップ

例

例1:先行ジョブの変更

```
SETDEPJS  PREDJOB(JOB10)  SUCCJOB(JOB11)
```

このコマンドは、ジョブJOB10を**処理済み**に設定し、したがって、JOB11をJOB10の後続ジョブとして実行できるように解放します。

例2:週の終わり処理の起動

```
SETDEPJS  PREDJOB(EOD)  SUCCJOB(EOW)  COMPLETE(*NO)
```

このコマンドは、毎平日の5:00 P.M.に実行される1日の終わり(EOD)ジョブをセットアップします。EODジョブの完了後の金曜日に実行するようにスケジュールされている週の終わり(EOW)処理のための依存（後続）ジョブをセットアップすることもできます。EOWCHECK（週の終わりのチェック）と呼ばれる3番目のジョブをセットアップすることができ、その唯一の目的はEODジョブの完了フラグを*YESから*NOに変更することです。このEOWCHECKジョブは金曜日の5:00 P.M.より前に実行されます。これを実行する理由は、EODジョブの完了後の金曜日にEOWジョブを実行できるようにすることにあります。このコマンドはEOWCHECKジョブで使用されます。

トップ

エラー・メッセージ

不明

トップ

JSを使用したステップの設定 (SETSTPJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用したステップの設定(SETSTPJS)コマンド画面では、ロギングの目的でアプリケーション内のステップにラベル付けすることができます。たとえば、バックアップの開始時、またはバックアップの完了時にプログラム内のステップを設定することができます。このステップには「BACKUP BEGINNING (バックアップ開始)」または「BACKUP COMPLETE (バックアップ完了)」のラベルを付けて、LOGを*YESに設定することができます。これにより、そのステップに達するとテキストがJSログに出力されます。

アプリケーションのステップを参照したい場合は、それらを3つの場所に表示することができます。これらの場所には、次のものがあります。

ADVANCED JOB SCHEDULER無線用

活動ジョブの詳細の中にステップが表示されます。「ADVANCED JOB SCHEDULER無線用」メインメニューから「ジョブ」を選択し、次に「活動」を選択し、さらにステップを表示したいジョブを選択します。ジョブのオプション・リストから「詳細」を選択します。ジョブの詳細が表示されます。「ステップ」の横にステップのテキストが表示されます。

DSPJOBJS

DSPJOBJS コマンドから、ステップを表示したいジョブの横にオプション5を入力します。ジョブの詳細が表示されます。「ステップ」の横にステップのテキストが表示されます。

ISERIESナビゲーター

ジョブのステップ情報は「ジョブのプロパティ」ダイアログ・ボックスに表示されます。ジョブを右クリックして、「プロパティ」を選択します。「最終実行」タブに進みます。「コマンド」ステップの横にステップ情報が表示されます。この情報はスケジュール済みジョブ活動にも適用されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TEXT	テキスト	文字値、*NONE	オプション、位置 1
LOG	ログ	*YES、*NO	オプション

[トップ](#)

テキスト (TEXT)

ステップのテキスト記述を指定します。また、ログパラメーターに*YESが指定されている場合は、これもジョブ・スケジューラー(JS)ログに送信されます。

***NONE**

このステップと関連したテキストはありません。

文字値 ステップのテキストを指定してください。ステップがログに記録された場合は、このテキストもJSログに表示されます。

[トップ](#)

ログ(LOG)

ステップのテキストをジョブ・スケジューラー・ログに送信したい場合に指定します。

***NO** ステップをログに記録したくない場合です。

***YES** ステップをログに記録したい場合です。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

JSを使用した配布の送信 (SNDDSTJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

JSを使用した配布の送信(SNDDSTJS)コマンドにより、新規配布メッセージに添付されたスプール・ファイルを宛先またはエスカレーション・リストに送信できます。宛先情報は、明示的に指定するかまたはスプール・ファイルから検索することができます。

注: メッセージの表示およびエスカレーションの停止には、グラフィカル・ユーザー・インターフェースを使用する必要があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RCP	宛先	単一値: *NONE, *SPLF, *ONCALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 1
SUBJECT	サブジェクト	文字値, *NONE	オプション
MSG	メッセージ	文字値, *NONE	オプション
ESCALATION	エスカレーション・リスト	文字値, *NONE, *RCP	オプション
RTNINTNET	戻りインターネット・アドレス	文字値, *RTNDFT	オプション
SPLF	スプール・ファイル	名前, *NONE	オプション
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプション
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
SPLNBR	スプール・ファイル番号	整数, *ONLY, *LAST	オプション
PAGERANGE	送信するページ範囲	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始ページ	1-99999999, <u>1</u>	
	要素 2: 終了ページ	1-99999999, *END	
SLTTXT	ページ選択	要素リスト	オプション
	要素 1: 選択テキスト	文字値, *NONE	
	要素 2: 行番号	0-256	
	要素 3: 開始位置	0-256	
ATTACH	接続名	名前, *SPLF, *NONE	オプション
SUFFIX	接続接尾部	文字値, PDF	オプション
RMVSPLF	スプール・ファイルの除去	*NO, *YES	オプション
TOINTNET	インターネット・アドレス	値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値, *NONE	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
ADRLOC	アドレスの場所	要素リスト	オプション
	要素 1: 行番号	0-256, *TEXT	
	要素 2: 開始位置	0-256, *AFTER	
	要素 3: 長さ	0-60	
	要素 4: テキスト	文字値	
PGM	出口プログラム	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出口プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

トップ

宛先 (RCP)

配布メッセージの送信先としたい宛先を指定します。

注: 宛先の電子メール情報の作成および更新には、グラフィカル・ユーザー・インターフェースを使用する必要があります。

これは必須パラメーターです。

単一値

*NONE

配布メッセージについて指定された宛先はありません。インターネット・アドレスを指定しなければなりません。

*SPLF 宛先情報は添付されたスプール・ファイルから検索されます。

*ONCALL

呼び出し中の宛先だけがメッセージを受け取ります。

その他の値(50までの反復)

名前 宛先の名前を指定します。既存する宛先のリストからの選択をこのコマンドがプロンプト指示している時には、F4キーを押します。

トップ

サブジェクト (SUBJECT)

配布メッセージのサブジェクトを指定します。

*NONE

配布メッセージのサブジェクトはありません。

文字値 配布メッセージのサブジェクトを指定してください。

トップ

メッセージ (MSG)

配布メッセージのメッセージ・テキストを指定します。

注: メッセージを強制的に改行するには、メッセージの中で&Nを使用します。

*NONE

配布メッセージのメッセージ本体はありません。

文字値 配布メッセージのメッセージ本体を指定してください。

[トップ](#)

エスカレーション・リスト (ESCALATION)

配布メッセージのエスカレーション・リストを指定します。

注: エスカレーション・リストの保守には、グラフィカル・ユーザー・インターフェースを使用する必要があります。

*RCP 宛先と関連したエスカレーション・リストが配布メッセージに使用されます。

*NONE

配布メッセージに使用されるエスカレーション・リストはありません。

文字値 配布メッセージのエスカレーション・リストの名前を指定してください。

[トップ](#)

戻りインターネット・アドレス (RTNINTNET)

配布メッセージの戻りインターネット・アドレス（電子メール・アドレスなど）を指定します。

*RTNDFT

電子メールのプロパティに指定された戻りインターネット・アドレスを使用します。

文字値 配布メッセージの戻り電子メール・アドレスを指定してください。

[トップ](#)

スプール・ファイル (SPLF)

配布メッセージに添付したいスプール・ファイルを指定します。

注: グラフィックスを含むスプール・ファイルは使用できません。

*NONE

配布メッセージと一緒にスプール・ファイルを送信する必要はない場合です。

名前 配布メッセージに添付するスプール・ファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

配布メッセージに添付されるスプール・ファイルを作成したジョブの名前を指定します。

単一値

* スプール・ファイルを作成したジョブがこのコマンドを出しました。

修飾子1: ジョブ名

名前 スプール・ファイルを含むジョブの名前を指定してください。

修飾子2: ユーザー

名前 スプール・ファイルを作成したユーザーの名前を指定してください。

修飾子3: 番号

000000から999999

システムが割り当てたジョブ番号の000000から999999までの数値を指定してください。

[トップ](#)

スプール・ファイル番号 (SPLNBR)

配布メッセージに添付されるスプール・ファイルの固有の番号を指定します。

***ONLY**

ジョブ内の 1 つのスプール・ファイルだけが指定された名前を持っています。したがって、スプール・ファイルの番号は不要です。

***LAST**

指定されたファイル名を持つ複数のスプール・ファイルがあった場合は、最高の番号を持つスプール・ファイルが最初に送信されるファイルです。

整数 送信したいファイルと一致するスプール・ファイルの番号を指定してください。

[トップ](#)

送信するページ範囲 (PAGERANGE)

送信するページ範囲を指定します。

要素1: 開始ページ

1 スプール・ファイルの先頭ページ。

開始ページ

送信する開始ページを指定します。

要素2: 終了ページ

***END** ファイルの最終ページが送信する終了ページです。

終了ページ

送信する終了ページを指定します。

ページ選択 (SLTTXT)

配布メッセージに添付するために選択したいスプール・ファイルのページに含まれるテキストを指定します。

注: 選択テキストのページ全体を検索するには、行番号または開始位置を指定しないでください。

要素1: 選択テキスト

*NONE

スプール・ファイルの全体が送信されます。

文字値 配布メッセージに添付したいスプール・ファイルのページ内にあるテキストを指定してください。たとえば、SLTTXT('ACCOUNT - 1234')のように指定すると、ADVANCED JOB SCHEDULERは'ACCOUNT - 1234'を含むページを選択して、ユーザーが指定した宛先に送信します。

要素2: 行番号

0から256

スプール・ファイル内の行番号を指定してください。

要素3: 開始位置

0から256

スプール・ファイル内の開始位置を指定してください。

トップ

接続名 (ATTACH)

配布メッセージ添付に使用される名前を指定します。

***SPLF** 添付ファイル名は、スプール・ファイル (SPLF)パラメーターに指定された名前です。

*NONE

添付ファイル名が指定されていません。スプール・ファイルは、メッセージの本文に組み込まれます。

名前 スプール・ファイル添付文書の名前を指定してください。

トップ

接続接尾部 (SUFFIX)

スプール・ファイル添付文書の拡張子名を指定します。3文字または4文字の拡張子をスプール・ファイルに指定できます。省略時拡張子はポータブル文書形式の添付文書変換を表すPDFです。しかし、拡張子を変更しても、必ずしもファイル自体の実際の形式が変更されるわけではありません。たとえば、拡張子をTXTに変更した場合、メール送信される時には、添付ファイルはテキスト・ファイル添付文書の特性のみを持ちますが、そのファイル自体は実際のテキスト・ファイルにはなりません。これが有効であるのは、電子メールに添付する必要がある実際のテキスト・ファイルがシステム上にある場合だけです。

注: PDFとは別に、TXTは電子メール添付文書に正しく変換される唯一の拡張子です。

PDF 添付文書は、PDF (PORTABLE DOCUMENT FORMAT)ファイルに変換されます。

文字値 スプール・ファイル添付文書のファイル拡張子を指定します。

[トップ](#)

スプール・ファイルの除去 (RMVSPLF)

配布メッセージが完了した後に、スプール・ファイル添付文書をシステムから除去したいかどうかを指定します。

***NO** メッセージが完了した後にスプール・ファイルを除去したくない場合です。

***YES** メッセージが完了した後にスプール・ファイルを除去したい場合です。

[トップ](#)

インターネット・アドレス (TOINTNET)

配布メッセージのインターネット・アドレス（電子メール・アドレスなど）を指定します。

***NONE**

このメッセージのインターネット・アドレスはありません。

文字値 配布メッセージのインターネット・アドレスを指定してください。

[トップ](#)

アドレスの場所 (ADRLOC)

配布メッセージのアドレス情報（電子メール・アドレスなど）を検索するために使用したいパラメーターを指定します。これには、スプール・ファイル内の行番号、開始位置、長さ、および検索テキストが含まれます。電子メール・アドレスは、スプール・ファイルの各ページから抜き出したり、あるいは出口プログラムおよびスプール・ファイルの各ページから抜き出された値を使用して検索できます。たとえば、送り状の電子メール・アドレスを常に3行目の45桁目から40の長さになるように指定できます。あるいは、電子メール・アドレスを長さが40で「EMAIL:」という語の後に見つかるように指定できます。または、顧客のアカウント番号を長さが10で「ACCOUNT:」という語の後に見つかり、抜き出されたアカウント番号用の電子メール・アドレスを出口プログラムが検索するように指定できます。

要素1: 行番号

***TEXT**

アドレス情報を識別するために検索テキストを使用します。

0から256

スプール・ファイル内の行番号を指定してください。

要素2: 開始位置

***AFTER**

開始位置は、位置指定された検索テキストの後の先頭文字となります。

0から256

スプール・ファイル内の開始位置を指定してください。

要素3: 長さ

0から60

アドレス情報の長さを指定してください。

要素4: テキスト

文字値 スプール・ファイル内で検索するテキストを指定してください。

[トップ](#)

出口プログラム (PGM)

ADVANCED JOB SCHEDULERがアドレスを検索するために使用するプログラムを指定します。アドレス情報を検索するためにプログラムに必要なキー情報を位置指定するために、ADRLOCパラメーターが使用されます。このユーザー作成プログラムにはパラメーターが2つ必要です。1つ目は60バイトの文字パラメーターです。これには、行番号、開始位置、および長さに基づいてスプール・ファイルから抜き出された値が入れます。2つ目は256バイトの文字パラメーターです。これは、スプール・ファイルのそのページの送信時に使用する電子メール・アドレスを戻すものでなければなりません。アドレスが見つからない場合は、ブランクを戻す必要があります。

単一値

*NONE

アドレスの検索にプログラムは使用されません。

修飾子1: 出口プログラム

名前 出口プログラムの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL プログラムを見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

*CURLIB

プログラムを見つけるために現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーがジョブに定義されていない場合は、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 出口プログラムが入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

例

```
SNDDSTJS SPLF(QPINVOICE) JOB(*) SPLNBR(*LAST)
MSG('ATTACHED IS YOUR INVOICE.')
```

```
PGM(MYLIB/PGMEXIT) ADRLOC(5 3 10)
```

このコマンドは、電子メール添付文書として現行ジョブにQPINVOICEという名前で最近作成されたスプール・ファイルを送信します。ライブラリーMYLIBの出口プログラムPGMEXITが呼び出されます。アカウント番号はスプール・ファイルの各ページで5行目の3桁目に見つかり、長さは10です。このプログラムは、スプール・ファイルで見つかったアカウント番号の電子メール・アドレスを検索するために呼び出されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

JSを使用した報告書の送信 (SNDRPTJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用した報告書の送信(SNDRPTJS)コマンドを使用することにより、ADVANCED JOB SCHEDULERの報告書配布機能の一部として、指定された報告書配布IDに報告書を配布することができます。このコマンドは、報告書配布IDに指定された報告書を指定の宛先に配布するために、ユーザーの制御言語プログラム内のADVANCED JOB SCHEDULERの外側で使用することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RPTDSTID	報告書配布ID	名前	必須, 定位置 1
JOB	ジョブ	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプション
	修飾子 1: ジョブ	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	

[トップ](#)

報告書配布ID (RPTDSTID)

指定されたジョブによって作成されたスプール・ファイルの配布時に使用される項目が入っている報告書配布IDを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 報告書配布IDの名前を指定します。

[トップ](#)

ジョブ (JOB)

配布されるスプール・ファイルが属するユーザー・ジョブの名前を指定します。

単一値

* 現行ジョブのスプール・ファイルが配布されることとなります。

修飾子1: ジョブ

名前 配布したいプール・ファイルをもっているジョブの名前を指定してください。

修飾子2: ユーザー

名前 ジョブの実行の元になるユーザー・プロファイルを識別する名前を指定してください。

修飾子3: 番号

000000から999999

システムによって割り当てられたジョブ番号を指定してください。

[トップ](#)

例

SNDRPTJS RPTDSTID(GLEOM)

このコマンドは、報告書配布ID GLEOMを使用してジョブを配布します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

JSを使用したグループの開始 (STRGRPJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用したグループの開始(STRGRPJS)コマンドを使用することにより、ジョブ・グループを開始することができます。グループはユーザーが指定する最初のジョブから開始され、そのジョブに続くすべてのジョブが投入されます。たとえば、グループの中に10個のジョブがあって、**ジョブ(JOB)**パラメーターに順序番号5を指定した場合には、STRGRPJSコマンドの結果として、5から10番目までのジョブが投入されます。グループ全体を処理したい場合には、順序番号1をもつジョブの名前を指定しなければなりません。投入時刻およびグループと関連したパラメーター・データを指定することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ項目	要素リスト	必須, キー, 定位置 1
	要素 1: ジョブ	名前	
	要素 2: グループ	名前	
	要素 3: グループ順序	1-99	
TIME	投入時刻	<u>*SCHED</u> , *IMMED	オプション, 定位置 2
PARM	パラメーター	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: パラメーター名	名前	
	要素 2: パラメーター・データ	文字値	

[トップ](#)

ジョブ項目 (JOB)

ジョブの名前、ジョブがメンバーであるグループ、およびグループ内のジョブの順序番号を指定します。パラメーターのすべての要素を指定しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

要素1: ジョブ

名前 グループの中の投入したいジョブの名前を指定してください。

要素2: グループ

名前 開始したいグループの名前を指定してください。

要素3: グループ順序

1から99

グループ中の処理を開始したいジョブの順序番号を指定してください。

[トップ](#)

投入時刻 (TIME)

このグループを投入したい時刻を指定します。グループは直ちに投入するか、あるいは次のスケジュール時刻に投入することができます。

*SCHED

グループは、ADVANCED JOB SCHEDULERによって次のスケジュール時刻に投入されます。

*IMMED

グループは直ちに投入されます。これは、1より大きい順序番号の場合の省略時の値です。

[トップ](#)

パラメーター (PARM)

投入されるグループで使用したいパラメーターの名前を指定します。指定するパラメーターは、ADVANCED JOB SCHEDULERに定義されているものでなければなりません。

このフィールドにはどんな文字を入力しても構いません。妥当性は、プログラム内のパラメーターの使用範囲まで、またはジョブの投入時にはADVANCED JOB SCHEDULERジョブの使用範囲まで検査されます。パラメーター・データの文字数はパラメーター長フィールドに入れられている長さに対応していなければなりません(パラメーターがADVANCED JOB SCHEDULERに追加されている場合)。パラメーター長フィールドより短い長さで入力されたデータは、パラメーターの長さまで空白が埋め込まれて渡されます。先行空白および組み込み空白は、入力された通り正確にユーザーの要求データのパラメーターに渡されます。パラメーター・データの中で使用するアポストロフィ(')は対で使用しなければなりません。アポストロフィを1つしか使用しなかった場合は、そのパラメーターは「パラメーター・データ内の引用符(')は対でなければならぬ」というエラーで拒否されます。続行する前にこのエラーを訂正しなければなりません。

単一値

*NONE

投入するグループの場合には、ここでパラメーターを入力する必要はありません。

その他の値(50までの反復)

要素1: パラメーター名

名前 このグループで使用したいパラメーターを指定してください。

要素2: パラメーター・データ

文字値 パラメーターのパラメーター・データを指定します。

[トップ](#)

例

STRGRPJS JOB(JOB02 APDAILY 20) TIME(*IMMED)

このコマンドは、APDAILYと呼ばれるグループをジョブ順序番号20から順に即時に開始します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

ジョブ・スケジューラー開始 (STRJS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーの開始(STRJS)コマンドを使用することにより、ADVANCED JOB SCHEDULERのジョブ・モニターまたはアプリケーション・ソフトウェアのジョブ情報の収集を開始することができます。ジョブ・モニターを開始した場合に、現在の日付および時刻より小さいスケジュール日付および時刻をもつジョブがある場合には、「モニターの開始」画面が表示されますので、この画面で、スケジュール済みジョブを再検討しないでADVANCED JOB SCHEDULERモニターを開始するか、あるいは保留ジョブを再検討するまでモニターの開始を延期するかを選択することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	オプション	*MONITOR, *CAPTURE	オプションル、定位置 1
DTALIB	データ・ライブラリー	名前, *ALL, *USRPRF, *PROMPT	オプションル

[トップ](#)

オプション (OPTION)

ADVANCED JOB SCHEDULERモニターを開始するか、あるいはジョブ情報の収集を開始するかを指定します。

*MONITOR

ADVANCED JOB SCHEDULERモニターを開始します。

*CAPTURE

アプリケーション・ソフトウェアのジョブ情報の収集を開始します。

[トップ](#)

データ・ライブラリー(DTALIB)

ADVANCED JOB SCHEDULERに対するモニターを開始したいデータ・ライブラリーを指定します。

*USRPRF

現行ユーザーのユーザー・プロファイルに指定されたデータ・ライブラリーが使用されます。

***ALL** 既存のすべてのデータ・ライブラリーが使用されます。

*PROMPT

データ・ライブラリーがプロンプトを介して提供されます。

名前 使用したいデータ・ライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

STRJS OPTION(*MONITOR)

このコマンドはジョブ・スケジューラー・モニターを開始します。モニターは、ジョブ・スケジューラーの終了(ENDJS)コマンドを実行するまで活動状態のままです。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

JSを使用した履歴の処理 (WRKHSTJS)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用した履歴の処理(WRKHSTJS)コマンドによって、指定した完了状況、日付範囲、および順序に基づいてジョブ完了履歴を処理することができます。ジョブ・スケジューラーを使用した履歴の処理コマンドは「履歴の処理」画面を表示し、その画面には、ユーザーがWRKHSTJSコマンドで選択したパラメーターに基づいて、ジョブ情報、ジョブの最後の実行情報および完了状況が表示されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ項目	要素リスト	オプション、位置 1
	要素 1: ジョブ	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	
	要素 2: グループ	総称名, 名前, <u>*ALL</u> , *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, <u>*ALL</u> , *NONE	
STATUS	完了状況	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 7 回の繰り返し): *NORMAL, *ABNORMAL, *ABNGRP, *SBMERROR, *PROCESS, *JOBQ, *CANCELLED, *RESET	オプション
PERIOD	履歴出力の期間	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
	要素 2: 開始日	文字値, *CURRENT, <u>*BEGIN</u>	
	要素 2: 終了時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
要素 2: 終了日	文字値, *CURRENT, <u>*END</u>		
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション名	名前, <u>*ALL</u> , *LCL, *JOBCTL	オプション
SEQOPT	順序付けオプション	<u>*DATE</u> , *JOB, *GROUP	オプション
START	最初に表示する項目	<u>*LAST</u> , *FIRST	オプション

トップ

ジョブ項目 (JOB)

処理したい1つ以上のジョブの名前を指定します。グループおよび履歴を処理したいジョブの対応順序番号を指定することができます。表示をジョブ別、日付別、またはグループ別に配列することができます。実行キーを押すと「履歴の処理」画面が表示されるので、この画面で、指定するジョブ・履歴情報について、いろいろな処置を実行することができます。

要素1: ジョブ

***ALL** コマンドに指定されている基準に適合するすべてのジョブについて、ADVANCED JOB SCHEDULERの履歴を処理します。

総称名 ジョブは総称です。たとえばJOB*と指定すると、名前がJOBで始まるすべてのジョブが「履歴の処理」画面に組み込まれることになります。

名前 処理したいジョブの名前を指定してください。

要素2: グループ

***ALL** 任意のグループのメンバーであるすべてのジョブについて、ADVANCED JOB SCHEDULERの履歴を処理します。

***NONE**

ジョブはグループのメンバーではありません。

総称名 グループは総称です。たとえばGROUP*と指定すると、名前がGROUPで始まるすべてのグループが「履歴の処理」画面に組み込まれることになります。

名前 処理したいグループの名前を指定してください。

要素3: グループ順序

***ALL** すべての順序番号が処理したいジョブに組み込まれます。

***NONE**

ジョブには順序番号がありません。

1から99

処理したいジョブの順序番号を指定してください。

[トップ](#)

完了状況 (STATUS)

ADVANCED JOB SCHEDULER履歴情報を表示する時に使用したい完了状況を指定します。

単一値

***ALL** 完了状況に関係なく、すべてのジョブが「履歴の処理」画面に組み込まれます。

その他の値(7までの反復)

***NORMAL**

ジョブは正常完了で終了しました。

***ABNORMAL**

ジョブは異常完了しました。ジョブが異常終了した理由は、ADVANCED JOB SCHEDULERログを使用して判別できます。

***ABNGRP**

グループは異常終了しました。この完了状況は、前のジョブ・グループが正常に実行されなかったために処理されなかったグループ中のすべてのジョブに適用されます。

***SBMERROR**

ジョブは、ジョブ投入でエラーがあったために正常に実行されていません。投入エラーの例には、ジョブを投入する適切な権限をもたないユーザーがジョブを投入した場合があります。

***PROCESS**

ジョブは現在システムで処理中です。

***JOBQ**

ジョブは現在ジョブ待ち行列上にあり、処理を待機しています。

***CANCELLED**

ジョブは完了する前に取り消されました。

***RESET**

ジョブは手操作でリセットされました。

[トップ](#)

ヒストリー出力の期間 (PERIOD)

表示用にヒストリー項目が選択される期間を指定します。

要素1: 開始時刻および日付

それ以降にヒストリー項目が組み込まれる開始日時を指定します。指定した時刻および日付より前に開始されたジョブはすべて画面には組み込まれません。

要素1: 開始時刻

***AVAIL**

開始日用に使用できる任意の時刻が組み込まれます。

時刻 指定した開始日付に対する開始時刻を指定してください。これにより、どのヒストリー項目を組み込むかを指示します。

時刻は24時間形式で指定し、時刻区切り記号を使用してもしなくても構いません。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4桁のストリング(HHMM)を指定してください。ここで、HH=時、MM=分です。時および分はそれぞれ正確に2桁でなければなりません（必要な場合は先行ゼロを使用します）。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、5桁のストリングを指定してください。ジョブに指定されている時刻区切り記号が時、分、および秒を区切るために使用されます。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合は、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ユーザー・ジョブに指定されているもの以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

要素2: 開始日

***BEGIN**

ヒストリー項目の最初の項目から組み込まれます。

***CURRENT**

現在の日付で、指定された開始時刻と終了時刻の間（指定されている場合）の実行日付が組み込まれます。

日付 開始日付を指定してください。日付はジョブ日付形式で指定しなければなりません。

数値 検索のために使用したい（現在の日付より前の）日数を表す数値を指定してください。たとえば、10など。現在の日付が03/12/01（MM/DD/YYの日付形式）である場合には、ADVANCED JOB SCHEDULERヒストリーの開始日付は03/02/01となります。

要素2: 終了時刻および日付

それ以前にヒストリー項目が組み込まれる終了日時を指定します。指定した日時より後のジョブ完了時刻は画面のヒストリー項目に組み込まれません。

要素1: 終了時刻

*AVAIL

終了日付用に使用できる任意の時刻が組み込まれます。

時刻 指定した終了日付に対する終了時刻を指定してください。これにより、どのヒストリー項目を組み込むかを指示します。

要素2: 終了日

*END ヒストリー情報の終わりまでのヒストリー項目が、画面に組み込まれます。

*CURRENT

実行日付が現在日またはそれ以前となっているヒストリー項目が画面に組み込まれます。

日付 終了日付を指定してください。日付はジョブ日付形式で指定しなければなりません。

数値 検索のために使用したい（現在の日付より前の）日数を表す数値を指定してください。たとえば、10など。現在の日付が03/22/01（MM/DD/YYの日付形式）である場合には、ADVANCED JOB SCHEDULERヒストリーの終了日付は03/12/01となります。

トップ

リモート・ロケーション名 (RMTLOCNAME)

処理したいジョブ・ヒストリーを作成したシステムのリモート・ロケーションおよびネットワーク識別を指定します。

*ALL ネットワーク中のすべてのシステムに対してすべてのジョブ・ヒストリーを選択します。

*LCL ローカル・システムに対してすべてのジョブ・ヒストリーを選択します。

*JOBCTL

リモート・ロケーション名として*JOBCTLを使用して、すべてのジョブ・ヒストリーを選択します。

リモート・ロケーション名

処理したいジョブ・ヒストリーのあるシステムに対応したリモート・ロケーションの名前を指定してください。

ネットワークID.リモート・ロケーション名

システムと関連したネットワークIDおよびリモート・ロケーションの名前を指定してください。これらの値はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式を使用して指定しますが、このNNNNNNNNはネットワークIDであり、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。

トップ

順序付けオプション (SEQOPT)

「履歴の処理」画面は、いくつかの方法で順序付けることができます。

*DATE

「履歴の処理」画面を日付別に順序付けます。

***JOB** 「履歴の処理」画面をジョブ別に順序付けます。

***GROUP**

「履歴の処理」画面をグループ別に順序付けます。

トップ

最初に表示する項目 (START)

最も新しいジョブ・履歴項目を最初に表示するか、あるいは最も古いジョブ・履歴項目を最初に表示するかを指定します。ジョブ・履歴項目が別の表示画面上にある場合には、表示装置ユーザーは画面を上下に移動することによって、それを表示することができます。

*LAST

最後の（最も新しい）ジョブ・履歴が画面の最下行に表示されます。

***FIRST**

最初の（最も古い）ジョブ・履歴が画面の最上行に表示されます。

トップ

例

WRKHSTJS SEQOPT(*JOB)

このコマンドは、すべてのジョブおよびすべてのグループについて、「履歴の処理」パネルをジョブ別に順序付けて表示します。

トップ

エラー・メッセージ

不明

トップ

JSを使用したジョブの処理 (WRKJOBJS)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジューラーを使用したジョブの処理(WRKJOBJS)コマンドを使用することにより、単一のジョブ、ジョブのグループ、またはADVANCED JOB SCHEDULERにセットアップしたすべてのジョブを処理することができます。表示をジョブ別、日付別、またはグループ別に配列することができます。

処理したいジョブを選択すると、「ジョブの処理」画面が表示されます。この画面から、ほとんどのジョブ関連機能を実行することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ項目	要素リスト	オプション、位置 1
	要素 1: ジョブ	総称名, 名前, *ALL	
	要素 2: グループ	総称名, 名前, *ALL, *NONE	
	要素 3: グループ順序	1-99, *ALL, *NONE	
APP	アプリケーション	総称名, 名前, *ALL, *NONE	オプション
SCDCDE	スケジュール・コード	総称名, 名前, *ALL, *DAILY, *CALENDAR, *DATE, *DAY, *NUMDAY, *MINUTES, *ONCE, *MONTHEND, *FIRST, *SECOND, *THIRD, *FOURTH, *FIFTH, *LAST, *FIRSTWRK, *LASTWRK, *ALTERNATE, *TEMP, *NONE	オプション
CAL	予定表	総称名, 名前, *ALL, *NONE	オプション
HDYCAL	休日予定表	総称名, 名前, *ALL, *NONE	オプション
FSCCAL	会計予定表	総称名, 名前, *ALL, *NONE	オプション
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション名	名前, *ALL, *LCL, *JOBCTL	オプション
RPTDSTID	報告書配布ID	総称名, 名前, *ALL, *NONE	オプション
LIBL	ライブラリー・リスト	総称名, 名前, *ALL, *JOBCTL, *JOBID, *SYSVAL, *NONE	オプション
STATUS	ジョブ状況	*ALL, *READY, *DEPW, *HELD, *OMIT, *PROCESS, *JOBQ, *SAVED	オプション
TEXT	テキスト	文字値, *ALL, *NONE, *GENERIC*	オプション
CMD	コマンド要求	文字値, *ALL, *NONE, *GENERIC*	オプション
SEQ	順序	*JOB, *DATE, *GROUP	オプション

トップ

ジョブ項目 (JOB)

単一ジョブ、ジョブの総称グループ、またはすべてのジョブを処理したいことを指定します。総称グループをもつ単一ジョブ、単一グループをもつすべてのジョブなどを指定することができます。

要素1: ジョブ

***ALL** パラメーターの他の指定に適合するすべてのジョブを処理します。

総称名 処理したいジョブの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。名前に*が指定されていない場合には、システムはその名前を完全なジョブと見なします。

名前 処理したいジョブの名前を指定してください。

要素2: グループ

***ALL** 指定した1つ以上のジョブがメンバーとなっているすべてのグループが、「ジョブの処理」画面に組み込まれます。

***NONE**

1つ以上のジョブと関連したグループはありません。

総称名 処理したいグループの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。名前に*が指定されていない場合には、システムはその名前を完全なグループと見なします。

名前 処理したい1つ以上のジョブが入っているグループの名前を指定してください。

要素3: グループ順序

***ALL** 指定した1つ以上のグループのすべての順序番号が、「ジョブの処理」画面に組み込まれます。

***NONE**

このジョブと関連した順序番号はありません。

1から99

1つ以上のグループ内の処理したいジョブの順序番号を指定します。

[トップ](#)

アプリケーション (APP)

処理したいアプリケーションの名前を指定します。

***ALL** このコマンドの他のパラメーター値に適合するすべてのアプリケーション項目が、「ジョブの処理」画面に表示されます。

***NONE**

ジョブはアプリケーションに割り当てられていません。

総称名 アプリケーションの総称名を指定してください。総称名とは、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングで、たとえば、ABC*などです。総称名を指定した場合には、その総称名で始まるアプリケーション名をもつすべての項目が表示されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはこれを完全なアプリケーション名と見なします。

名前 処理したいアプリケーションのユーザー定義名を指定してください。

スケジュール・コード (SCDCDE)

処理したい1つ以上のジョブのスケジュール・コードまたはスケジュール名を指定します。

***ALL** このコマンドの他のパラメーター値に適合するすべてのスケジュール・コード項目が、「ジョブの処理」画面に表示されます。

***DAILY**

処理したいジョブは、*DAILYスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

***CALENDAR**

処理したいジョブは、*CALENDARスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

***DATE**

処理したいジョブは、*DATEスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

***DAY** 処理したいジョブは、*DAYスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

***NUMDAY**

処理したいジョブは、*NUMDAYスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

***MINUTES**

処理したいジョブは、*MINUTESスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

***ONCE**

処理したいジョブは、*ONCEスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

***MONTHEND**

処理したいジョブは、*MONTHENDスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

***FIRST**

処理したいジョブは、*FIRSTスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

***SECOND**

処理したいジョブは、*SECONDスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

***THIRD**

処理したいジョブは、*THIRDスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

***FOURTH**

処理したいジョブは、*FOURTHスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

***FIFTH**

処理したいジョブは、*FIFTHスケジュール・コードを使用した実行がスケジュールされます。5番目のオカレンスがない月の場合は、ジョブは実行されず、選択された曜日に5番目のオカレンスがある次の月での実行がスケジュールされます。

***LAST**

処理したいジョブは、*LASTスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

***FIRSTWRK**

処理したいジョブは、*FIRSTWRKスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

***LASTWRK**

処理したいジョブは、*LASTWRKスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

***ALTERNATE**

処理したいジョブは、*ALTERNATEスケジュール・コードを使用して実行するようにスケジュールされます。

***TEMP**

処理したいジョブは一時的なジョブであり、SBMJOBJSコマンドの処理の結果として作成されません。

***NONE**

このジョブはスケジュール済みジョブではありません。これは、投入を待機中のグループ・ジョブのメンバー、先行ジョブの実行を待機中のジョブ、またはユーザーの手操作による投入を待機中のジョブとすることができます。

注: スケジュール・コード*NONEは、V4R2より前のリリースで使用されたスケジュール・コード*DEPJOBと置き換えられます。

文字値 処理したい1つ以上のジョブは、指定されたスケジュールまたは指定のスケジュールに見つかるスケジュール・コードを使用して実行されるようにスケジュールされます。たとえば、ユーザー定義のスケジュールMONTHLY1はスケジュール・コード*DAYを使用しています。MONTHLY1を指定することにより、スケジュールとしてMONTHLY1あるいはスケジュール・コードとして*DAYが使用されているジョブのすべてがリストされることとなります。

トップ

予定表 (CAL)

処理したいジョブの予定表の名前を指定します。

***ALL** このコマンドの他のパラメーター値に適合するすべての予定表項目が画面上に表示されます。

***NONE**

ジョブには予定表は割り当てられません。

総称名 予定表の総称名を指定します。総称名とは、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングで、たとえば、ABC*などです。総称名を指定した場合には、その総称名で始まる予定表名をもつすべての項目が表示されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはこれを完全な予定表名と見なします。

名前 処理したい予定表のユーザー定義名を指定してください。

休日予定表 (HDYCAL)

処理したいジョブの休日予定表の名前を指定します。

***ALL** このコマンドの他のパラメーター値に適合するすべての休日予定表項目が、画面上に表示されます。

***NONE**

ジョブには休日予定表は割り当てられません。

総称名 休日予定表の総称名を指定します。総称名とは、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングで、たとえば、ABC*などです。総称名を指定した場合には、その総称名で始まる休日予定表名をもつすべての項目が表示されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはこれを完全な休日予定表名と見なします。

名前 処理したいジョブの休日予定表のユーザー定義名を指定してください。

トップ

会計予定表 (FSCCAL)

処理したいジョブの会計年度予定表の名前を指定します。

***ALL** このコマンドの他のパラメーター値に適合するすべての会計予定表項目が画面上に表示されます。

***NONE**

ジョブには会計予定表は割り当てられません。

総称名 会計予定表の総称名を指定します。総称名とは、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングで、たとえば、ABC*などです。総称名を指定した場合には、その総称名で始まる会計予定表名をもつすべての項目が表示されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが組み込まれない場合には、システムは、それを完全な会計予定表名と見なします。

名前 処理したいジョブの会計予定表のユーザー定義名を指定してください。

トップ

リモート・ロケーション名 (RMTLOCNAME)

処理したいジョブ項目を作成したシステムのリモート・ロケーションおよびネットワーク識別を指定します。

***ALL** ネットワーク内のすべてのシステムのすべてのジョブ項目を選択します。

***LCL** ローカル・システムのすべてのジョブ項目を選択します。

***JOBCTL**

リモート・ロケーション名として*JOBCTLを使用するすべてのジョブ項目を選択します。

リモート・ロケーション名

処理したいジョブ項目が入っているシステムと対応したリモート・ロケーションの名前を指定してください。

ネットワークID.リモート・ロケーション名

システムと関連したネットワークIDおよびリモート・ロケーションの名前を指定してください。これらの値はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式を使用して指定しますが、このNNNNNNNNはネットワークIDであり、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。

トップ

報告書配布ID (RPTDSTID)

処理したいジョブの報告書配布名のIDを指定します。

***ALL** このコマンドの他のパラメーター値に適合するすべての報告書配布IDが、画面上に表示されます。

***NONE**

報告書配布IDをもつジョブを画面に組み込みません。

総称名 報告書配布IDは総称です。たとえば、ACT*を指定すると、文字ACTで始まる報告書配布IDが入っているすべてのジョブが組み込まれることになります。

名前 処理したいジョブの報告書配布IDを指定してください。

トップ

ライブラリー・リスト (LIBL)

処理したいライブラリー・リストの名前を指定します。このコマンドのプロンプトが出された時にリストからライブラリー・リスト名を選択したい場合は、カーソルをこのパラメーターに位置付けて、F4キーを押してください。

***ALL** ライブラリー・リストに関係なく、すべてのジョブが画面に組み込まれます。

***JOBCTL**

そのライブラリー・リストが*JOBCTLであるそのジョブだけが画面に組み込まれます。

***JOB**

そのライブラリー・リストが*JOBであるそのジョブだけが画面に組み込まれます。

***SYSVAL**

そのライブラリー・リストが*SYSVALであるそのジョブだけが画面に組み込まれます。

***NONE**

そのライブラリー・リストが*NONEであるそのジョブだけが画面に組み込まれます。

総称名 ライブラリー・リスト名は総称です。たとえば、LIB*を指定すると、文字LIBで始まるライブラリー・リストが入っているすべてのジョブが組み込まれることになります。

名前 画面に組み込みたいライブラリー・リストの名前を指定してください。

トップ

ジョブ状況 (STATUS)

処理したいジョブの状況コードを指定します。

***ALL** 他のパラメーターの指定に適合するすべてのジョブを組み込みます。

***READY**

ジョブ状況が*READYとなっているジョブだけが「ジョブの処理」画面に組み込まれます。ジョブ状況*READYのジョブは、それらの次のスケジュール日時に処理されるのを待機しているジョブです。

***DEPW**

そのジョブ状況が*DEPWであるジョブだけが「ジョブの処理」画面に組み込まれます。ジョブ状況*DEPWのジョブは、他のジョブまたはイベントに基づいて処理されるのを待機しているジョブです。

***HELD**

ジョブ状況が*HELDであるジョブだけが、「ジョブの処理」画面に組み込まれます。ジョブ状況*HELDのジョブは中断されていて、解放されるまで処理されません。

***PROCESS**

ジョブ状況が*PROCESSとなっているジョブだけが、「ジョブの処理」画面に組み込まれます。ジョブ状況*PROCESSのジョブは、その表示の時点で処理中のジョブです。

***JOBQ**

ジョブ状況が*JOBQとなっているジョブだけが、「ジョブの処理」画面に組み込まれます。ジョブ状況*JOBQのジョブは、その表示の時点でジョブ待ち行列上にあるジョブです。

***SAVED**

ジョブ状況が*SAVEDとなっているジョブだけが、「ジョブの処理」画面に組み込まれます。ジョブ状況*SAVEDとなっているジョブとは、将来の使用のために保管されている1回限りのジョブのことです。

トップ

テキスト (TEXT)

処理したいジョブに関連したテキストを指定します。任意の文字ストリングを検索することができ、テキスト中にその文字ストリングが入っているジョブ・スケジュール項目だけが、画面に組み込まれます。

***ALL** テキストに関係なく、すべてのジョブ・スケジュール項目を処理します。

***NONE**

テキストにブランクまたは*NONEが入っているすべてのジョブ・スケジュール項目を処理します。

総称テキスト

総称テキストを指定してください。たとえば、「THE JOB」を指定すると、「THE JOB」という語で始まるすべてのテキストが画面に組み込まれることになります。

文字値 指定したテキスト・ストリングをもつすべてのジョブ・スケジュール項目を処理したいことを指定してください。

トップ

コマンド要求 (CMD)

処理したいジョブのコマンド要求を指定します。任意のコマンド要求、またはコマンド文字のストリングを組み込んだり、あるいはコマンド要求をもたない項目を処理することができます。

***ALL** コマンド要求の有無にかかわらず、すべてのジョブ・スケジュール項目を処理します。

***NONE**

コマンド要求をもたないすべてのジョブ・スケジュール項目を処理します。

総称コマンド

総称コマンド情報を指定します。たとえば、「CALL PG*」を指定すると、「CALL PG」というストリングで始まるすべてのコマンド要求が画面に組み込まれることになります。

コマンド

指定したコマンド要求をもつすべてのジョブ・スケジュール項目を処理したいことを指定してください。

[トップ](#)

順序 (SEQ)

選択したジョブ・スケジュール項目を処理する順序を指定します。

***JOB** ジョブ・スケジュール項目をジョブの順序で処理します。

***DATE**

ジョブ・スケジュール項目を予定表の日付の順序で処理します。

***GROUP**

ジョブ・スケジュール項目をグループの順序で処理します。

[トップ](#)

例

```
WRKJOBJS  SCDCDE(*DAILY)  STATUS(*READY)  SEQ(*DATE)
```

このコマンドは、スケジュール・コードが*DAILYで、状況コードが*READYのすべてのジョブを示す「ジョブの処理」パネルを表示します。ジョブは日付順に表示されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとしします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Software Interoperability Coordinator, Department 49XA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

(C) (御社名) (年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 (C) Copyright IBM Corp. 1998, 2006. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

Advanced Function Printing

AFP

AS/400

CICS

COBOL/400

C/400

DataPropagator

DB2

IBM

Infoprint

InfoWindow

iSeries
LPDA
OfficeVision
i5/OS
Print Services Facility
RPG/400
SystemView
System/36
TCS
WebSphere

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布（頒布、送信を含む）または表示（上映を含む）することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。



Printed in Japan